

NEUE
THERAPIE
FÜR
KINDERPRAXIS

VON

Dr. S. IJIMA.

TOKYO 1908.

VERLAG

VON

DÖBUNKWAN.

序

予歳拾九にして地方醫學校の業を卒へ爾來實地に從事すること于茲二十年其の間毎に困難を感ぜるは兒科の診療に在り察病の難きは言はずもがな藥劑の選擇、用量の斟酌亦予を困しむる勁敵なりき

去夏一日僚友數名と案を圍んで實地診療の困難を語る思ひきや予が難事とせる兒科の診療は又僚友が難事ならむとは於是不肖自ら揣らず公餘

の閑を偷んで本書を成すに至れり敢て大方識者の
 の劉覽に供へむとにはあらず學生及少壯實地家
 に向て聊か同舟相救ふの微志を致さんとするに
 過ぎず
 若し夫れ此小著に依りて予と感を同ふする人士
 の實地診療に際し萬一を裨補するあらば洵に望
 外の光榮なり

明治四十一年十一月中澣湘南の僑居に於て
 著者しるす

凡例

- 一、本書ハ改正第三板日本藥局方及第三板獨逸藥
 局方ノ藥品中小兒科ニ必要ナルモノヲ収録シ
 タルノミチラズ未ダ局方ニ載セラレザルモ其
 ノ功力確實ナル新藥ハ努メテ之ヲ收メタリ
- 二、本書記述ノ體裁ハ「ニグットマン」氏ガ *Alzner's Ver-*
*ordnungen in der Kinderpraxis*ニ倣ヘリ是レ其ノ藥物
 ノ性狀、功用及用量ノ三者ヲ併セ知ルノ便アル
 ガ故ナリ

三、藥物記載ノ列序ハ主トシテ片假名五十音ノ順

ニ從ヘリ其ノ數箇ノ名稱ヲ有スル藥物ハ最モ汎ク行ハルル慣用名ノ下ニ収録シタリ例ヘバ
一昇汞ハ第一格魯兒化汞、過格魯兒化汞、猛汞等ノ化學名アルニ拘ラズ之ヲ昇汞ノ部ニ硫化安息酸ハ薩加林、亞姐篤亞尼利度ハ安智歇武林ノ名ニ於テ記述セルカ如シ讀者搜索ノ際彼是對照ニセラレンコトヲ望ム

四、藥物記載ノ列序ハ片假名五十音順ニ據レリト

雖又之ニ拘ラズ主劑ノ下ニ各種ノ製劑ヲ從屬セシメタルモノ往々之レアリ例ヘバ沃度ノ下ニ其ノ製劑タル沃度加里、沃度丁幾、含糖沃度鐵等ヲ「ソマトーゼ」ノ次ニ鐵「ソマトーゼ」、牛乳「ソマトーゼ」ヲ記述セルガ如シ

五、本書中用量ヲ示スニ〇、〇二、一〇、一〇〇、五ノ如ク豎線ヲ用イタル處尠ナカラズ是レ〇、〇二、五乃至〇、一瓦乃至〇、五瓦ノ略ニシテ其ノ最小量ハ一、二歳ノ稚兒ニ中量ハ五六歳ノ幼兒ニ大量

六十歳以上ノ童兒ニ適應ス可キ分量トス望ム
 ラクハ讀者意ヲ茲ニ致サレシムトナ
 六、本書ノ處々ニ散見スル一●●一〇若ハ一●●
 一〇〇ハ一分ト十分若ハ一分ト百分ノ比例ヲ
 示セルモノトス例ヘバ重曹水一●●一〇〇ハ
 重曹一分水百分ノ比例ヨリ成レルモノタルガ
 如シ

目次

| | | | |
|------------------------------------|-----|---|----|
| 第一編 總論 | 久之部 | 一 | 七 |
| 第一章 小兒の特性を論し 併て小兒科醫たるの資格 に及ぶ | 計之部 | 一 | 六 |
| 第二章 治方の通則 | 古之部 | 一 | 六 |
| 第二編 各論 | 佐之部 | 一 | 七 |
| 阿之部 | 志之部 | 一 | 八 |
| 伊之部 | 須之部 | 一 | 八 |
| 宇之部 | 勢之部 | 一 | 九 |
| 衣之部 | 會之部 | 一 | 九 |
| 於之部 | 太之部 | 一 | 九 |
| 加之部 | 知之部 | 一 | 一〇 |
| 岐之部 | 手之部 | 一 | 一〇 |
| | 登之部 | 一 | 一〇 |
| | 那之部 | 一 | 一一 |
| | 仁之部 | 一 | 一一 |

目次

| | |
|-----|-----|
| 奴之部 | 一五 |
| 農之部 | 二五 |
| 波之部 | 二五 |
| 比之部 | 二三 |
| 婦之部 | 二三 |
| 邊之部 | 二六 |
| 保之部 | 二三 |
| 滿之部 | 二三 |
| 美之部 | 二四 |
| 女之部 | 二四 |
| 毛之部 | 二五 |
| 也之部 | 二五 |
| 與之部 | 二四〇 |
| 良之部 | 二四〇 |

附 錄

| | |
|------------------------------------|-----|
| 利之部 | 一四六 |
| 禮之部 | 一五一 |
| 路之部 | 一五三 |
| 和之部 | 一五三 |
| 第三編 | |
| 丙服藥の用量一覽 | 一五四 |
| 第一章 生下の兒(初生兒 始孩又啞)に對する一般 の注意 | 一六一 |
| 第二章 初生兒及乳兒の生 理 | 一六五 |
| 第三章 小兒病の診査 | 一八五 |
| 第四章 初生兒及嬰兒の看 | |

目次終

目次

| | |
|------|-----|
| 護 | 二〇〇 |
| 藥名索引 | 一 |
| 病名索引 | 二〇 |

臨 床 兒 科 醫 典

飯 島 茂 著

第二編 總論

第一章 小兒の特性を論じ併

て小兒科醫たるの資格に及

小兒に治療を施さんとするには豫め其の特性に通曉し而して又自ら小兒科醫たるの資格を具備せざる可らず次に之を論せん

(其の一) 小兒の身體組織は幼若にして成人の如く身神日常の動作は未だ之を營むこと能はず又健康を傷害する諸種の毒物例へば酒、煙草、咖啡等は未だ之を用ひず是れ其の成人と趣を異にする第一要點にして小兒治療の際吾人の特に注意せざる可らざる處

のものなり

(其の二) 小兒は不斷發育成長す此特殊なる關係は其の治療に際し必ずしも成人に於ける制裁を要とせず却て其の生理及精神の特異状態に適合せんことを求む即ち精神及神經の鋭敏なる、呼吸氣道の狹隘なる、喀出力の微弱なる、消化器の抵抗力弱き等は上記の關係に連繫する小兒の特性にして治療の際慎重の注意を加ふべきものなりとす

(其の三) 凡そ疾病治療の際殊に小兒科に於て努むべきは比較的尙ほ未だ健全なる自然療手 *naturliche Heilmitteln* の發動を妨害せざるに在り

(其の四) 小兒治療の際注意して避くべきは其の精神感動なりとす何となれば之れが爲めに治療を施す

總論 小兒の特性を論じ併て小兒科醫たるの資格に及ぶ

能はざることをあればなり強制及威嚇は極めて稀に非常の場合に施すべきのみ

(其の五)一たび小兒の心に恐怖を懐かしむるときは其親昵を得んと甚難く渠等は醫師を見るや直に號泣逃避せんとす是れ實に——そう云ふことを聞かぬと今度先生がいらして針をなさいますよ、そして苦い「おっく」を下さいますよ!!と無邪氣なる幼な心に朝暮醫師の恐るべきことを教へ慣らされたる中等以下の小兒に於て見るのみならず往々亦上流の小兒に於ても之を見ることあり吾人の之に處する寛容と忍耐と威嚴とを以てし或は剛或は柔、時には謹嚴時には諧謔而して小兒の心を緩和服従せしむるにあるのみ

夫の執拗吩咐に従はず號泣狂躁敢て診察を肯んぜざる頑強の兒に酬ゆるに苟も勵聲白眼を以てするが如きことあらは是れ絶對的に小兒科醫たるの資格なき者なりと謂つ可し

る者に強て食餌を勸むるは是ならず然れども又飢餓を訴ふる小兒に對し熱性疾患たるもの故を以て猥りに食餌を制減するも非なり故に小兒科醫たらん者は食政に關し患兒の母氏に品種の選擇と調理法の概要とを指示し且之に關聯する事項の質疑に答うるの智識を具備せざる可らず

(其の九)先づ或る藥物の功力を水陸兩棲動物たる蛙に試験し而して其の蛙の體重と將に之より試みんとする人類の體重との差を秤重し單に此體重の關係を基礎として藥物の分量を算出したる數學的規定は從來人類に幾多の不幸を蒙らしめたり殊に小兒に於いて然り是れ小兒就中一歳未満のものは或る藥物例へば吐根に對しては比較的其の多量に耐ゆるも阿片劑に對しては其の微量にだも耐えざる等の特異性強きに因る此故に未だ使用の經驗なき劇毒藥を生面の小兒に處せんとするには「ビーアルト」氏が Biedert 主張する如く丁年以下の年齢を二十分して分母數と

總論 小兒の特性を論し併て小兒科醫たるの資格に及ぶ

(其の六)凡て小兒に與ふる藥劑は佳味ならしめざる可らず假令佳味ならしむる能はざる迄も厭ふべき臭味を脱却せしめざる可らず味の辛きもの苦きもの鹹きもの臭の劇しきもの悪しきものの如きは奏功好し著明なるも多くは之を用ゆるに由なし

(其の七)疼痛ある治療は小兒科の一大難關にして麻醉藥の發見せられざりし時代に在りては其の治療を猶豫せざる可らざりしも藥學の發達は此難關に對する活路を開き近年に至りては全身麻醉の他局處麻醉も亦汎く應用せらるるに至れり然れども麻醉殊に全身麻醉は往々危険あるを以て熟練なる助手あるにあらざれば輕率に之を診斷治療に使用するは慎むべし

(其の八)小兒科醫の常に注意すべきは患兒が消化器の状態及過敏性に在り小兒の消化器は熱に對する抵抗力甚弱し故に小兒の有熱疾患に際しては固より食餌の制限を必要とすれども食慾の缺乏若は減損あ

なし小兒の年齢を採て分子數となし以て其の用量を算出するを可とす此法に従へば三才の小兒に適する用量は $\frac{1}{2}$ 即ち大人用量の十分の一にして五才の小兒は $\frac{2}{3}$ 大人量の四分の一を適量となす小兒科に於ける投藥第一義の要諦は初めより決して大量を與へず豫期の奏功なく且其の無害なることを認めたる時漸く増量するに在り今左に各年齢に於る劇毒藥の用量を表示せん

- 一ヶ月乃至三ヶ月 $\frac{1}{10}$ 大人用量の四分の一乃至三十分の一
- 四ヶ月乃至十二ヶ月 $\frac{1}{5}$ 二十分の一
- 二歳 $\frac{1}{4}$ 十分の一
- 三歳乃至四歳 $\frac{1}{3}$ 七分の一乃至五分の一
- 五歳乃至七歳 $\frac{1}{2}$ 四分の一乃至三分の一
- 八歳乃至十歳 $\frac{2}{3}$ 五分の二乃至二分の一

分の一

十一歳乃至十五歳 $\frac{1}{2}$ 分の二乃至四分の三

(其の十)製薬化學の進歩は年々多數の新薬をして功力確實而も萬能藥たりとの賛辭を貰ふて市場に上らしむと雖半歳の間能く當初の名聲を保持するものは罕なり故に小兒科に在りては斯る流行的藥物は信用すべき人士の報告出でたる後にあらざれば猥りに使用せざるに利ありとす殊に一年以下の小兒に在りては藥物の功力よりも食餌其の他の攝生法を必要とすること多し

第二章 治方の通則

上文既に小兒の特性を記し了れり之より以下吾人は治を施すに際し注意せざる可らざる藥品の選擇、分量、用法より一般の療法に關し臨床上必要なる通則を記述せん

第一、解熱療法

體温の上昇は必竟熱の一症状に過ぎず故に熱性疾患の際其の病原の何たるを問はず對症療法として猥りに解熱療法を施すは當を得たるものにあらざるのみならず又其の效果も人の囑望に副はざること多し實驗家の所説に従へば體温の上昇は病原菌の發育及毒性産物の發生を抑制し且組織の抗熱力を衝動するものなりと此見解に基き小兒の疾患には濫りに解熱療法を施さざるを可とする者多し「フキツシユル」氏 Fische は高熱持續して生命危き恐れあるにあらざれば解熱療法を施すへからず體温ハ攝氏四十度以上を以て解熱療法を施すべき最下限となすへし但體温四十度に上らざるも神經症狀即ち不安、人事不省、亢奮及營養の障害現はるる者に在りては早く解熱法を試む可し然れども尙ほ可成緩和の方法を選べ然らずんば熱に優るの害あることありと云へり

解熱療法には内外の二方あり甲は藥物の内服を指し乙は水治の外用を稱す小兒の解熱療法としては乙法優れりと雖惜むらくは實施上の不便多し

(甲) 外的解熱法

(a) 簡便なる外的解熱法は濕布纏絡法 Die Packung des Körpers in nasse Tücher なりとす此法は室温若は攝氏二四乃至二八度の温水に厚き布片を浸し能く絞りにて卓上に擴延し患兒を此上に仰臥せしめて快手腋下より大腿に至る迄濕布を以て纏包し直に襯衣を其の上に著せしめ豫め温めたる聲中に臥せしむるなり此法は解熱の功大ならずと雖短時間内に數回反覆交換することを得べし

(b) 濕布纏絡法に類似したる方法にして患者に快感を與ふるものは「ブリースニツ」氏纏帶 Priesnitz Packung なりとす此纏帶の纏絡法と異なる點は濕布の上を蔽ふに不透水性布片を以てし長時放置して屢交換せざるに在り、「フィッシュユル」氏は濕布を蔽ふに

不透水性布片を以てするときは皮膚の蒸發を妨ぐるが故に可ならずと云へり

(c) 局部及全身冷水灌注法 Die kühle Waschung am partiellen oder ganzen Körper も亦解熱法の一として用いらる水温は攝氏十八度を以て適度とす局處法としては頭部及胸部に灌注するを常規とす全身法は必要に應じて之を行ふ凡て灌注は毎二時若は之より長き時間の後に反覆することを得べしと雖此法施行の爲に患兒の身體戰慄するとき直に之を中止し豫め温めたる聲裡に臥せしむるを要す

上記の解熱法は凡て一定の注意を以て施行せざるべからず殊に第一回の處置に就ては醫師自ら之を施行するを要す是れ已に斯科の大家「ヘノッホ」氏 Henoch が主張せる處にして方法の全部を擧げて患家に放任するは危険なきにあらず就中冷水浴に於いて然り「ブランド」Brandt「ホーゲル」Vogel 二家は冷水浴を避けて微温浴を推奨し「チームセン」氏 Ziemssen は

漸次水溫を低下する微温浴及頭部に冷水を灌漑する
 微温浴の賞用すべきことを提唱せり吾人の實驗に依
 りば邦人は冷水浴に適せず微温浴に適するが如し
 凡て浴の施行中は患兒の脈性と顔貌とは兩々相比例
 して注意を怠る可からず孰れの場合に在りても亢奮
 藥の準備を必要とす患兒若し肌膚粟を生し顔青色と
 なり脈搏細小となるが如きことあらば直に浴を中止
 し速に拭乾摩擦して聲中に移さざる可らず
 持續する不眠殊に腸空扶斯の此症に對しては夜間の
 微温浴（浴温攝氏の三四—三五—三六度、浴の時間
 五—十分）著功あり
 纏絡と浴とは交互に之を行ふことを得べし此法は熱
 の頑固なる症に適す
 纏絡及浴の熱に對する功力は微弱にして僅に十分の
 一二度を下降せしむるに過ぎざることありと雖其の
 精神をして安靜明確ならしむる効果は著明なるを常
 とす

(乙) 内的解熱法

解熱藥の服用之に屬す
 解熱藥を小兒に與ふるには常に嚴密なる注意を要す
 是れ小兒は此種の藥物に耐ゆるの性甚弱く服用後、
 赤班、麻疹様、猩紅疹様、蕁麻疹發疹及劇甚なる嘔吐
 等を發するのみならず心臓衰弱、消化障害等を來す
 こと稀ならざればなり
 解熱藥の用う可きは安知必林、規尼涅、歐比尼涅、
 アスピリン、サリチリン、ラクトフェニ、
 亞斯必林、撒里必林、刺苦篤布尼涅、多爾林、安智
 歇武林、布那設沈、必刺美屯、撒里矢兒酸曹達等な
 りとす
 解熱藥は一般に小兒の年齢に相當する「デチ」式を一
 回量として用う一日の量此五倍を超ゆるを許さす要
 するに藥量は必ず少量より用い初む可し
 藥劑の形態は幼き者には水劑若は散劑、長したる者
 には「オブラート」劑或は丸劑として與ふことを得べ
 し皮下注入ハ膿瘍形式の危害あるか故に施さざるを

可とす「トロワツッキー」氏「Thoma」は皮膚擦入を推
 奨したりと雖其の功疑はし坐藥及洗腸亦賞用すべき
 にあらず
 凡て口腔より解熱藥を攝取し能はざる症に在りては
 其の他の藥用法例へば洗腸、皮膚擦入等は多くは功
 なきに由り寧ろ水治法を施すを以て優れりとす
 熱性疾患に際しては酒精は倫素として小兒にも亦多
 量に與ふ可し只小兒は成人の多く分量を規則正しく
 與ふること能はざる缺點あり
 ○心臓藥たる實斐多利斯も亦熱性疾患に用いらる即
 ち患兒の年齢に従ひ一日二回其藥〇、〇五乃至〇、
 一を浸として與へ或は一日三回患者の年齢に相當す
 る滴數の丁幾を投し或は又散劑として用うと雖惜む
 らくは成人に於けるか如く其の奏功確實ならず却て
 容易く不正脈、嘔吐等の不快なる副作用を發して後
 服を中止するの已むを得ざらしむ
 實斐多利斯より害少き代價藥は「ストロフハンツス」

丁幾なりとす五歳以上の小兒に一日三乃至四回一
 三滴服用せしむ本劑は五歳以下の小兒には使用せら
 れざるを例とす
 以上の他心臓藥として最長く使用せらるるは安息香
 酸那度留母咖啡涅及枸橼酸咖啡涅にして年齢に應じ
 日量〇、〇三乃至〇、〇六を與ふ「ビーデルト」氏
 Beyer は硫酸斯巴爾帝尹を賞讃し六歳の兒には毎
 四時〇、〇二、十三歳の兒には毎三時〇、〇六を與へ
 たり利尿素は心臓に作用すること遙に利尿作用に及
 ばず用量は年齢に應じて一日〇、二五乃至〇、五と
 す

第二、麻醉藥Narcotium

生後九ヶ月以内の小兒には總へて麻醉藥の内服を處
 すべからず九ヶ月以上十二ヶ月以下の小兒には慎重
 の注意を以て少量を用う可し
 麻醉藥非沃斯矢亞密涅及別刺敦那は最早く比較的大
 量を與ふことを得即ち生後十乃至十二ヶ月の小兒

總論 治方の通則 麻醉藥 吐劑

に一日二乃至三回〇、〇一を用うることを得べし
 (「フイツシユル」氏)阿片劑殊に莫爾比涅、古埤尹、
 邊魯尹、賓雄尼涅等に對しては小兒は之に耐ゆるの
 性弱し故に一年未滿の小兒に此種の藥劑を處するに
 當りては嚴密なる注意を以てせざる可らず「フイツ
 シユル」氏 Fischlは二乃至六歳の少兒に對する莫爾
 比涅、邊魯尹の一日量は〇、〇一〇、〇三磷酸古埤
 尹は此倍量を以て適當なりとせりと雖邦人の小兒に
 は共に多量に過く注意すべし
 哺乳兒は臭素邦度留母及抱水格魯刺兒の大量に耐ゆ
 此二者は又洗腸(一回〇、五一一、〇但三歳前の小
 兒には一、〇以下を處すべし)として屢々用いらる
 催眠藥は小兒殊に幼兒には用いざるを可とす代價と
 して他の方法例へば微温浴を取らしむる等優れりと
 す催眠藥として用う可きは「トリオナル」ズルフ
 オナル「アルミールセドラート」等にして年齢に
 従ひ一回〇、〇五一一、〇を與ふ「ヒュルスト」氏

Furst 五〇%の「ドルミオール」溶液〇、五
 一、〇を推奨せり
 局處麻酔藥として用うべきは「クロールエチール」な
 り古加尹及莫爾比涅の合劑は其の應用に當り甚大の
 注意を要す

第三、吐劑 Brechnittel

昔時吐劑の主として常用せられたる消化器の急性疾
 患及格魯布も今日に於ては他の進歩したる療法に施
 さるるに由り吐劑の治療上に於ける領域は著しく狭
 小となれり
 吐劑として常用せらるるは吐酒石を配伍したる吐根
 舍利別なりとす即ち〇歳乃至二歳の小兒には〇、〇
 五一一、〇二歳乃至十歳の小兒には〇、二一一〇、二
 の吐酸石を伍したる吐根舍利別を毎五分時一茶匙宛
 與へて奏功あるに至る可し
 長したる小兒には吐根末〇、五吐酒石〇、〇五を散と
 なし毎十五分時に與へ功あるに至る

第四、下劑 Abführmittel

近年に至り下劑も亦吐劑の如く使用の範圍狹縮せら
 れ洗腸法及下腹の按摩法等に由りて代理せらるるこ
 と少なからず
 下劑として一歳以下の幼兒に適するは「フリーフェラ
 ンド」氏散 Eufelandische Pulver(苦、土大黄散)に
 して日に二乃至三刀尖(邦人には半刀尖乃至一刀尖
 にて足る)與ふことを得べし又豌豆大乃至蠶豆大
 の滿那を牛乳に混じたるものも用い易し味佳にして
 小兒の尤好む處のものは蜜水と水製大黃丁幾の合劑
 なり此ものは一二時毎に一茶匙宛與ふべし
 〇歳一二歳の小兒に適する下劑は大黃舍利別、菊蔞
 菜舍利別、滿那加旃那舍利別、大黃丁幾等にして半
 乃至一茶匙を一回量として用うべし
 二歳以上の小兒には複方旃那浸(二一三時毎に一茶
 匙一「小兒匙」)「グリロン」氏等滿林度(半酒杯)「チャ
 ムバルド」氏茶(一酒杯)複方甘艸散(一刀尖)人工

消化器を害すること少なき吐劑は吐根の單用に在り
 幼き兒には舍利別として用い長したる者には浸(三、
 〇一六〇、〇)として與ふ可し
 硫酸銅は味の佳ならざると作用の峻劇なるとに由り
 て之を用いざるを可とす味佳にして奏功の確實なる
 は吐酒石と海葱醋蜜の合劑にして毎五分時一茶匙乃
 至一小兒匙つゝ功有るに至る迄服さしむるに在り
 「フォン、ヅッシェ」氏 v. Dusch は鹽酸「アポモルヒ
 ネ」を推奨し二歳以下は〇、〇〇〇八一〇、〇〇一
 五、二歳乃至十歳は〇、〇〇二一〇、〇〇五を一時間
 内に一一二筒注射せり
 吐劑は精神の潤滑強度なる者には與ふ可らず是れ吐
 逆の際錯喉に由りて救ふ可らざる危険を將來するこ
 とあればなり又一般に吐劑は虚脱を起し易きを以て
 其の奏功ある迄用い難きことあり現今は彼の中毒及
 消化器急性疾患には多く「エプスタイン」氏 Epstein
 の胃洗滌法を施し吐劑を用うることを諒し

總論 治方の通則 下劑 消毒藥

加爾斯泉鹽(半茶匙)水及單舍利等分の加刺刺サク
 ラダ流動越機斯(一日一乃至三回半茶匙)「セルマイ
 ン」茶(一酒杯)等適當とす
 丸藥は一般の小兒には適せずと雖別刺敦那を配伍せ
 る通利丸 *Philinae aperientes* は通利の際腹痛を起
 さざるを以て稍長じたる小兒には賞用に値す
 苦味水は腸を刺戟するを以て小兒には用いざるを可
 とす
 大黃錠及蓖麻子油膠漿は年長小兒に適する緩下劑な
 りとす幼兒に蓖麻子油を與ふるには糖及卵黃と共に
 之を牛乳に混じり或は蓖麻子油芳香劑となし或は乳劑
 (一〇、〇—二〇、〇 蓖麻子油を equal 比亞護膜或卵
 黃と水とを以て一〇〇、〇—二〇〇、〇の乳劑とな
 し茶匙或は)となすべし
 食匙宛與ふ)となすべし
 甘永は急速の奏功と腸管の消毒とを要する時に適す
 用量は年齢に従ひ〇、〇〇五—〇、〇二を一包となし
 毎時一包宛與へて特異の甘永便あるに至る可し
 「デルフレル」氏 *Dittler* が賞用せる乾酪は通利の

功疑はし
 頑固の便秘には乳糖一—二茶匙を水に溶解し毎朝服
 用せしむる時は効果あり近時釀母及培養したる大腸
 菌を推奨する者ありと雖吾人は其の實驗を缺く
 下劑は少しく長く使用する時は(一)慣了を來して其功
 減弱し(二)胃腸を障害す故に下劑は屢々交換使用して
 習慣を爲さしめず常に少量を以て功力あらしむるを
 要す彼富豪家の年長なる小兒に於て見る頑固なる便
 秘の尤屢なる原因は多量に持長せる牛乳攝取に在
 りとす此症に對しては「クセルニー」氏 *Czerny* が
 反覆指示したる多量の新鮮なる植物の攝取尤功有
 りとす
 第五 消毒藥 *Antiseptica*
 消毒藥は危險なる中毒症を起すを以て小兒科に於て
 は用いらるゝこと多からざるなり
 石炭酸、「リゾール」、「クレオリン」及此他の兒科醫導
 體の如きは小兒科に於ては之を用いざるを可とす

昇永は石炭酸に比すれば中毒を起し易からずと雖
 〇、一%より濃厚なる液を使用す可からず
 「レゾルチン」も亦重症の中毒を發す「チモール」、
 撒里失兒醜、硼酸溶液は中毒を起すこと少しと云ふ
 も疑はし有功にして中毒の虞なく賞用に値するもの
 は只夫れ醋酸礬土なるか撒布藥としては那布答林を
 推す可し「ホツホツンゲル」氏 *Hochsinger* が沃度
 仿謨使用後に於ける重症濕疹の發生を報告せし以來
 「デルマトール」、「エクセルフォルム」、「オルトフォ
 ミム」、「アイロール」、「ウイオフォルム」等を賞用する
 人多し
 止血撒布藥としては「ゲルマイン」氏 *Germain* は
 安知必林綿(一—五)の壓抵を「フィンケルスタイ
 ン」氏 *Finkelstein* は格魯兒石灰を推薦せり
 被刺戟性なる小兒皮膚の防護藥としては撒里失兒醜
 華攝林、硼酸華攝林、「ワゾーゲン」軟膏、巴拉賓軟
 膏、刺納林等を用う可し

總論 治方の通則 亢奮藥、強壯藥

第六 亢奮藥 *Excitantia*

小兒の亢奮療法は大人の夫れと異なる處なし
 亞爾簡保兒を小兒に用うるに就ては之を不可なりと
 するものあり曰く(一)急慢二性の亞爾簡保兒中毒は小
 兒に本劑を使用するに由りて増加す(二)亞爾簡保兒の
 榮養及溫熱作用は疑はし故に小兒に用うるは可なら
 ずと此言眞に理あり然れども其の量大ならず其持續
 久しからざるに於ては假令之を用うるも中毒の虞な
 く又衰弱の際峻烈なる酒精劑例之「トカヤ」酒「シエ
 リー」酒「タラゴン」酒及之に類似の酒類を滴服せ
 しむるときは虚脱症の危險を避くることを得せしむ
 故に亞爾簡保兒の使用を絕對に非認せんとするは是
 ならず要するに小兒に對する亞爾簡保兒の使用は臨
 機應變にして亢奮藥としては少量の「コニヤック」
 を牛乳に滴して與ふるを尤良とす
 強き咖啡及茶は小兒にも亦缺く可らざる必要の品な
 り症に由りては羯布兒、麝香、安母尼亞苗香精等は

口より與へ依的兒、羯布兒油、麝香丁幾等は皮下注
入として用う「オツムンハイメル」Oppeheimer
「ハーゲンバツ」Hagenbach「ブルックハルト」
Bruckhardt 諸家は酸素の吸入は大に亢奮の功ある
ことを主張せり温水纏絡、芥子浴等又用う可しと雖
強烈なる皮膚刺戟作用を有する芥子紙、發泡膏等は
之を用いざるを可とす

第七 強壯劑 Robornin

茲に謂ふ所の強壯藥は一時身體増強の功力ある者に
あらずして慢性病者の體力保持に功ある處のものな
りとす
本劑の第一線に屬するものは消化し易き榮養品即ち
牛乳、鵝卵、百布頓、焙肉(生肉は焙肉より壓力な
りと雖寄生虫の危険あ
り故に用
に適せず) 豆素 Leguminosen 動物性乾酪の製
劑(「ヌトロロゼ」、「ソマトロゼ」、「トロホ」
「ニプロラスモン」、「ハイデン」氏養素等)にして
葡萄酒及麥酒も亦茲に屬す可し多數の含鐵酒精劑は
臨床上の功果不十分なるに拘らず尙ほ且強壯藥とし

て用いらる

諸種の鐵鹽泉及鐵化合物(「フルエルリン」、「フエルラ
チン」、「フエルザ」
併ニ諸多ノ鐵鹽)亦強壯藥に算せらる「フイツシ
ユル」氏 Fischl に依れば諸種の「ヘモクロビ
ン」製劑は強壯の功なく諸種の規那製劑の功力は
未定に屬すと反之苦味劑より製出せられたる鹽酸
「オレキシシン」は食慾を振起するの功著し宜しく食
前一時間〇、〇一乃至〇、〇一五を與ふ可し
加爾兒私泉「ミユール」泉「シユロツス」泉(毎朝空腹
食匙を服し或は之より
製したる茶劑を用う)は屢々食慾振起に對して良
功を奏することあり

第八 水銀劑及其他母乳に移行する藥物

水銀劑は先天梅毒の治療に賞用せらる但此に注意す
べきは水銀及其他の藥物は母乳を通して排泄せら
るゝや否換言すれば母氏の服用したる藥物の乳汁中
に排泄せられて小兒に達し各特異の藥物作用を發現
するか否かの問題にして「チーミツヒ」氏 Thiamich

は之に關する有益なる報告を公にせり
諸種の藥物中撒里矢兒酸、貌魯母、沃度及水銀劑の
乳汁移行は確實なるも一二の動物試験の成績に依
れば阿片、莫爾比涅、亞篤魯比涅、亞爾箇保兒の乳
汁移行は確實ならず然れども恐くは之れあらん故に
吾人は孰れの場合に在りても梅毒性小兒の治療は母
氏に沃度劑を服せしむるに由りて企畫することを得
べしと雖婦人の授乳期間に於ける阿片及酒精劑の攝
取は慎重の注意を以て監視せざる可からず

第九 人工浴 Künstliche Bäder

人工浴中小兒に尤賞用せらるゝは食鹽浴なりとす此
浴は二乃至三基瓦の食鹽を五十律篤兒の溫湯に混し
たるものにして必要に際しては之に四分の一乃至二
分の一律篤兒の母油を加ふることあり
硫黃浴は稀に用うるに過ぎず硫化加里二〇、〇乃至
三〇、〇を一浴中に投すべし
泥浴は二五、〇—五〇、〇の沼泥土を一浴水に加へた

るもの糊皮浴は「バギンスキー」氏 Baginsky に由
りて落屑疹に賞用せらる

粘土浴は〇、五乃至一、五基瓦の粘土を布囊に入れ一
二律篤兒の水中に煮沸し此浸液を浴水中に混じたる
ものにして初生兒濕疹殊に水泡性のものに卓効あ
り

過滿俺酸加里浴は濃厚過滿俺酸加里液を浴水に注加
し其の水の葦花紅色を呈するに至れるものとす

昇汞浴は先天梅毒に用う但此法は諸多の療法を持續
施行したる後に試むべきものとす

芥子浴は末五〇、〇を一浴水に加へたるもの「ナウハ
イメル」浴 Nauber Bäder は一二基瓦の食鹽、
二五〇、〇の粗製重碳酸曹達、三〇〇、〇の粗製鹽酸
を百律篤兒の水に加へたるものとす此他芳香浴、糠
浴、石鹼浴等あれども各論に譲りて茲に之を略す

第十 藥疹 Medicamentöse Exanthem

藥物の服用に因りて發する發疹即ち藥疹は病的發疹

總論 治方の通則 人工浴、藥疹

と誤認すること稀ならず故に吾人は能く其の監別の

智識に富まざる可らず

安知必林は其の少量を使用するにも拘らず往々皮
疹を生じ麻疹に酷似す宜しく熱候、粘膜の變化、甲
布利屈班の缺如併に後服の中止に由りて發疹の消失
する等に注意し之を監別すべし此他安知必林は又猩
紅疹様若は蕁麻疹様疹を生ずることあり

「ザウレンチン」の發疹は猩紅疹及蕁麻疹に類し規尼
涅及撒里矢兒酸疹は紅班及麻疹に似たり「フエナセ
チン」疹は紫班様或は猩紅疹様「ズルフオナル」疹
は猩紅疹様若は麻疹様にして沃度加里及沃度含有の
甲狀腺製劑は蕁疹若は膿疱疹様の發疹を生じ臭素劑
は面部及麻疹様疹を生ず砒素製劑を久時持長する
ときは皮膚に赤銅色の疹を發し尙ほ服用を續くるとき
は其部に種々の血班を生じ實扶的里血清注射後に來
る發疹の忽ちにして蕁疹狀忽ちにして紅班様に變ず
ると同じき特徴を呈す

第十一 藥物中毒 Medicamentöse Vergif-
tungen

藥物中毒は常に其の用量に注意するにも拘らず尙ほ
遭遇する不快の事變にして藥物の性状に關するは固
よりなりと雖又一は小兒の特異素質に關す

歳以下の小兒は阿片劑に對し殊に鋭敏也「ツクチエ
ク」氏 Pusek は四歳の小兒に於て實驗せる劇甚な
る安知必林中毒（劇甚なる紅班、癩癩様癩癩昏睡）
を報告せり安智歐武林中毒は「チアノーゼ」神識脫
失、厥冷、脈搏及呼吸の疾速、鹽酸「フエノコール」
中毒は虚脱及チアノーゼを主症とす
水銀中毒は哺乳兒には稀なり先天梅毒の小兒は屢々
可驚大量の汞劑を處せらるると雖如此小兒は實に汞劑
に堪ゆるの力弱く甘汞使用後に於て重劇なる中毒症
（流涎、齒齦炎、蛋白尿、強度の瘰癧等）を發する
こと稀ならず宜しく速に液體殊に牛乳の大量を與ふ
べし

從來多く内服に應用せられたる鹽酸加里は比較的屢
々致死的血尿及皮膚の變色を發起するを以て近時は
大に其の用を減ぜり

之に反して砒素中毒は其の製劑舞踏病に賞用せらる
るに由り近囑再び其の數を増加せり

鉛中毒は鉛含有の軟膏使用に因すること多し此中毒
の主徴は痛痛及齒齦の灰白班にして人によりては麻
痺を發することあり「ハイン」Hahn 氏は「ヘブラ」
氏軟膏使用後に發して死したる鉛中毒の一例を報し
「フィッシュエル」氏 Fischel は僚友の小兒が鉛含有の
色素を使用せるに由りて發したる鉛毒痛痛を實驗せ
りと云ふ

又「フィッシュエル」氏は生後數週を經過せる強壯な
る小兒が大人に處したる鹽酸莫爾比涅散〇、〇〇六
の一部分を搦取せしに由りて瞳孔縮小、肝聲及肺水
腫を主症としたる中毒症に罹り反覆せる胃洗條、黒
咖啡及「ケル」セ氏 Oruse が有功なりとして指示せ

る亞篤魯比涅を用いしも遂に悲慘の經過を取れる實
驗を報告せり

「スタイン」氏 Stein 及「モリザルト」氏 Morizalt
は精神亢奮、瞳孔散大、脈搏及呼吸の亢進不正、舞踏
病様痙攣等の症を呈せる古加尹中毒を實驗し臭素加
里及抱水格魯刺兒の洗腸に由りて之を救ふことを得
たりと云ふ

「フィッシュエル」氏は那布答林を陽加答兒に使用し
黄疸及蛋白尿の發現を實驗せり然れども症狀は後服
中止の後直に消失したり

珊篤尼涅の中毒は尤多く見る處なり是れ俗人は驅虫
劑として販賣せらるる本品を購ひ其の分量其の持繼
共に規を越ゆるに由るなり中毒症狀は劇甚なる嘔
吐、呼吸困難、搐搦、尿意頻數、暗黃綠色尿の排泄
（ H_2O_2 の注加に由りて赤色を呈す）血色素尿、黃視、言語困難、下
腿攣縮等にして甚しきは死に歸することあり
石炭酸中毒の主症狀は虚脱、嘔吐、特異なる黒色尿

總論 治方の通則 藥物中毒

の排泄なり療法は硫酸那度留母或は硫酸苦土水を以て反覆胃洗滌を施し有力なる亢奮劑を投ずると共に身體の温包等を行ふに在り沃仿度謨及沃度の中毒にも亦此法を試みて可なり
從前疫咳に多く大量を用いたる「プロモームフォルム」は重症假死「チアノーゼ」、肺水腫等を發す亞爾爾保兒の急性中毒は小兒に於ては見るに稀なりと雖慢性中毒は所謂健胃強壯酒類（規那酒、百布聖酒等）の久時持長に由りて發現することあり

第十二 藥劑の形態

吾人は生後一日の嬰兒より十有五歳の成童を概括して小兒と名く是を以て小兒の體格は大小及強弱を異にすること同一なる集合名に蔽はるるに拘らず天淵管ならざるものあり從而藥物の用量一定せざることを第一章其九に於て説けるか如く又其の藥味の佳美ならざる可らざること又前章其の六に論ぜるが如しと雖尙ほ吾人の實地上忽諸に附すべからざるは藥劑の

形態なりとす
幼き小兒に適するは滴劑、水劑及散劑にして丸藥、膠劑等は稍々長したる小兒にあらざれば用うるに能はず
滴劑は少量の糖水に和して用うべく往々便利なることあり元來滴劑として用うる藥劑は多く酒精劑なりとす今左に數種の酒精劑一瓦を滴數に改算して表示すべし但次の數量は水十六滴を以て一瓦に適する滴瓶を用いて計測せるものとす

- (1) 脂肪油、酒精 一、〇—二十滴
- (2) 丁糖劑、「ホフマン」氏液、一滴、〇、〇五
- 民埜列精、「クロロホルム」、一滴、〇、〇四
- (3) 依 的 兒 一、〇—五十滴

水劑は小兒の長幼強弱に従ひ其の量に多少ありと雖通常左の量を處す

- 初生兒 二日量 三〇、〇—四〇、〇
- 一年—二年 四〇、〇—六〇、〇

- 三年—五年 六〇、〇—八〇、〇
 - 六年—十年 八〇、〇—一〇〇、〇
 - 十一年—十五年 一〇〇、〇—一二〇、〇
- 注意 幼兒は香氣あるものを好まず故に單に甘味を加ふるのみにて足れりと雖稍々成長したるものには桂皮、橙皮舍利別等の如き調味藥を加ふれば殊に用い易し（弘田博士）

本書中諸處に引用したる茶匙、小兒匙、食匙、刀尖、酒杯の瓦量は左の如し

- 一茶匙 四、〇
- 一小兒匙 七、五
- 一食匙 一五、〇
- 一刀尖 一、〇—二、〇
- 一酒杯 一、二〇、〇

散劑 は一包〇、五以下なるを規とし白糖或は乳糖を以て藥味を蔽ふ可し可溶性のものは水、牛乳等に溶して用うべく不溶性のものは或は指頭或は乳頭に

總論 治方の通則 藥劑の形態

附して紙らしむるを便とす
含嗽劑 は五六才以上の兒にあらざれば用うるに難し
吸入法 は小兒殊に哺乳兒の呼吸器病に缺く可らざる要法にして一回施行の時間は十分乃至十五分一回の藥量は五〇、〇—一〇〇、〇—二〇〇にして一日二—數回施行するを例とす
坐藥は過大ならざるを可とす一個の量〇、七—二、〇たるべし
浣腸 は通利の目的には左の量を用う

- 幼兒 五〇、〇—一〇〇、〇
- 稍々成長の小兒 一〇〇、〇—二〇〇、〇—五〇〇、〇

滋養浣腸には其の全量を三〇、〇—六〇、〇となし温は攝氏の三十四五度となすべし
廣里設林浣腸は水と等分のもの二、〇—四、〇—一〇、〇を用うべし

第二編 各論

阿片劑 Opiumpräparate

阿片劑を小兒に使用するきは極微の小量も尙ほ且致死的不幸を來すことあり「エドワーズ」Edwards「シネマット」Schmidtニ氏は〇、〇〇〇六併に〇、〇〇〇三の阿片に由りて死の轉歸を取れる實例を報告せり洵に一滴の阿片丁幾も小兒に對しては重症中毒即ち搖擲(死に導き)得る處の)チアノーゼ、心衰弱等の症を發せしむることあり殊に齒牙發生期に於て多し注意すべし

阿片及其の製劑は母氏の乳汁中に移行し乳兒に重症中毒の症狀を發せしむることあり殊に母氏の便秘時に於て然り又小兒は皮膚に施したる阿片含有の溫水審法及瀉腸に由りて中毒することあり以上の事由に依りて小兒の三歳に至る迄は阿片劑を禁忌とする理ありと謂ふ可し

下記の製劑は最廉々實地に應用せらるゝものなり

○ 陀物兒氏散 Pulvis Doveri 一名吐根阿片散 Pulvis Jpecucanthae Opiatus 本品は阿片吐根各一分硫酸加里八分より成り鮮褐色を呈す

○ 瀉加答兒、氣管枝加答兒に用つ三—十五歳の小兒には〇、〇〇五乃至〇、〇〇四を一日數回與ふ

處方

陀物兒氏散 〇、〇一

白糖 〇、五

右爲一包一日三回一包宛

處方

陀物兒氏散 〇、〇〇五

次硝酸蒼鉛 〇、五

白糖 〇、五

右爲一包一日三回一包宛

(五歳の小兒の氣管枝加答兒)

(四五歳の小兒の瀉加答兒)

○ 阿片越幾斯 Extractum opii

帶紅褐色にして乾燥し水には溷濁して溶解す本品六、〇中には〇、四—〇、四四の「セルヒネ」を含有

〇、二五—十歳乃至十五歳〇、二五—〇、四とす

處方

吐根浸(〇、三) 〇、〇一〇

阿片丁幾 三滴

亞拉比亞 護謨漿 各二、〇

單舍 右每二時一小匙

處方

麥角浸(三、〇) 八、〇

阿片丁幾 三滴

覆盆子舍 一五、〇

右每三時一茶匙宛

(六七才の小兒嗜血)

右爲一包一日三回一包宛(嗜血)

○ 阿片安息香丁幾 Tinctura opii benzoica

阿片一分茴香油一分羯布兒二分 安息香酸四分稀酒精百九十二分より成る

○ 瀉加答兒、氣管枝加答兒に用つ三—十五歳の小兒には〇、〇〇五乃至〇、〇〇四を一日數回與ふ

○ 瀉加答兒、氣管枝加答兒に用つ三—十五歳の小兒には〇、〇〇五乃至〇、〇〇四を一日數回與ふ

○ 罌粟舍利別 Sirupus papaveris

するを要す

鎮痛、鎮痙、鎮咳併に止瀉劑として用う

用量一回〇、〇〇二—〇、〇〇五一日〇、〇一五

瀉腸としては〇、〇〇二—〇、〇〇五を用い

裏急後重には同量を坐藥として用う

處方

吐根浸(〇、三) 〇、〇一〇

阿片越幾期 〇、〇一

護謨漿、單舍各二、〇

右每二時一小匙

包宛(嗜血)

處方

鉛糖 〇、〇一

阿片越幾期 〇、〇〇三

白糖 〇、五

右爲一包一日三回一包宛(嗜血)

○ 阿片丁幾 Tinctura opii

阿片一分稀酒精水各五分より成る

鎮痙、鎮痛、止瀉藥として諸種の疾患に用

う用量は一歳以下に在りては日量〇、〇二五—〇、〇五(二分の一)一滴乃至二滴(一歳—二歳〇、〇五—〇、一三—五歳〇、一—〇、一五—十歳〇、二—

各論 あ之部

阿片劑、陀物兒氏散、阿片越幾斯、單阿片丁幾、阿片安息香丁幾、罌粟舍利別

弱性の鎮痙薬として單用し或は他の鎮靜薬に伍して用う

器粟舍利別 消英藍舍利別 各一〇、〇

右一日二回一茶匙宛(手術後の不安、號叫「ランゲンベック氏」Langenbeck)

○安母尼亞茴香精一名礪砂加茴香精 Liguor Ammonianisatus

透明黄色の茴香油を含有する安母尼亞液なり

多く亢奮祛痰に用う 依的兒精を參照せよ

處方

吐根浸(〇、三) 〇、〇
安母尼亞 茴香精 各五、〇
搦涅瓦舍 三〇、〇
右毎時一小兒匙 宛(炎)

處方

安母尼亞茴香精 各五、〇
依的兒精 各五、〇
右毎半時五滴宛(肺炎)

(氣管枝炎)

安母尼亞茴香精 各五、〇
依的兒

右毎半時十滴宛(虚脱)糖水に和し用う

○安智歇武林一名アチエトアニリド Antifebrin Acetanilidum

無色の板狀結晶にして冷水には溶け難く酒精及葡萄酒には僅に溶解す

本品は心臓の衰弱及虚脱を起すの危険あるを以て用時至大の注意を要す

解熱薬として卓効あり「デムメ」氏 Demme に從へば其の用量左の如くすべしと

二—四歳 〇、〇五—〇、〇七五
五—十歳 〇、一—〇、二
十二—十五歳 〇、二—〇、三
右爲一包一日一回乃至三回

上記の用量は先づ小量より初め無害無功なる時漸

次増量するを以て安全なりとす

○安知必林 Antipyrin

板狀無色の結晶にして微なる佳香と弱き苦味とを有し等分の水、酒精「クロロホルム」及五十分の依的兒に溶解す

解熱薬として一年以下の小兒には其の生活月數に相當する仙知瓦を一日二回、一年乃至十五年迄は其の年齢に相當する蛭知瓦若は其の半量を一日三回散劑又は水劑として與ふ其の尤良なるは葡萄酒と伍するに在り

各年齢に對する用量は左の如し
一歳以下 一回 〇、〇五—〇、一 一日二回
一歳—五歳 〇、一—〇、二五 一日三回
六歳—十歳 〇、二五—〇、三 一日三回
十一歳—十五歳 〇、三—〇、五 一日三回

適應症は舞踏病、偏頭痛、聲門痙攣、遺尿、破傷風、急性關節癱瘓質斯、痙咳、熱性病(腸室扶斯、

各論 あ之瀝 安母尼亞茴香精一名礪砂加茴香精、安智歇武林、安知必林、安息香酸

肺炎、猩紅熱等なりとす 注意、乳兒は安知必林含有の母乳に由りて容易く下痢を起し又本劑に由りて高度の虚脱を來すことあり殊に質扶的里の患兒に於て然り實地治療の際特に注意すべし

處方

安知必林 一、〇
トカヤ酒 各三〇、〇
蒸餾水 四〇、〇
右毎二時一食匙 宛(百日咳)

處方

安知必林 一、五
レゾルチン 〇、五
蒸餾水 一〇〇、〇
薄荷水 一〇、〇
右毎二時一茶匙宛(百日咳)

處方

安知必林 一、〇
蒸餾水 八〇、〇
桂皮舍 二〇、〇
右毎二時一茶匙(解

匙宛
(百日咳敗血症)

熱藥)

○安息香酸 *Acidum benzoicum* 安息酸 *Benzoesäure*
黄色板状或は針状結晶にして酒精依的兒には容易く溶解し冷水には溶け難く熱水には比較的溶け易し甘くして刺すが如き味を有す

内服 充奮祛痰劑として〇、〇三—〇、〇五—日數回散となし多くは濁布兒と伍して用ふ又水劑として用うることあり此他尿の暗母尼亞變性を伴ふ膀胱炎には大量〇、四—〇、五を與ふ

外用 殺菌の目的を以て鷺口瘡に一%の液を塗布し又は充奮藥として皮下に注射し或は又吸入藥として呼吸器病に或は軟膏として皮膚病に用う

處方

安息香酸 〇、六
酒精 依的兒 各五、〇
右口内淨拭料(鷺口瘡)

茴香精

右每時三—五滴

(虎拉刺滴「ツル
トマン」氏 Soli-
mann)

處方

安息香酸 〇、〇五
濁布兒 〇、〇五
護膜末 〇、三

右爲一包蠟紙に包み與ふ

每二時一包宛
(充奮及祛痰藥として氣管枝炎に用ふ)

處方

安息香酸 〇、〇四

瘡)

三

安息香酸 一、〇

濁布兒 〇、三

酒精 依的兒 各五、〇

蒸餾水 右臨時半乃至一筒宛

皮下注射(虛脱「ツルトマン」氏)

處方

安息香酸 一、〇
豚脂 三〇、〇
亞鉛花 六、〇

右爲軟膏外用(濕疹「ツキルソン」氏軟膏)

○安息香 *Benzoe*

暹羅產安息香樹の樹脂にして灰白褐色を呈し安息香酸及依的兒性油を含有す酒精に容易く溶解す百日咳の際鼻内吹入劑とす

○安息香酸那度留母 *Natrium benzoicum*

一、五倍の水に溶解する白色粉末なり
内服 〇、五—五、〇を一〇〇、〇の水劑となし、鷺口瘡、實扶的里、胃の異常醗酵に因する嘔吐及腸加答兒に賞用す

外用 吸入及含嗽として五—一〇%の液を實扶的里に、淨拭として一%の液を鷺口瘡に

各論 あ之部 安息香、安息香酸那度留母、安息香酸那度留母咖啡涅

洗腸として〇、五—一%の液を慢性腸加答兒に用

處方

安息香酸 一、〇
那度留母 一〇〇、〇
餾水 右每二時一茶匙宛

(鷺口瘡)

處方

安息香酸曹達 五、〇
餾水 一〇〇、〇
右每二時一茶匙—
一小兒匙宛(實扶的里及腸内醗酵の結果症たる下痢)

○安息香酸那度留母咖啡涅 *Coffeinum natriobenzoeicum*

白色結晶にして水に溶け易し

内服 強心利尿の目的を以て實斐多利斯の代用藥或は其の配伍藥として心臟病及一般の心臟衰弱に用いらる

處方

一—三歳 一日 〇、〇五—〇、一

臨床兒科醫典

四—十歳 〇・一—〇・二
十一—十五歳 〇・二—〇・三

用法

安息香酸那度留母咖啡涅 〇・〇・五
白糖 〇・三

右爲一包一日三回一包宛(心臟病)

○安息香酸水銀 Hydrargyrum benzoicum Oxidatum

性状

無色の針狀結晶にして熱湯及食鹽水に溶解す

【**注意**】本品の食鹽水に溶解したるものは蛋白に由りて沈澱することなし故に不快なる副作用なき薬剤として梅毒の皮下注射に實用せらる其用量次の如し

一歳未満 〇・五%液として 〇・〇〇一—〇・〇〇三
一—四歳 1%液として 〇・〇〇一—〇・〇〇四
五—十歳 同 上 〇・〇〇五—〇・〇〇八
十一—十五歳同 上 〇・〇〇一—〇・〇〇一

用法

安息香酸水銀 〇・一
餾水 一〇・〇
滅菌食鹽 〇・〇・六
右溶解注射料

○亞爾簡保兒 Aethylalkohol, Weingeist

【**注意**】亢奮、防腐、營養(少量反覆すべし)及び解熱に應用す亞爾簡保兒の解熱作用は一部は皮膚血管の擴張に基する溫放散の亢進に因るものとして説明することを得べく又體內類醱酵作用の障礙に因るものとしても解釋することを得べし即ち亞爾簡保兒は脂肪及含水炭素の如く燃燒質として作用し以て人身組織の造溫物質を代償するに由る(Binz氏)

佛國產三鞭酒は一二—一六%の亞爾簡保兒を含有し最良く此目的に適す蓋し多量の糖分及依的耐性充奮物質を含有するのみならず胃に快感を興ふる

右每二時一茶匙宛
(氣管枝加答兒)

苗香水 一五、〇
右每二時一茶匙宛
(同上)

○亞拉比亞護謨 Gummi arabicum

主として「アカシアゼネガール」樹より製す容易く水に溶解す

【**注意**】一回〇・一—〇・五を散若は液の形態を以て包藥或は刺戟緩和劑として呼吸器及消化器の加答兒に用い其他乳劑又は丸劑の賦形藥として用う

【**注意**】洗腸に用う

○亞拉比亞護謨漿 Mucilago Gummi arabici.

亞拉比亞護謨一分水二分より成る
刺戟緩和劑の附加藥とす

○護謨散 Pulvis Gummis.

亞拉比亞護謨三分甘艸末二分白糖末一分より成る
乾燥せる黄色の粉末にして甘艸の臭味を有す

各論 あ之部

安息香酸水銀、爾亞爾簡保兒、亞爾答兒、亞拉比亞護謨、拉比亞護謨漿、護謨散

亞爾答舍 四〇、〇 亞爾答舍 二五、〇
吐根舍 一〇、〇 海葱醋 二五、〇

炭酸を含有するが故なり(「ゲルハルト」氏小兒病論綱要)

「ソルトマン」氏 Soltmann は查兒の腸加答兒にして衰弱の發現せる者には一〇・〇—二〇・〇の「ヒチール」亞爾簡保兒を一硝子蓋(一二〇、〇)の燕麥浸に混じて與へたり(「ユニヤック」を参照せよ)

○亞爾答根 Radix Althae

【**注意**】藥科 Malvacee に屬す主成分は粘液(三六%)及澱粉(三七%)より成る

【**注意**】冷浸或は煎劑(四—一〇%)となし氣道及消化器加答兒に緩和劑として用う

○亞爾答舍利別 Syrupus Radix Althae.

透明無色の液にして祛痰劑とし若は其の配伍藥として呼吸器の加答兒に用う

用法

性状

亞爾答舍 四〇、〇 亞爾答舍 二五、〇
吐根舍 一〇、〇 海葱醋 二五、〇

【内服】 包痲藥併に丸散の賦形藥として刀尖宛用う
注意、「ビンツ」Binz氏に依れば牛乳の乾酪は護膜
散の添加(大約二〇〇、〇の牛乳)に由りて固き凝
塊とならず却て細かなる小斑となりて流動す是を
以て消化不良性下痢の傾向を有する者に適應す
(Gehaltz)

○亞麻仁 Semen Linii.

【内服】 重劇なる尿意頻數症に用う即ち本品一茶匙
を水半律篤兒に十分時煮沸し篩過して毎時一小兒
匙宛與う

【外用】 洗腸料として煎劑を腸加答兒に用う

○亞麻仁油 Oleum Linii

【外用】 等量の石灰水と和して火傷の擦劑となし若
は洗腸藥に併用す(一—二小兒匙)

○亞砒酸加里水 Lignor Kali arsenicosi. 法列爾氏
液 Solutio arsenicalis Fowleri.

亞砒酸、炭酸加里各一分復方默利薩精十五分、蒸

蒸餾水百分より成る
【内服】 規尼涅の奏功なきとき間歇熱に用い又神經
疾患(舞蹈病、癲癇等)慢性皮膚病(年長小兒の
乾癬、濕疹、無色素性疣贅)及淋巴腺性白血病、
淋巴腺肉腫等に用う
【用量】 (十六滴一瓦)
一—二歳 一回〇、〇五 日量 〇、二
三—四歳 〇、〇五 〇、二五
五—十歳 〇、一 〇、四
十一—十五歳 〇、一五 〇、五
「ホーゲル」氏 Vogel「ヤーデルト」氏 Die-
ter は無色素性疣贅四歳の小兒に一日一
滴八歳のものに四滴を與へたり
本劑は胃腸の障碍、食慾の減損、頸部の狹窄感覺
發現するに至る迄持長することを得べし只茲に注
意して忘るべからざるは亞砒酸は母乳を通じて乳
兒に攝取せらるることと胃の健全なる者にのみ用

うべきことなりとす

【用法】

法列爾氏液 一、〇

餽水 八〇、〇

右一日三回十滴乃

至十五滴宛食後三

十分時を隔て、服

用(舞蹈病)

【用法】

法列爾氏液 五、〇

芳香丁幾 五、〇

右一日二乃至三回

一—三滴宛服用漸

次増量(白血病)

○含鐵亞砒酸鹽泉

之に屬するものは「ロンセグノー」Roncigno 及
「レヴィコー」Leveo なりとす功用亞砒酸加里水
に同じく又腺病に用う可し

「ノイマン」氏 Neumann は十一十六歳の小兒に
「ロンセグノー」水を左の如く服用せしめたり

最初には日量として一茶匙宛二回、次には三回、
又其次には茶匙二回小兒匙一回となし更に進ん
で小兒匙二回茶匙一回より頂點小兒匙三回に達

各論 あ之部

亞麻仁、亞麻仁油、亞里酸加里水、含鐵亞砒酸鹽泉
阿利斯篤兒

し各量三日持續の後漸次減量して六乃至八週に
して鹽泉療法を終る然れども幼兒に在りては一
日二—三回一茶匙宛服用せしむ可し
「レヴィコー」水には強弱の二種あり強水は「ロン
セグノー」水と同一の方法に由り用いらる

○阿利斯篤兒 Aristolum

黃紅色の甚緻密なる粉末にして水及虞里設林には
溶解せず亞爾爾保兒には僅に溶け脂肪油、華攝林、
格魯胃母、依的兒、格魯兒保爾謨には容易く溶解す

【外用】 本品は沃度仿謨の代用として臭氣なく有毒
なる副作用なく又皮膚粘膜を刺戟することなく腫
瘍の癰痕形成を佳良にするが爲に軟膏として腫瘍
面に賞用せられ又慢性鼻加答兒、鼻鼻症 Ozena の
吹入料として賞用せらる

【用法】

アリストール

巴拉寶

一、〇

九、〇

右爲軟膏

○阿魏 *Asa foetida*

亞細亞產防葵屬の樹脂にして不快の臭氣を有する種粒若は塊なり

外用 聲門痙攣其の他の痙攣症に際し〇、五—一、〇を卵黄に混じ加密爾拉茶を以て乳劑となし洗腸に用う

○亞鉛華 (酸化亞鉛) *Zincum Oxidatum*

水に不溶解の白粉なり

内服 鎮痙藥として癩癩、癆咳、子痛、舞蹈病に一回〇、〇二—〇、〇三を與ふ

外用 分泌減少藥として澱粉、亞爾答根末等と伍して濕爛、濕疹に用う

處方

| | | | |
|----------|------|------|------|
| 酸化亞鉛 | 三、〇 | 酸化亞鉛 | 〇、〇三 |
| 澱粉 | 一〇、〇 | 乳酸鉄 | 〇、〇四 |
| 右撒布料(濕爛) | | 乳糖 | 〇、三 |

處方

| | |
|----------------------------------|--|
| 阿仙藥丁幾 <i>Jinctura catechu</i> | |
| 阿仙藥一分酒精五分より成る | |
| 内服 共に阿仙藥に同じ用量は一回一、〇—五、〇とす | |
| ○アツェトピリン <i>Acetopyrin</i> | |

右爲一包一日三回
一包宛(舞蹈病)

○亞鉛華軟膏 *Unguentum Zinci*

亞鉛華一分脂肪九分より成る

外用 刺戟緩和、分泌減少の目的を以て濕爛、濕疹等に用う

○阿仙藥 *Catechu*

印度地方の合歡科植物及茜草科植物の水製乾燥越幾斯にして阿仙藥鞣酸六〇乃至六五%を含有す

内服 慢性下痢に一日〇、二—一、〇を用う

外用 齒齦潰瘍、安義那、腐敗性口内炎等に一一二%の含嗽若け塗布料として用う

「アツェチールザリチル」酸と安知必林との化合物にして醋臭ある白色の粉末冷水に溶け易し

内服 撒里矢兒酸及同那度留母鹽の代用として急性關節痙攣質斯及急性肋膜炎に用う用量は幼児には一回〇、〇〇五、十歳以上の小兒には〇、一—〇、一五とし一日數回之を與ふることを得

○アコピリン *Acopyrin*

安知必林と「アツェチールザリチル」酸の化合物白色の結晶にして冷水に溶け難く三十分の熱水及「アルコール」格魯保爾武蘭煙に溶け易し

内服 急性關節痙攣質斯、頭痛、神経痛に用う用量は「アツェトピリン」に同じ

○アスピリン *Aspirin*

本品は「アツェチールザリチル」酸なり白色針狀の結晶にして水には攝氏三十七度に於て一%迄溶解するのみなれども亞爾答保兒には溶解し易し

内服 解熱鎮痛藥として急性痙攣質斯、心内膜

各論 あ之部

阿魏、亞鉛華、酸化亞鉛(亞鉛華軟膏)、阿仙藥、阿仙藥丁幾、アツェトピリン、アコピリン、アスピリン、アルゾール、アンチンザン

炎、肋膜炎、流行感冒、腸室扶斯、神経痛等に賞用す

本品は亞爾加里液に遇ふて「ザリチル」酸と其那度倫鹽とに分解するを以て同時に亞爾加里を處す可らず

各年齢に於ける用量は略々次の如し

| | | |
|--------|-----|------------|
| 一歳以下 | 一回量 | 〇、〇〇五—〇、〇二 |
| 一—二歳 | | 〇、〇二—〇、〇五 |
| 三—五歳 | | 〇、〇六—〇、一 |
| 五—十歳 | | 〇、一—〇、二 |
| 十一—十五歳 | | 〇、二—〇、五 |

處方

アスピリン 〇、三

安息香酸那度留母咖啡混 〇、〇三

右爲一包一日數回一包宛(十一二歳の小兒心内膜炎)

○アルゾール *Alsol*

臨床兒科醫典

酒石酸醋酸礬土にして光輝ある無色の物質なり醋
臭と甘澁の味を有す少許の水に和して震盪すれば
膠液となりて溶解す

外用 含嗽劑、洗滌劑、霏法劑として防腐の功あ
り通常一—二%の液を用う

○アンチノシン Antiposin
水に溶解難き無臭の粉末なり

外用 防腐藥として用う殊に化膿菌、脾脫疽菌、
實扶的里菌に對して殺菌の功著し通常創面處置に
は一—二%含嗽料としては〇、二—〇、五%の液を
用う

○アイホーン Aiolol
本品は没食子酸沃度蒼鉛にして帯灰綠色鬆疎の粉
末なり水に溶解せず又臭味なし

外用 沃度仿護の代用品として創面の乾燥、防腐
に用う即ち或は單品を散布し或は滑石を伍して用
い或は又巴斯多として用う

處方

| | | | |
|---------|-------|-------|-----|
| アイロール | 五、〇 | アイロール | 五、〇 |
| 亞拉比亞 | | 酸化亞鉛 | 五、〇 |
| 護膜漿 | 各一〇、〇 | 石松子末 | 五、〇 |
| 處里設林 | | 右撒布料 | |
| 白陶土 | 適宜 | | |
| 右巴斯多と爲す | | | |

○アナルゲン Analgen
無味の白色なる結晶粉末なり

外用 痲質斯、頭痛、神經痛殊に痲拉里亞性の
ものに規尼涅の代用品として用う本品は時として
悪心、嘔吐、耳鳴等の副作用ありと云ふ五歳以下
の小兒には用いざるを可とす

用量は五—七歳一回〇、〇八—〇、一、八乃至十歳
〇、一—〇、二、十一—十五歳〇、二—〇、四とす
○アポリジン Apolysin
一分の枸橼酸と一分の「フェネチゲン」との化合物
にして解熱鎮痛の功あり

本品は決して胃の空虚なる時に用うべからず

處方

| | |
|------------------------------|------|
| アポリジン | 〇、〇二 |
| 白糖 | 〇、三 |
| 右爲一包一日三—四回一包宛(一歳の小兒、 解熱藥) | |

○アドリナリン Adrenalin

高峯博士が創製せる副腎製劑にして收斂止血の功
著しく又心臟を亢奮せしめ血壓を増強す蓄積作用
なし

外用 血友病、心衰弱、初生兒黒痢、喀血、胃腸
出血等に千倍溶液鹽化「アドリナリン」〇、〇五—
〇、三を一回量として用う

外用 千倍鹽化「アドリナリン」液を咽喉炎、眼
鼻粘膜の急性充血、扁桃腺炎、安義那等に塗布し
喉頭炎、氣管枝炎、痲咳、肺炎等には一萬倍若は
十萬倍の稀釋溶液を吸入せしめ咳嗽を鎮制し充血

各論 あ之部 アイロール、アナカルゲン、アポリジン、アドレナリン
アナカルヂウム硬膏、伊比知央兒

を軽減するの功あり

又眼手術及其の疾患には千倍鹽化「アドリナリン」
の十%溶液を塗布若は點眼として用う

處方

| | | | |
|----------------------|---------|---------------------|-----------|
| 千倍鹽化アド リナリン | 〇、五—一、〇 | 千倍鹽化ア ドリナリン | 一—三滴 |
| 餾水 | 1000、0 | 餾水 | 30、0—4、00 |
| 右吸入料(肺炎、 痲咳、氣管枝炎) | | 單含 | 五—七、〇 |
| | | 右數回分服一日量 (初生兒黒痢) | |

○アナカルヂウム硬膏 Anacardium Plaster

アナカルヂウム果實より製したるものにして貼用
後數日にして功力の發現する皮膚刺戟藥なり

外用 諸種の神經痛、筋肉痲質斯、喘息、氣管
枝炎、乾性肋膜炎等に外用し貼用後二三日乃至壹
週放置して其部に輕度の皮膚炎を起さしむるを目
的とす

○伊比知央兒(硫酸安母組膜) Jeltol (Ammoni-

cum Sulfoichthyolum)

前世紀の遺殘物たる魚體を含有する化石の乾餾に由りて生ずる硫酸含有産物にして濃厚なる鱈兒狀を呈して雋性臭味を有し依的兒酒精の混合液及水には能く溶解し華攝林及脂肪油には隨意の比例に於て能く混和す

内服 慢性癩麻質斯、慢性濕疹等に一日二乃至五滴内服せしむることあるも其の奏功は期し難し

外用 軟膏として關節癩麻質斯には鎮痛の功あり濕疹には鎮痛制痒の功あり又初生兒丹毒、頭皮脂漏火傷凍瘡紅斑及濕爛に用う「ワンナ」氏 Dana に從へば乳兒の血管腫は「イヒチオールコロザウム」(1:9)に由りて消散す但一日二三回反覆せざる可らず

此他肋膜炎、腹膜炎、盲腸周圍炎等に10%の刺納林軟膏或は酒精溶液として賞用す

處方

處方

イヒチオール 〇、一
華攝林 一〇、〇
爲軟膏外用(皮膚剝脱を伴ふ濕疹症)
イヒチオール 一五、〇
華攝林 四〇、〇
右爲軟膏外用(丹毒關節癩麻質斯)

伊比知央兒加爾叟謨 Tehtyol calcium

無味無臭の粉末なり

内服 結核性骨疾患に賞用す

用量は〇、〇一—〇、〇〇五—〇、一—〇、二とす

伊比多兒並 Jethalbumin

「イヒチオール」の蛋白化合物にして帶褐灰白色の粉末なり胃中に於て分解することなし是れ其の内服に賞用せらるる所以なり

内服 小兒の濕疹及慢性腸加答兒、腺病性角膜炎に用う

本品の濕潤したるものは短時日に於て乾固し石の如く變硬し易し

用法

六ヶ月以下 一回量〇、〇五—〇、一 一日三回
六ヶ月—十二ヶ月 〇、一—〇、二
二—三歳 〇、二—〇、三
五—十歳 〇、四—〇、八
十一—十五歳 〇、八—一、〇

イヒトフォルム Ichtholum

黒褐色無味無臭の粉末にして有力なる腸の制腐藥なり

内服 腺病性濕疹及結核性下痢殊に全身結核の末期に来る下痢に功あり

用量「イヒタルビン」に同じ

○一牛格魯兒鐵液 Liguor Ferri resquichlorati

各論 い之部 伊比知央兒加爾叟謨、伊比多兒並、イヒトフォルム
一牛格魯兒鐵液

透明黃褐色の液にして10%の鐵を含有す
内服 血尿、咯血、初生兒黑痢、實扶的里等に用う本品は鋭き酸味を有し水に稀釋するも其の味を失ふことなし「ハーゲル」氏 Hager は此酸味を蔽はんか爲虞里設林或は單舍利別と混し服用前更に冷牛乳と混和して稀釋することを賞賛せり此法に由れば齒牙は侵蝕を免れ酸味は隱蔽せらる

外用 止血藥として用い又吸入藥として〇、五—一、五%溶液を(皮膚出血)用う

母斑及血管腫等に於ける一牛鹽化鐵液の注射は其部に形成する「エムポリー」と同じき危険を招くことあるを以て賞用すべきにあらず

一牛鹽化鐵 三、〇
鹽化鐵 一、〇
縮水 一〇〇、〇
虞里設林 一〇〇、〇
右鼻腔注入(衄血)
右一日四回—小兒匙宛
(血尿、咯血、初生

臨床兒科醫典

兒黑痢^{メレナ}

- 一 半鹽化鐵 三、〇
- 處里設林 一〇〇、〇
- 右毎二時一茶匙宛
- (實扶的里に用う)
- 但本劑服用後十
- 分間は飲食を禁
- すべし)

○伊篤魯兒 *torol*

本品は枸橼酸銀なり白色無臭の粉末にして三千八百分の水に溶解す有力なる防腐消毒薬なり

内用 腸内容の消毒劑として傳染性疾患に用うる

ことなきにあらざるも本品の主功は外用に在り

外用 諸般の創傷、皮膚病眼病淋病等に其の四千倍八千倍乃至一萬倍の液を用う

○硫黃華 *Flores sulfuris*

五%の軟膏として疥癬に賞用す即ち先づ患兒を入浴せしめ石鹼を以て患部を清洗し然る後此軟膏を

藥)

○ウロトロピン *Urotropin*

「フォルムアルデヒート」及安母尼亞屈より成る無色の水に溶け易き結晶なり

内用 膀胱炎及腎盂炎に用う「ホイブネル」氏

Heubner は尿の亞爾加里酸酵を起したる症に賞用せり用量は〇、二五—〇、四を一日三回に分服せしむ

○烏華烏爾矢葉 *Folia Uvaeursi*

本品の有功成分は「アルブチン」及鞣酸なり

内用 煎劑 (五、〇—一五、〇) となし毎時一小兒匙宛膀胱炎に用う

○華攝林 *Vaselin*

「パラフィン」軟膏を見よ

○ウアゾーゲン *Vasogen*

酸素を以て飽和したる華攝林にして卓越なる軟膏劑なり六一〇%の沃度「ウアゾーゲン」は助

各論 う之部

伊篤魯兒、硫黃華、硫黃乳、硫黃浴、ウレタン、ウロトロピン、烏華烏爾矢葉、華攝林、ウアゾーゲン、ウアリドール、樟腦、加ウアリドール、ウイスモール

三五

三四

塗擦すべし但し此法は二日乃至三日に之を反覆し更に二日乃至三日の後に温浴を取らしむ可し

○硫黃乳 *Schwefelmilch*

微細なる帶黃白色の粉末にして精製硫黃と共に面皰の除去に用う

○硫黃浴 藥湯の條を見よ

○ウレタン *Urethan*

白色無味無臭の結晶にして水に溶け易し

内用 催眠藥として〇、〇五—〇、一—〇、二を一

回量とす

外用 には子癇の際洗腸に用う

處方

| | | | |
|----------|-----|----------|-----|
| ウレタン | 〇、一 | ウレタン | 〇、五 |
| 右五包を作り一包 | | 右五包を作り一日 | |
| を半酒盞の水に溶 | | 三—四回半包乃至 | |
| し洗腸に供す一日 | | 一包つゝ糖水を以 | |
| 二—三回(子癇) | | て服さしむ(催眠 | |

膜炎の塗摩劑として用いらる

○ウアリドール *Validol*

「メントール」と樟腦酸との化合物にして約三〇%の「メントール」を含有す無色の濃厚液にして滑

涼なる苦味と一種の香氣とを有す

内用 には亢奮健胃劑として歇私的里、神經衰弱、胃痛、胃の異常酸酵、消化不良等に一一五滴宛一日數回與ふべし

外用 軟膏としし偏頭痛には前額部に搔痒には局處に貼用し又水劑 (一一二%) として氣道の炎症の初期に吸入せしむ

○樟腦加ウアリドール *Validolum Camphoratum*

樟腦を十%の比例を以て「ウアリドール」に溶解したるものにして疼痛ある齶齒空洞に充填して鎮痛の功著し

○ウイスモール *Wismol*

酸化麻偏涅叟母と酸化蒼鉛の混合劑にして無味無

三五

臨床兒科醫典

臭微細なる黄白色の粉末なり

本品は氣中の酸素を攝取して之を有機質に分解し酸化防腐の力強し

【外用】 或は單品撒布薬とし或は軟膏(一〇%)とし或は綿紗の包含薬として諸種の炎症、腫瘍殊に下腿の潰瘍に用う

○ウルチコール Urticol

本品は Herba Urticae urevs より製す

【内服】 慢性蕁麻疹の特効薬とす稀には本劑の使用に由りて症状増劇することあれとも一二週日にして回復するを常とす用量は年齢に従ひ毎二時〇、五—一〇、〇とす

○依的兒 Aether sulfuricus

透明無色固有の刺戟臭を有し容易く揮發する液體にして點火し易きを以て火に近くるときは危険なりとす
本品は酒精及脂肪油類と混用せらるゝを常とす

【内服】 には亢奮薬として虚脱症に用い皮下に注射す但注射部位は前臍を避くべし是れ其の變質性神經炎に因する依的兒性麻痺を起すの危険あればなり

【外用】 「ダヴェイン」氏 Davain は蟻蝨に浣腸薬として推奨せり即ち四乃至八、〇を水六〇、〇—一〇〇、〇に混じ敷週持長す又局處及全身麻酔に用

【處方】

依的兒 各五、〇
茴香精 右每半時六滴宛糖

水に和して服す

(虚脱)

【處方】

依的兒 各二、五
蘇草丁幾

【處方】

依的兒 一〇、〇
右アラーウワツツ
氏注射器一筒宛皮下注射(虚脱)

右每半時六滴の糖水に和して服す
(虚脱)

○依的兒精 Spilinus Atherens 「ホフマン」氏液 Hofmann'stropfen

依的兒一分亞爾箇保兒三分より成る

【内服】 亢奮薬として滴服せしむ「ソルトマン」氏 Sothmann は初生兒虎列拉に磁砂加茴香精等分のものを毎半時三—五滴宛糖水に和して服さしめたり

○鹽酸 Acidum hydrochloricum

「キッモント」氏 Baumont に從へば消化不良患者の胃液は遊離鹽酸缺乏す「マナゼイン」氏 Mannassein は有熱動物の胃液には鹽酸著しく減少せることを證明せり(Virchow's, Archiv 51, 413)是に由りて鹽酸は通常

【内服】 としては消化不良及有熱患者に用いらる各論 之之部 ユルチコール、依的兒、依的兒精、鹽酸

(鹽酸〇、二—〇、五水一〇〇、〇)

【外用】 虎列拉の際注射薬として〇、三—〇、五%の溶液を攝氏三〇—四〇度に温め一日數回用に供す

【處方】 鹽酸 〇、三
百布聖 一、〇
餾水 一〇〇、〇

亞爾箇舍 二〇、〇
右每二時一茶匙若は一小兒匙(消化不良)

宛(腸管扶助の下痢)

【處方】 鹽酸 〇、三
亞拉比亞護謨 一、〇

餾水 六〇、〇
阿片丁幾 一—三滴
亞爾箇舍 二〇、〇

臨床兒科醫典

右毎二時一小兒匙
宛(年長小兒の下痢)

○鹽酸アポモルヒネ Apomorphinum hydrochloricum

本品は高熱に由りて鹽酸を「モルヒネ」に作用せしめたるものにして白色或は帶綠灰白色の粉末なり四十分の水に溶解す

内外用 共に一歳以下の小兒には用ゆることなし吐劑として皮下注射には

- 一—二歳の小兒 〇、〇〇〇八—〇、〇〇一五
- 二—十歳の小兒 〇、〇〇二—〇、〇〇〇五
- 祛痰劑として内服には
- 一—二歳 一回〇、〇〇一 一日〇、〇〇三
- 三—四歳 〇、〇〇一 〇、〇〇五
- 五—十歳 〇、〇〇二 〇、〇〇一
- 十一—十五歳 〇、〇〇三 〇、〇〇一五

十五—十七歳

〇、〇〇五

〇、〇〇三

用法 鹽酸アポモルヒネ 〇、〇二五

用法 鹽酸アポモルヒネ 〇、〇〇五

鹽酸 〇、〇二

鹽酸 〇、〇二

單 舍 一〇、〇
右毎二三時一茶匙
宛(氣管枝炎)但黑色瓶に容れ與ふべし

單 舍 一二、〇
右毎二時一小兒匙
宛(格魯布の初期)但黑色瓶に容れ與ふべし

用法 鹽酸アポモルヒネ 〇、〇二
鹽酸 一〇、〇

用法 右四分の一乃至二分の一筒皮下注射(吐劑)

注意 本劑の卓拔なる點は其の效果の確實にして

迅速なると用法の簡易なるとに在り然して本劑の催吐作用は直接胃に動作するにあらずして却て神經中樞に作用するに由りて發するものとす
虚脱は本劑の使用後に經驗せらるることあり注射部位は背部の皮下を良とす

○鹽酸規尼涅 Chinidiatum

苦味の白色結晶にして三分の酒精三十四分の水に溶解して無色中性の液となり「フルオルレソルチン」反應を起すことなし

内服 間歇熱、痙攣及熱性疾患に散若は水劑として用う

注意 本品は副作用として胃腸障害を起し又眼耳の官能障害を來すことあり故に腸胃眼耳の疾患ある者には可成其の使用を避くべし又本品は乳汁に由りて排泄せらるゝを以て母氏の服用に由りて乳兒の胃腸障害を發することあり
用量は各年齢に従て差あり左の如し

各論 え之部 鹽酸アポモルヒネ、鹽酸規尼涅

〇歳—一歳 一回〇、〇〇五 一日〇、〇一

一—二歳 〇、〇一 〇、〇二

三—四歳 〇、〇一五 〇、〇三

五—一〇歳 〇、〇二五 〇、〇五

一一—一四歳 〇、〇三 〇、〇六

一五—一七歳 〇、〇五 一、〇

用法 蟯蟲に洗腸藥 (〇、三一—〇水一〇〇、〇となし又痙攣に鼻内吹入藥として用う)

用法 鹽酸規尼涅 三、〇
蒸餾水 一〇〇、〇

用法 鹽酸規尼涅 〇、五
蒸餾水 一〇〇、〇
右洗腸料(蟯蟲)

内吹入(痙攣)

用法 鹽酸規尼涅 一、〇

鹽酸規尼涅 一、〇

蒸餾水 八〇、〇

稀鹽酸 〇、五

覆盆子會利別 一〇、〇
右每二時一茶匙宛

註 「ビニツ」氏 Binz は規尼涅の服用に關し次の如く注意せり即ち乳兒に在りては少許の水に溶して與へ童齡の兒には「オブラート」に包みて服さしめ後ち糖水を與へ中間年齡の小兒には膠囊に容れて白糖上に廻轉せしめたるものを菓實汁を以て嚥下せしむるを可とせり(ゲルハルト氏小兒病論綱要)

「ヤコビー」氏 Jacoby は四十倍の橙實會利別に溶解して與へたり但此合劑は用に臨んで毎回新製するを要す又卵白を以て包纏して用うるの法も推奨す可し

○鹽酸古加里 Cocoin hydrochlorium
無色透明の結晶にして容易く水及酒精に溶解す溶液は其の味苦く舌表面に一時性の知覺脱失を來さしむ

外用 百日咳の際二—五%液を咽頭(扁桃腺舌背共)に塗布す但初日三回、次日及第三日二回、爾後一日一回宛施すべし「ヘノツホ」氏 Henoch に依れば其の效果充分ならずと云ふ此他華羅林軟膏(一、〇—二五、〇)として火傷に用い滑石散(〇、一—五、〇、四を滑石四、〇)として初生兒鼻感冒の吹入藥に用う又此際「コカイン」〇、五餉水二五、〇の溶液を鼻腔塗布に賞用す

内服 「コカイン」の内用は小兒には賞用すべからず

註 「コカイン」水の塗布又全く危険なきにあらざ「ゲルハルト」氏 Gerhardt は微量の「コカイン」に由りて沈澱、恐怖感覺、呼吸困難、心悸亢進、脈搏頻數等瀕死の中毒症狀を發したる者あることを報告せり(Archiv für Kinderheilkunde, X.B.P.4 38)

○鹽酸フェノコルム Phenocollum hydrochlori-

| | | |
|--------|-------|-------|
| 三—四歳 | 〇、〇〇一 | 〇、〇〇三 |
| 五—十歳 | 〇、〇〇三 | 〇、〇〇八 |
| 十一—十四歳 | 〇、〇〇五 | 〇、〇一 |
| 十五—十七歳 | 〇、〇〇一 | 〇、〇三 |

處方 鹽酸ピロカルピン 〇、〇五

餉水 五、〇
右皮下注射料とし
其の〇、一—〇、五
(ピロカルピン〇、〇〇一—〇〇〇五)
を注射す
但注射前心臟衰弱
を豫防する爲半茶
匙乃至一茶匙の
「コニヤック」を水
に和して服さしむ

處方 鹽酸ピロカルピン 〇、〇二

百布聖 〇、六
稀鹽酸 二滴
餉水 八〇、〇
單 舍 一〇、〇
右每時一茶匙宛睡
液分泌の盛なるに
至る迄用う但同时
に每一時赤酒一茶
匙宛與ふ(實扶的
里、百日咳)

orm
「フエナセチン」の變換體なり

註 急性關節痲質斯に用い又麻拉里亞(發作前三時)に散となし〇、五—〇、七を與ふ百日咳には水劑となし一日一、〇—二、〇を處す

○鹽酸必魯加爾必涅 Pirocarpinum hydrochlorium
白色の結晶にして容易く水に溶解す

外用 本品は發汗及唾液の分泌増進を要する諸般の疾病即ち尿毒症、實扶的里、格魯布、痒疹(發汗余く缺)等に用う
(如するもの)等に用う

「ピロカルピン」療法は虚脱及急性肺水腫を起すの危険あるを以て施行時には慎重の注意を加ふ可し故に心臟の疾患及び體質虛弱なる者には禁忌とす

本品は或は溶液として内服せしめ或は皮下注射として用う其の用量左の如し

一—二歳 一回〇、〇〇〇—五 一日〇、〇〇一

各論 え之部 鹽酸古加里、鹽酸フェノコルム、鹽酸必魯加爾必涅

○鹽酸莫兒比涅 Morphinum hydrochloricum

白色絹糸様光澤を有する束針狀結晶若は白色骸子形結晶片にして二十五分の水に溶解す

内用 三歳以下の小兒には處方すべからず
百日咳、聲門痙攣、胃腸の神経痛、腦膜炎等に用

處方

鹽莫非 〇、〇一

餾水 三五、〇

亞爾答舍 一五、〇

右一日二—三回一茶匙宛(百日咳、聲門痙攣) 變「ハノツホ」氏)

異常の睡眠發現したるときは速に莫比の使用を中止すべし

○鹽酸ヘロイン Heroin hydrochloricum

莫兒比涅屬の白色結晶狀の粉末にして水及酒精に

溶解す

内用 鎮咳鎮痙劑として〇、〇〇〇〇五より〇、〇〇二迄を與ふ

○エピデルミン Epidermin

弗素の有機化合物なり

外用 通常5%の刺納林軟膏となし化膿性創傷殊に火傷に用うれば鎮痛の功著し

○エナツール酸規尼涅 Chininum eosolicum

無形無色の粉末なり水に溶け難く亞爾答保兒に溶け易し醋臭苦味を有す

内用 麻拉利亞に用う規尼涅の如き不快なる副作用なしと云ふ用量は一回〇、〇〇三—〇、〇〇三—〇、〇五丸劑となし與ふ

○エウピリン Eupyrin

帶綠黄色の針狀結晶にして水に溶け難く「アルコホル」¹「エーテル」に溶け易し

内用 流行感冒、肺炎等に解熱劑として用う用量

は一回〇、〇二—〇、〇一—〇、〇二とす

○鉛糖(醋酸鉛) Bleizucker (Plumbum acetikum)

無色透明の結晶にして醋臭を有し二、三分の水、二十九分の亞爾答保兒に溶解す

内用 頑固なる下痢に一回量〇、〇一五を與ふ又喀血及血尿に用い其の功單寧に勝れり

外用 眼薬法として〇、二—〇、五%液を、點眼料として1%の液を結膜炎に用ふ

處方

鉛糖 〇、五

餾水 一〇〇、〇

單舍 一〇、〇

右毎二時一小兒匙宛(喀血、血尿)

○鉛水 Aqua plumbi

次醋酸鉛一分水四十九分より成る

外用 挫傷に罌法劑として用う但皮膚剝脱せる處部には注意して用う可し是れ其の中毒を起し易け

各論 え之部

鹽酸ヘロイン、エピデルミン、エナツール酸規尼涅、エウピリン、鉛糖、鉛水、鉛軟膏、エルゴチノール、エウピニン

ればなり

○鉛軟膏 Unguentum plumbi

鉛醋二分刺納林軟膏十九分より成る

外用 消炎劑として諸般の炎症の初期、挫傷等に用う清涼乾燥の功あり

○エルゴチノール Ergotinol

本品は「エルゴチン」酸安母組織にして本品は止血の功力甚強く一立方仙瓦は麥角越幾斯の五、〇に相當す而して久しく分解せざるの利あり止血藥として

内用 共に喀血、吐血、膀胱出血筋腫性出血等に用う即ち内用には二—一〇滴を一日數回滴服せしめ外用には皮下注射として用に供す

○エウロニン Eucharin

本品は無味にして規尼涅の代用品として賞用せらる

内用 麻拉利亞及百日咳に用う即ち麻拉利亞には

○、一〇〇、二を發作前四―五時に與へ百日咳には
○、一〇〇、二一〇、三を一日三回用う可し

○エビカリン *Epicrisium purium*

「ナフトール」の一新製劑なり弱黄色の粉末にして
「アルコホール」「エーテル」脂肪油に溶解す中毒を
來すことなし

外用 疥癬、帶狀皰行疹、痒疹に賞用せらる「カ

ボシー」氏 *Capsie* に依れば本品を疥癬に用うる
時は二時間にして死滅乾燥すと云ふ(維那醫事週報二〇〇年)

處方

エビカリン 一〇、〇

單軟膏 一〇〇、〇

右軟膏とす(疥癬

痒疹)

處方

エビカリン 五、〇

エーテル 一五、〇
赤酒 八〇、〇

右混和頭髮精とす

(頭部皮脂漏兼脫

毛症)

加里石鹼 〇、五

カゼイン軟膏 適宜

右全量三十瓦軟膏

とす(靜血性炎を

有する凍傷に適

す)

○エツロビン *Eurobin*

「グリザロビン」の第三醋酸鹽にして刺戟少なきを
以て「グリザロビン」の代用品として賞用せらる
帶赤黄色の粉末にして水に溶解せず「コロ、ホル
ム」依的兒に容易く溶解す

外用 二―五%の軟膏となし乾癬に用いて著功あり

○燕麥(除殼) *Semen Avenae excoctatum*

五―一〇、〇を一〇〇、〇に煎出し下痢症に用ふ

○鹽浴藥湯の條下を見よ

○有加利布篤油 *Ol. Eucalypti*

實扶的里の吸入に用ふ「モスレル」氏 *Mosler* は
左の溶液を使用せり

有加利篤油 二、〇―五、〇 純酒精 二〇、〇―二

五、〇 餾水 一五〇、〇

實扶的里は本劑の使用に由りて體溫下降し咽頭壁
の滲出物は消失して清淨となると云ふ

○粗製有加利布篤丁幾 *Tinctura Eucalypti glob*

一日數回一五―二〇滴、間歇熱に内用す

○オイカシ *Eucasinum*

安母尼亞と乾酪との抱合體にして臭味なく温水中
溶解して乳狀液をなす白色粉末なり

内服 消化容易なる強壯藥なり一日二―三―四回

一小兒匙宛肉汁、葛湯、麥湯、或は咖々阿脂に混

して用う

○オイラクートル *Enlactol*

本品は牛乳より製し之に乳糖、乳蛋白、植物蛋白
等を混合したる強壯藥なりとす

用量三歳の小兒には一日三回一茶匙宛、年長小兒
には一日三回一食匙宛とす

○オルトフォルム *Orthorm*

白色無味無臭の結晶狀粉末にして水には少しく溶
け「アルコール」には徐々に溶解し局處の知覺を
麻痺せしむる無毒藥なりとす

外用 火傷及疼痛性潰瘍面、齒痛等に用うべし

處方

オルトフ

アルム 一〇、〇

濃粉 一〇、〇

右潰瘍面撒布料

處方

オルトフ 五、〇

アルム 二〇、〇

右塗布料(喉頭の

結核性潰瘍)

○オキシノーゲン *Oxygenium*

吸入として貧血、腺病、結核の初期「クロロホルム」
假死、實扶的里亞等に賞用す

本劑の吸入は赤血球の再生機關に其効を奏し又新
陳代謝を高度に奮起せしむ用量は四五歳の小兒に

各論 お之部

エビカリン、エツロビン、燕麥、鹽浴、有加利布篤油
粗製有加利布篤丁幾、オイカシ、オイラクートル
オルトフォルム、オキシノーゲン

臨床兒科醫典

在りては毎午前及午後に約一五—三〇律篤兒吸入せしむ可し

○オルフオール Orphol

水に溶解せざる灰色の粉末にして二六、五%の「マタナフトール」と七三、五%の酸化蒼鉛を含有し不快ならざる臭味あり

下痢殊に結核性下痢に功あり用量は三歳〇、〇五—〇、〇八、五歳〇、一一〇、一五、十歳〇、二—〇、三とす

○オッシン Ossin

肝油の蛋白抱合體なり食慾を亢進せしめ體重を増加せしむ成人も小兒も善く用うることを得可し牛乳咖啡等に混ずるときは一層用い易し

○含糖石灰水 Liguor Calcis Saccharatus

煅性石灰一〇、〇白糖二〇、〇水二〇〇、〇より成る

石炭酸及修酸中毒に毎十分一食匙宛與ふ

○加麻里篤 Camarite

「サントリン」 Santorin 産の赤葡萄酒にして鞣酸の多量を含有するが故に虚脱の徴ある下痢に卓効あり一茶匙若は一食匙宛與ふ(メンツヘル氏 Menzer)

○翔布兒(樟腦) Champhora

昇華に由りて樟より製せる白色脆弱なる結晶塊にして強烈なる香氣と固有の味とを有し水には只僅に溶解するも酒精、依的兒、格魯爾保兒誤には多量に溶解す其の酒精を加へて精製したる者を翔布兒篤里多 Champhora trita とす

には亢奮藥として心臓の衰弱せる患者に散(蠟紙に包むべし)又は乳劑として與ふ

熱性患者は本品の香氣を厭忌せず用量は〇、〇〇五—〇、〇一〇、〇二—〇、〇五とす若し用量過大に失するときは痙攣を發することあり

外用 擦劑とし或は亢奮劑(皮下注射)として用う

處方

翔布兒 〇、五

亞拉比亞護膜 〇、五

餛水適宜を加へ全量

八〇、〇の乳劑とな

す

桂皮舎 一〇、〇

右毎二時一茶匙宛

(心衰弱)

翔布兒篤利多 一、〇

依的兒 一〇、〇

右皮下注射料(虚脱)

○翔布兒油 Oi, Champhoratum

翔布兒一分を阿列布油九分に溶解濾過したるものにして虚脱の徴ある者に皮下注射として用う 用量は四分の一乃至二分の一筒宛とす

處方

翔布兒篤利多 〇、〇五

安息香酸 〇、〇三

護膜散 〇、三

右爲一包毎二時一

包宛(肺炎、氣管枝

炎、肺水腫の喀痰

困難なる者)

○翔布兒精 Spiritus Champhorat

翔布兒一分酒精七分水分二分より成る

優麻質斯性及神經痛性疾患に擦劑として外用に供す

○翔布兒酒 Vinum champhorat

翔布兒亞爾爾保兒各一分護膜漿三分白葡萄酒四十分五より成れる白濁の液體にして綿帶用として瘰癧に外用す

○加爾尼府留母 Carniferum

肉越機斯より得たる鐵化合物にして肉越機斯様の味を有する褐色無臭の粉末なり

本品は三〇%の鐵と一%の磷とを含有す萎黃病其の他貧血に〇、一一〇、三宛一日三回與ふ

○加斯加羅サグラダ Cascaru Sagrada

北米に産する灌木にして緩下の功を有す通常「カスカラサグラダ」流動越斯として一日二回十乃至十二滴を與ふ

各論 か之部

オルフオール、オッシン、含糖石灰水、加麻里篤、翔布兒、翔布兒油、翔布兒精、翔布兒酒、加原尼府留母、加斯加羅サグラダ

處方

カスカラサグラダ流動越機斯

各三〇、〇

餾水

單 舍

三〇、〇

右一日三回半茶匙宛(便秘)

○サグラダ酒 Vinum Saqrada

下劑として一茶匙宛用うべし

○加斯加爾刺皮 Corte Cascarillae

本品の有功成分は依的兒性油、樹脂及苦味質なりとす

には浸若は煎として腸加答兒及消化不良に用う

用う

處方

カスカリルラ皮煎(五、〇)

八〇、〇

單河片丁幾

一滴

單 舍

一〇、〇

右每二時一小兒匙宛(腸加答兒)

○カスカリルラ丁幾 Tinctura Cascarillae

止血劑の配伍藥とし又健胃劑として用う殊に消化不良に對して功あり是れ其の胃液の分泌を促進し恐くは又異常醗酵を制止するに由る

處方

カスカリルラ丁幾 二十滴

餾水 五〇、〇

單 舍 五、〇

右每二時一小兒匙宛(消化不良)

處方

カスカリルラ丁幾 二十滴

單阿片丁幾 一滴

餾水 五、〇

單 舍 一〇、〇

右每二時一小兒匙宛(腸加答兒)

○癩脂 Eicheleneo

腸加答兒の際水と共に煎沸して之を與ふ

○檳實咖啡 Eichelentee

強壯收斂藥として下痢を有する腺病性及尙癩病性小兒に賞用す即ち一硝子邊の水に一―二茶匙を和し之に牛乳及糖を混して服さしむ

○摩擦浴、藥湯の條を見よ

○含糖炭酸鐵 鐵製劑の條下を見よ

○含糖沃度鐵 鐵製劑の條下を見よ

○甘汞一名格魯兒化汞 Calomel, Hydragyrum chlorat.

白色の粉末にして水及酒精に溶解せず

緩下劑として〇、〇一―〇、〇五を毎二時に用う

下痢及吐瀉症殊に夏日に於ける消化障害の結果症たる醗酵を抑制するには〇、〇〇五―〇、〇一を散とし亞拉比亞護謨と共に與ふ

大量の甘汞は通瀉と共に下熱の功あり「トラウベ」氏 Traube は之を以て多量なる排便の效果に歸せりと雖他の學者は甘汞は腸に於て多少昇汞を形成し由て以て醗酵を制止するに因るとなせり例へば腸壁扶助、夏日下痢等の際に於けるか如し

利尿藥としては全身水腫(尿利減少の爲尿毒症の

各論 か之部

摩擦浴、サグラダ酒、加斯加利爾刺謨、カスカリルラ丁幾、果實、果實咖啡、含糖炭酸鐵、含糖沃度鐵、甘汞一名格魯兒化汞

癩

危險あるもの(一〇、〇五を毎時連服多量の排便あるに至る迄用う(三―四包))

初生兒先天梅毒には〇、〇一―二回を持長せざる可らず但之に由りて全身貧血を發するを常とす故に甘汞は鐵製劑と共に使用せらる「モンチー」氏 Monti は乳酸鈣一同量〇、〇二を賞用せり而して又同氏は後療法として次の方劑を推薦せり

含糖沃度鐵 一、〇

白糖 二、〇

右十包に分ち一日三回一包宛

甘汞と沃度劑とは同時若は少時間内に服用せしむ可らず是れ體內に於て毒性強き沃度化汞を形成すればなり又甘汞は沃度保兒謨と同時に使用すべからず是れ體內に於て亞沃度化汞と格魯羅保兒謨とに變化し亞沃度化汞は直に沃度化汞を形成すればなり

此他甘汞は貌魯加里と同時の服用を忌むべく又苦

臨床兒科醫典

扁桃水との併用を禁すべし。臍化水銀形成の危害あるに由る

外用 初生兒の梅毒に背部若は胸部の皮下注射薬として應用せらるる但此注射は疼痛あり且屢々膿瘍を形成す「モンチー」氏は次の注射液を賞用せり

- 甘汞 〇、五—一、〇
- 護膜乳劑 各五、〇
- 處方設林

右半筒乃至一筒筋肉注射

撒布藥として角膜翳に(昇華製甘汞)用う此際同時に施行する沃剝療法に顧慮すべし此他又扁平膿腫にも賞用す但預め食鹽水を塗布したる後に撒布すべし

- 甘汞 〇、〇三
- 金硫黃 〇、〇五
- 白糖 〇、五
- 甘汞 〇、〇一
- 護膜末 〇、三
- 右爲一包毎二時一

右爲一包一日二回
一包宛
三時一包宛(下痢及吐瀉症)

- (是有名なる「ブルムメル」小兒散「Pinner」にして腺病及氣道加答兒の小兒に用ふべし)
- 甘汞 〇、〇一五
- 白糖 〇、三
- 右爲一包朝夕一包宛(梅毒)

昇華製甘汞 五〇

右細末となし撒布料となす(角膜翳)

加麻刺 Kamala.

印度支那及非利賓に産する Mallotus Philippineensis の葉實より製せる無味無臭帯灰紅色の輕き粉末なり。
内服 驅虫劑として四才以下に一、二五、八才以上には二、〇—三、〇を散劑若は煉藥となし糲虫に用

外用 には撒布藥として濕爛に用う

- 煨性苦土 五、〇
- 滑石 二〇、〇
- 一里失兒酸 〇、二
- パルサム合劑 十滴
- 右撒布料(濕爛)

肝油 Ol. Jecoris Aselli, Lebertran.

本品は新鮮なる大口魚より製したるものにして其の帶綠黄色は多量の游離脂酸を含有するに由る「ブツハイム」氏 Buchheim に依れば暗色なる肝油は游離脂酸の多量五%を含有するが故に卓拔の功ありと透明なる肝油は攝取し易きも其の功力弱し
内服 滋養品として用う蓋し本品中の游離脂酸は腸に至りて直に鹼化し剩餘分は乳糜となりて容易く吸收せらるるに由り佝僂病、腺病、結核及其他の榮養障害性疾患に賞用すべし但八個月以内の小

本品は驅虫作用の他通痢の功ありと雖其の功他の驅虫藥に及ばず

- 加麻刺 三、〇
- 右糖水を以て一時
- 間内に攝取(糲虫)
- 加麻刺 各二、〇
- 姑蘇 二〇、〇
- 精製蜂蜜 二〇、〇
- 綿馬根末 二〇、〇
- 茴香水 一〇〇、〇
- 右毎二時一小兒匙宛(糲虫)

煨性麻脛涅矢亞一名煨性苦土 Magnesia ush.

精微白色なる輕き粉末にして水には殆んど溶解せず
内服 制酸劑(一刀尖)及下劑(一茶匙)として用い又亞砒酸併に鐵酸類の中毒症に解毒藥として大量を與ふ

各論 か之部 加麻刺、煨性麻脛涅矢亞一名煨性苦土、肝油

兒、熱ある者、食慾減損せる者、下痢ある者併に夏期は服用を避く可し
用量は茶匙を以て初む日々の量二—三小兒匙を超へざるべし用時は食後三十分なるを可とす決して空腹時に與ふ可らず

肥胖せる腺病性の小兒には肝油よりも鹽浴及沃度を以て優れりとす之に反して高度の羸瘦及慢性呼吸器加答兒の小兒には肝油は甚推奨すべき價あり

外 用 蟻虫の驅除薬として一日二回三〇、〇—五〇、〇を直腸洗注として用い又慢性腹膜炎殊に結核性症に塗擦料とす

處方

肝油 一五〇、〇
結列阿曹篤 一、〇
右一日二—三回一
小兒匙宛食後服用
(結核)

處方

肝油 一〇〇、〇
燐 〇、〇—
右朝夕一茶匙宛
(佝僂病)

肝油 四、〇
亞拉比亞護膜漿、餵
水各適宜八〇、〇の
乳劑となし瀘過
單舎 一〇、〇
右一日間に服用
(佝僂病)

稠厚肝油 Morrhoul

本品は肝油の脂肪を脱却したるものにして凡て肝油の有功作用を有する無脂煉製肝油 Condensierter Lebertran ohne Fett なり

本品は不味なるか爲只膠囊に盛りて年長小兒に用うることを得るのみ

本品〇、二は肝油五、〇に比敵す一日二—四個の「モルル」膠囊を用う
鐵肝油 Eisen Lebertran

用量一日一乃至二茶匙とす

加實奴謨油 Ol. Cadinum

檜 Juniperus Oxy cedrus を乾餾して得たるものなり功用木參兒に同じく慢性皮膚病殊に頑固の濕疹に功あり

處方

加實奴謨油 五、〇
阿列布油 一五、〇
右擦入料(濕疹)

處方

加實奴謨油 各一、〇
阿列布油 各一、〇
刺納林 一〇、〇
右塗擦料但數週持
長すべし(濕疹)

海葱醋蜜 Oxymel Scillae

海葱醋五分蜂蜜十分より成る

内 用 乳兒の吐劑として一—二茶匙を與へ又屢々利尿劑及祛痰劑に伍用す

其の他本品は百日咳に用いて功あり即ち午後三時より四時の間に於て毎十分時に一茶匙宛與へて全

各論 か之部

稠厚肝油、鉄肝油、加實奴謨油、海葱醋蜜、加里石鹼、芥子末、家用石鹼、一名滑石石鹼、滑石、芥子末

芥子末 Semen Sinapie

内 用 には牛乳に和して下痢の際に與ふることあり

滑石 Talcum

硅酸苦土鹽にして白色結晶様の粉末なり
外 用 濕爛に撒布し又撒里失兒酸と伍して足汗に用う

家用石鹼一名滑石石鹼 Sapo domesticus Talgseife

量を服用せしむ三才以下の小兒に在りては全量四—五茶匙三歳以上に在りては六—七茶匙とす此際晚餐は午後七時に攝取せしむ
〇加里石鹼 Sapo Kalinus
加里油汁亞麻仁油及酒精より成る

外用 泥として皮膚の誘導に用う即ち芥子粉を温水(熱水は可ならず)にて攪拌し稠厚なる泥となし亞麻布に攤して皮上に貼し其の潮紅灼熱するに至りて除去す所謂弱芥子泥は長く貼用することを得るものにして小兒科に於ては一般に賞用すと雖急速の功を収め難し此ものは芥子粉一分、亞麻仁粉五分一六分より成る

又芥子は浴として虎列拉に用い功あり

○芥子紙 Charta Sinapisata

脂を脱したる芥子末を紙に攤したるものなり使用前先づ温水を以て濕す可し

○芥子精 Spiritus Sinapis

芥子油一分酒精四十九分より成る

急速有功なる皮膚の引赤 Rubefaciens を得んとする時に用う蠶蝨なる紙片を皮上に貼し之に點滴すべし

○芥子浴、藥湯の條を見よ

○カプトル Copiol

本品は「フォルマルデヒド」と格魯刺兒との化合物にして暗褐色の粉末なり冷水には溶け難く温水及「アルコール」には容易く溶解す

外用 一—二%酒精溶液となし頭部の皮脂過多にして脱毛を兼ねるものに塗擦し功あり

○可溶性磷酸着鉛 Bismuthum phosphoricum Solubile

磷酸及那度倫と共に大約二〇%の酸化着鉛を含有する可溶性鹽なり

外用 吐瀉病及急性下痢に賞用するのみならず又腸結核、胃潰瘍等にも用う

用法 可溶性磷酸着鉛 一、〇—二、〇

餾水 一〇〇、〇

單舎 一〇、〇

右每二時一茶匙乃至一〇分一匙宛(腸加答兒)

橙皮舎 二〇、〇 單舎 一〇、〇

右每二時一〇分一匙宛(心衰弱)

(強壯藥)

○複方規那丁幾 Tinctura china Compl.

規那皮、橙皮、健智亞那根、桂枝及酒精より成る健胃劑として半—一茶匙を糖水に和し用う

○規那酒 Vinum Chinae

規那丁幾處里設林各一〇〇、〇設利酒三〇〇、〇より成る

用法 一日數回一茶匙宛健胃劑として汎く消化の健全ならざる各種の疾患に用う(萎黃病、佝僂病、消化の健全ならざる者、神經衰弱等)

○寒製規那越機斯 Extractum chini Frigide Paratum.

消化し易き製劑にして最良く小兒に適應す

用法 寒製規那越機斯 二、〇

並

各論 か之部

芥子紙、芥子精、芥子浴、カプトル、可溶性磷酸着鉛、加密爾列佐、稀鹽酸、稀硫酸、規那皮、複方規那丁幾、規那酒、寒製規那越機斯

○加密爾列花 Flore Chamillae

本品は「ウルガリス」加密爾列及羅馬加密列なり

用法 には痲痛の際茶湯として與へ又乳兒の吐瀉として用う

外用 には痲痛の際洗腸劑とし又藥湯、巴布、蒸掃藥、其他枕の資料として用う

○稀鹽酸

鹽酸一分水九分より成る功用鹽酸に同じ

○稀硫酸 Aci dum sulfuricuma dilutum

硫酸一分水五分より成る無色透明の液體なり

用法 年長小兒の嚔血の際五乃至十滴を糖水に和して與ふ

○規那皮 Cortex Chinae

強壯劑として内用に供し多くは酸類を配伍す

用法 規那皮煎(五、〇) 一〇〇、〇 規那皮煎(八、〇) 一〇〇、〇

鹽酸 〇、五 續草丁幾 二、〇

留水 八〇、〇

橙皮舎 一〇、〇

右一日四回一小兒匙宛（腺病小兒の體力維持に與ふ）

○君影草丁幾 *Tinctura Gonvallarine majalis* (利尿薬 *Diureticum*)

五乃至十滴宛一日二三回内服せしむ利尿の功ありと雖甚しく心臟を亢奮せしむる危険あるが故に注意す可し

○金硫黄（硫化安質母組膜） *Goldschwefel* (*Sulfurum Sulfuratum Arantiacum*)

橙黄色の粉末なり亞爾加里及金屬鹽と配伍するを息む

○腺病に用い又祛痰劑として氣管枝炎に用う彼の「アルムメル」氏小兒散は金硫黄〇、〇五甘汞〇、〇三白糖〇、五を一包となしたるものにして主にも腺病性小兒に用う祛痰劑としては〇、〇一

〇、〇五を一日二―四回散となし與ふ

○華葉 *Herba violae tricoloris*

○淨血劑として腺病性發疹に浸劑五、〇―一〇〇、〇となし與ふ久時之を用うるときは尿量増多す

○キセロフォルム *Xerofornium*

本品は三親管母化フェノール酸蒼鉛にして無臭無味黄色微細の粉末なり水に溶解せず亞爾加里量に達へば臭素加里を生ずるも熱に由りて分解することなし故に本品を以て製したる綯帶材料（一〇―二〇―三〇%「キセロフォルム」綿沙等）は熱瀉消毒に堪ゆるの利あり

○防腐收斂の目的を以て成列拉及腸加答兒に用う用量は一回〇、〇二―〇、〇五―〇、一―〇、二を一日數回投與すべし

○本品は殺菌、脱臭、分泌制限の功あるのみならず又鎮痛止血の功あり故に外科に於ては沃土

に由りて治癒せる實驗を報告せり支那人も亦從來本品を實扶的里性炎症に使用す

○苦扁桃水 *Agua Amygdala amararum*

本品は胃腸及氣管枝の神經を鎮靜す初生兒には一滴、一二ヶ月の小兒には二滴、三四歳の小兒には三―四滴を二―三時間毎に水に滴し若は合劑に混じて與ふ然れども近時一般に青酸劑は使用せられざる傾向あり是れ其の小量は粘膜鎮制の功を奏せず大量には中毒の危険あるか故なり
本品使用の際は甘汞を忌むべし臍化汞を生成するか故なり又沃度加里の同時服用も禁すべし是れ沃度及青酸の游離に由りて猛毒なる青酸加里を化生するを以てなり

實斐多利 〇、三
斯葉浸 〇、三
苦扁桃水 三、〇

實斐多利 各三、〇
斯丁幾
苦扁桃水

各論 か之部

君影草丁幾、金硫黄、華葉、キセロフォルム、キノゾート

各論 か之部
君影草丁幾、金硫黄、華葉、キセロフォルム、キノゾート

防に代用して諸般の創傷に用い耳鼻咽喉科に於ては吹入料として賞用す又諸多の潰瘍（結核、梅毒等）及濕疹に或は撒布藥とし或は二〇乃至五〇%の軟膏となし用ふべし

○キノゾート *Chinosotum*

炭酸結列阿曹篤の新製劑にして薄荷様の香氣と苦味とを有する黄色の稠液なり

○肺結核に用い其の功炭酸結列阿曹篤に優れりと云ふ用量は一日〇、一乃至三、〇なりとす

○枸橼酸 *Acidum citricum* (*Citronensäure*)

無色の結晶にして實扶的里に賞用す即ち五―一〇%の溶液を毎一二時一茶匙宛内服せしめ同時に該溶液を塗喉し又二〇%の稀釋液を含嗽せしむ

○枸橼汁 *Titronensaft*.

學士「グラッサスタ」氏 *Grass'sk* は數年前「ランセット」*Lancet* 紙上に「カリフォルニア」に於て重症實扶的里の患者が新鮮なる枸橼汁を攝取せる

各論 か之部

君影草丁幾、金硫黄、華葉、キセロフォルム、キノゾート

各論 か之部
君影草丁幾、金硫黄、華葉、キセロフォルム、キノゾート

單 會 三〇、〇 餵 水 一二、〇
 右每三時一茶匙— 右一日三四十滴宛
 一小兒匙宛 (心臓 (心悸亢進、心臓
 疾患) 病)

○格魯兒安母組設一名「ザルミヤク」Ammonium Chloratum, Salmiak.

白色無臭の結晶糖粉末にして熱に遇へば液化し三分の冷水一分の熱水に溶解し酒精には殆んど溶解せず祛痰劑として

【用法】 には〇、五—一、〇—一〇〇、〇の合劑を與ふ

【外用】 には吸入劑として氣道の加答兒に用う

本品は長く持續して用うるときは胃を障害す最も住居なる調味藥は甘草越櫛斯なりとす

| | | | |
|---------|-------|----------|------|
| 格魯兒安母組設 | 一、〇 | 格魯兒安母組設 | 〇、五 |
| 餵 水 | 一〇〇、〇 | 吐根浸(〇、二) | 一〇、〇 |

右吸入料(喉頭炎、 甘草會 二〇、〇
 氣管枝炎) 右每二時一小兒匙
 宛(氣管枝炎)

○格魯兒石灰 Calcarea Chlorati, Chlorcalc.

格魯兒の臭氣を帯びたる白色の粉末にして水には只一部分溶解す

醫藥としては消毒藥に用うるの他不快なる癢痒を有する第一度の凍傷に對し局處浴(一食匙を一里解)に用い又口内洗滌藥及含嗽藥(三—一〇〇)として口内炎及實扶的里に用うることをあるのみ

○過酸化石灰 Calcium Superoxydatum.

水には極めて僅に溶解する黄色結晶糖粉末にして小兒の酸性消化不良及夏日下痢に内服せしむることあり其の用量は年齢に従ひ一日量〇、一—一〇、六を牛乳に混して與ふ(「レスコウスキー」氏 Res-kowski)

○格魯爾保兒母 Chloroformium.

固有の香氣を有する透明無色揮發性の液體にして甘味を有し極めて僅に水に溶解し酒精、依的兒、脂肪及依的兒性油と能く混和す
 本品は酒精及格魯兒石灰を蒸餾して製す注意して光線を避け貯ふ可し

本品を水と混合震盪するに決して刺苦誤斯試驗紙を赤變す可らず本品の尤純真なるものは抱水格魯劑兒より製出したるものとす

【外用】 知覺麻酔藥として初生兒の各種の瘡癩、聲門痙攣等に際し吸入に用う之に由りて長時持續せる瘡癩の速に消散すること屢々なりとす「デムメ」氏 Demme に從へば小兒は格魯爾保兒母の大量に對し可耐性を示すと呼吸器の虛弱なる者には本劑の使用を慎む可し

本劑は小兒には内服せしむること殆んどなし
 ○クレオリン Creolin.

黑色舍利別様の液體にして石炭酸兒様の臭氣を有

各論 か之部 格魯兒安母尼誤一名ザルミヤク、格魯兒石灰、過酸化石灰、格魯爾保兒母、クレオリン、還元鐵、虞里設林

【外用】 外科的の手術に於て石炭酸及昇汞の代用とし〇、五—一%の液を消毒に用う又之と同稠度の液を瘡口瘡の口内塗布料に用う疥癬の擦入劑としては五、〇—一〇、〇を阿列布油一〇〇、〇に混して用ふ
 本品は時に中毒(嘔吐、下痢、暗色尿、處脱、死亡)することあり使用の際宜しく注意すべし

○還元鐵 鐵製劑を見よ

○虞里設林 Glycerinum.

透明無臭甘味の中性舍利別様液體にして水及酒精には各比例に於て溶解するも依的兒格魯兒保兒母及脂肪油には溶解せず

【外用】 剥露したる皮膚部分の刺戟緩和藥(水と等分)として用い又潰瘍の細帶材料となし咽喉頭の塗布料となし其の他沃度、鞣酸、硼砂等と混和して鼻腔の塗布に用う

二―三五の虞里設林灌腸は能く腸の蠕動を催起す加々阿脂を混したる坐薬も通痢を起すと雖往々功を奏せざることあり
外聽道乾燥症には虞里設林の一二滴を滴すべし又喉頭加答兒及格魯布の吸入には虞里設林一分餾水五分のものを用うべし

【用法】

虞里設林

各二〇、〇

餾水

右塗布料(皮膚剝脱)

【用法】

虞里設林

五〇、〇

硼酸

五、〇

右塗布料(濕爛)

【用法】

虞里設林

一〇、〇

硼酸

〇、二五

右點耳料(外聽道乾燥症、耳垢塞)

【用法】

虞里設林

一〇、〇

沃度仿讓末

一、〇

右點耳料(慢性中耳炎)

○グアヤコール Guajacolum

右豌豆大を取り擦入料とす(無痛性腺腫)

○過酸化汞 Hydrargyrum bichloratum.

「アヨニット」丁幾を配伍して用うべし是れ過酸化汞は體温及脈數を下降せしむるのみならず口峽炎の際特異作用を呈するに由る

【用法】

過酸化汞 〇、〇一

餾水 六〇、〇

アヨニット丁幾 〇、〇

右毎時一茶匙宛(實扶的里)

○過酸化水素 Hydrogenium hyper oxydatum.

滋味を有する無色の液體にして過酸化水素水の調製に用う

○過酸化水素水 Aqua Hydrogenii hyperoxydanti.

本品は酸化の性を有し實扶的里に用いらる「ヤコビー氏」Jacobi は言ふ過酸化水素水は宛も兩刃の劍の如し一側人を害ひ他側己れを傷く何とな

各論 か之部

グアヤコール、炭酸グアヤコール、過沃度化汞、過酸化水素、過酸化水素水、格魯兒加留母一名鹽酸加里

○炭酸グアヤコール Guajacolum carbonicum.

白色無臭殆んど無味の粉末なり

【用法】 肺結核患者に初量として左方を與ふ

グアヤコール 一、〇 阿列布油 一〇、〇 日二回五滴宛

【用法】 肺結核患者に初量として左方を與ふ

○過沃度化汞 Hydrargyrum biiodatum.

猩紅疹様の赤色粉末なり

水脈腺腫に外用す

【用法】 過沃度化汞 〇、七

華攝林 四〇、〇

れば有力なる消毒作用ありと雖組織の溶性蛋白を溶解し有色の廣大なる假性膜を形成して屢々實扶的里性膜と誤認せしむるのみならず其の剝脱部には淺在損傷を貽し新來の病的菌侵襲に對し恰好なる機會を與ふるの害あればなり

【用法】

二%過酸化水素水 一二〇、〇

虞里設林 三、〇

右每三十分―二時一茶匙宛(實扶的里)

本劑は又吸入に用うることを得

○格魯兒酸化加留母一名鹽酸加里 Kalium cheoricum.

無色の結晶にして十六分の冷水及三分の熱水に溶解す

【用法】 口内炎、腐爛性口腔炎、安義那、實扶的里性炎、膀胱炎に等に用う

用量 長したる小兒には一：四〇の液を晝間は毎

時夜間は毎二時三十分一食匙宛與へ幼き小兒には

一：六〇の液を同一の方法に由りて與ふ可し但三才以下の小兒には此稀薄液を半茶匙宛與ふるを可とす

年齢一歳の小兒には日量一、〇二—三歳の小兒に在りても一、五—二、〇を超へて用う可らず又本品を處するに當りては佐藥の配伍は可成的之を避く可し

格魯兒酸加留母の中毒死は其の之に由りて誘發せられたる血色素尿及腎臟炎に基く又本劑使用時には沃度加里の同時服用に注意をすべし之に由りて小兒の死に陥りたる者あればなり是れ鹽酸、加里及沃度鐵同時に形成せられ此の際又游離沃度を生ずるに由るなり

本劑は空腹時に於て服用せしむ可し

【用法】 二—四%の液となし安義那、實扶的里、口内炎、腐爛性口腔炎に含嗽せしめ膀胱炎には〇、

五%の液を鼻鼻瘡には一—三%の液を以て洗滌すべし

【用法】 コロール 一、〇
酸加留母 六〇、〇
餾水 六〇、〇

右書間は毎時夜間は毎二時三才以下の小兒は一茶匙宛三才以上の小兒は半食匙宛(實扶的里)

【用法】 コロール 一、〇
酸加留母 四〇、〇
餾水 四〇、〇

右書間は毎時夜間は毎二時半食匙宛(年長小兒の實扶的里)

【用法】 コロール 五、〇
酸加留母 二〇〇、〇
餾水 二〇〇、〇

右含嗽及口内洗滌料(口内炎、安義那、

【用法】

過滿俺酸加里 〇、五
餾水 一〇〇、〇
右鼻腔洗滌料(鼻瘡)

消毒料(惡性猩紅熱)

○結列阿曹篤 Kveosolum.

竄透性の臭氣と燒くか如き味とを有する透明弱黄色油様の液體にして「アルコホール」「エーテル」及硫化炭素と混合して透明の液をなし水には百二十倍の熱水と混して初めて透明となる

【用法】 消化管内に於て異常の分解を呈する疾患(消化不良、急性胃加答兒、急性腸加答兒、初生兒虎列拉)に醗酵制止の目的を以て賞用せられる殊に嘔吐あり甘汞及鹽酸功なく尿糞の惡臭依然たる症に適す

又肺結核に有功なりとして用いらると雖食慾住長ならざる者、咯血及尿中蛋白を混する者には特長

實扶的里

○過滿俺酸加留母 Kalium Permanganium.

鋼鐵穢の光輝を放ち深堇花色(殆んど黑色)の三稜結晶にして二十五倍の水に溶解し青色を呈す

【用法】 含嗽及口内洗滌藥として〇、一—〇、二%の溶液を防臭殺菌の目的に用い又〇、五%の液を蛇驚口瘡瘡布に一%の液を咬傷の際皮下注射(半筒)に用う

「ロホルマン」氏 Hillmann は浴湯として一〇を一桶の水に溶し大に腺病性の發疹病(濕疹、膿胞疹、痒疹、濕爛等)に賞用せり又特に麻疹、猩紅熱、痘瘡落屑期に於ける消毒(豫防の目的を以て用う)に賞用せらる

【用法】

過滿俺酸加里 〇、一
餾水 二〇、〇
右塗布料(驚口瘡)

【用法】

過滿俺酸加里 〇、二
餾水 二〇、〇
右口鼻咽腔粘膜炎の

各論 か之部 過滿俺酸加留母、結列阿曹篤

すべからず

| | | | |
|------------|------|----------|-----|
| クレオ ソール | 一二五滴 | 健智亞那丁幾 | 二、〇 |
| 餾水 | 三〇、〇 | 結列阿曹篤 | 一、〇 |
| 亞爾答舍 | 一五、〇 | 右毎日一—三滴々 | |

右毎二時一茶匙宛
 (上記の「クソツ
 諸症」
 ホ」氏 Henoch)

○クレオソール一名炭酸結列阿曹篤 Kreosol.
 Ksnot carbonat.

黄色蜂蜜様透明の液なり

肺結核に對して一日三四—十五滴宛牛乳
 に和して三—十五歳の小兒に用う

○屈列爾氏和胸散 Kureila Brustpulver,
 複方甘草散を見よ

○苦土大黃散又「ソツケ」氏小兒散 Pulvis Magnesi-
 ae cum Rheo, Kinderpulver (Rihke)

炭酸苦土十二分油糖八分大黃末三分より成る

小兒に賞用せらるゝ下劑なりとす一日三回
 一刀尖宛用うべし

○格魯兒那度留母一名食鹽 Natrium Chloratum Ko-
 chsalz.

肋膜炎滲出物の吸収には五：一五〇〇の液
 を粘膜の腺病性疾患には二：一〇〇の液を與へ地
 獄石及菌中毒の際に於ける解毒藥としては濃厚液
 を用うべし

浴湯の他瀉下洗腸として一%液を用う直腸
 膜粘の知覺神經を刺戟し以て蠕動を誘起せしむる
 の功あるに由る氣道粘膜加答兒の吸入には〇、五
 —一%の液を用う

虎列拉の際には食鹽〇、四%重炭酸那度留母〇、三
 %の液三〇、〇—五〇、〇を血温の腹壁の皮下に
 注射す「クソツホ」氏 Henoch は此腹皮下注射 Hy-
 podermoklyse を以て凡べての虚脱に賞用したり

「ザイフェルト」氏 Seifert は食鹽液を實扶的里の局
 處に外用せり

又食鹽の弱液は過剰の銀を中和するか爲硝酸銀使
 用後の結膜塗布に用いらる

格魯兒那度留母 五、〇
 餾水 一五〇、〇

右毎一時三十分一小兒匙宛 (肋膜炎滲出物
 吸収の爲)

○グアラナ巴斯多 Pasta guarana.

南米に産する植物 Sapindaceae の皮殻を去り之
 を粉碎して一日間水に浸漬し其の液より製出した
 る「チヨコラート」様物にして苦味を有し咖啡涅及
 鞣酸を含有す之を以て神經の強壯藥併に收斂劑と
 して勝加答兒に用いらる

「マイエル」氏 Meyer は散となし一回量〇、二五日
 量一、五を處せり

各論 か之部

クレオソール一名炭酸結列阿曹篤、屈列爾氏和胸散
 苦土大黃散、格魯兒那度留母一名食鹽、グアラナ巴斯多
 クルイルラヤ根、苦扁桃酸安知必林一名ツツソール

○クルイルラヤ根 Cortex quillaja.

「ゼネガ」の代用品にして悪心、嘔吐、下痢は「ゼネ
 ガ」よりも少し

祛痰の目的を以て煎劑となし氣道に喀痰の
 集積せる症に用う殊に氣管支炎の第二期に適す其
 の他慢性氣管支炎、肺炎の吸収期にも用うべし

クルイルラヤ根煎(三、〇) 一八〇、〇
 茴香舎 二〇、〇

右毎二時小兒匙宛 (急慢性の氣管支炎、
 肺炎)

○苦扁桃酸安知必林一名ツツソール Mandersäure
 atypirin, Tussol.

白色にして水に溶け易き粉末なり
 「レーン」氏 Rehn は百日咳に賞用せり調劑は通常
 單舎を加へて水劑となす用量は

一歳以下 一回〇、〇五—〇、一

二一三歳

〇・一

三一五歳

〇・二五—〇・五

五歳以上

〇・五—一・〇 二日、五日、五、〇

本品は牛乳及亞爾加里と同時に服用せしむ可らず

○グリコゲナール Glycogenal.

白色の粉末にして無味無臭水に溶解するも「アル
コホール」「エーテル」に溶解せず

内用 健胃強壯薬として心臓疾患、肺癆、産褥熱、
窒扶斯等の衰弱患者に用う用量は一日〇・〇—
一オ(〇・四(十才)とす

外用 には皮下注射として用うることなきにあら
ず

○クリオフィン Kryofin.

無味無臭無色の針狀結晶にして冷水には溶け難く
熱水には溶け易し

内用 解熱薬及神經鎮痛薬として熱性疾患及坐骨
神經痛、偏頭痛に用う用量は〇・二(十才の)一日三

用量は一日三回〇・〇—一・〇、五—一・〇食後に用
うべし

処方 グアヤツ 〇・五
エチン 右爲一包一日三回
一包宛食後服用
(肺結核)

処方 グアヤツ 三、〇
エチン 設利酒 一五、〇
餾水 八〇、〇
單 舍 一〇、〇
右一日三回一小兒
匙宛食後服用(肺
結核、腺病)

○クレオソリド Kreosolid, "Denzel"

麻痺涅矢亞と「クレオソート」の抱合體にして僅に
臭味ある白色粉末なり「クレオソート」の含量は其
の九〇%に達し胃を障害すること少し用量は一日
三回〇・〇—一・〇とす肺結核に用ふ可し

○ウルザー氏銀軟膏 一名コロロアダール銀軟膏
Ungentum Argentii Crede, ungu. Argent. Colloi-

各論 く之部

グリコゲナール、クリオフィン、グアヤツノール、グアヤツ
エチン、クレオソリド、クルデー氏銀軟膏一名コロロアダ
ール銀軟膏、クトール一名硼酸單寧酸アルミニウム

回興ふべし

○グアヤツノール Guajacanol

グアヤコールの臭氣を放ち鹹苦の味を有する白
色の結晶にして水に溶け易く又吸収せられ易き
「グアヤコール」の抱合體なり

内用 肺結核、腸結核の下痢、慢性胃腸加答兒等
に用う用量は〇・〇三—〇・五—一・〇を一日三回
與ふべし

外用 には防腐防臭の目的を以て二—五%液を醃
花したる癌腫に用い又五—一〇%液を臭鼻瘡に勝
脱及胃の洗滌には〇・五—一・〇%液を用う

○グアヤツエチン Guajacetin.

白色の粉末にして其化學的構造及功用「グアヤ
コール」に類す十五分の水に溶け不快ならざる苦味
を有し副作用なし

内用 食慾催進薬として肺結核、腺病及虚弱家の
消化不良に賞用す

date.

コロロアダール銀一五、〇蒸餾水五、〇白蠟一〇、

○安息香豚脂七〇、〇より成る

外用 凡て腐敗性傳染性炎症(産褥熱、蜂窩織
炎、丹毒、敗血症等)に塗擦劑として賞用す

○コロロアダール銀は可溶性の銀にして硬く金屬様
の光澤を放つ物質なり二十五分の水に溶解して褐
色液と成り酸に遇ふて銀を析出すれども蛋白には
分解することなくして溶解す殺菌力甚強きも刺戟
なし胃液に由りて變化することなく吸収せられ皮
下に注射するに疼痛なく潰瘍若は滲潤を生ずるこ
となし

外用 には百倍乃至一萬倍の液となして洗滌に用
い軟膏としては皮膚の擦入に用い棒劑に作りては
痲管若は深部の膿竈に挿入するに用う

○クトール一名硼酸單寧酸アルミニウム Cololum,
Aluminium boricatannicum.

水に不溶解性の鮮褐色の粉末なり
撒布薬として濕疹に用い功あり

○ケプイル Kefyr.

高加索に於て醸成したる醗酵素を使用し牛乳より
製出したる榮養品にして牛乳に由り下痢を起す者
に用う

本品は製法の異なるに従ひ一日(若)二日(中)及三
日(老)「ケプイル」の區別あり

○纈草酸亞鉛 Zinci Valerianicum.

白色眞珠様の光輝を放ち纈草酸の臭氣を有する結
晶にして水には溶け難く「アルコホール」には溶け
易し

〔内服〕 癩癩、歇私的里に二〇、〇二—〇、〇三を一
回量とし一日三回用う

〔處方〕

纈草酸亞鉛 〇、〇二五
乳糖 〇、三

右爲一包一日三回一包宛(癩癩)

○纈草酸アヤコール一名ゲオソート Guajacolum
valerianicum, Geosot.

腺病及肺結核に對する「クレオソート」の代用品に
して一回量〇、〇二—〇、一、一日量〇、〇六—〇、
六とす

〔處方〕
ゲオソート丁幾 fine Geosot は「ゲオソート」
〇、〇に健智亞那丁幾二〇、〇を混じたるものにし
て一日三回三—十五滴宛用う

〔處方〕

ゲオソート 二、〇
薄荷精 六、〇

右一日三回三—十滴宛牛乳に滴し服す(腺
病、肺結核等)

○ゲラチン(白阿膠) Gelatina alba

全く若くは殆んど無色透明非薄の板片にして臭味
なく硝子様の光澤を放つ冷水に溶解せず熱水には

容易く溶解して透明蛋白石濁を帯ぶる粘著中性の
液となり一：一〇〇の溶液も尙ほ能く冷後凝固す
酒精「エーテル」に溶解せず

本品は止血薬として内外共に用う、内用には一—
一〇%の煎劑となし外用には生理的食鹽水に二%
の比を以て煮沸溶解して鎖骨下窩に注射す肺、胃、
腸、腎、膀胱の出血、血友病、衄血、初生兒黒痢
に用う

○黑色酸化汞 Hydrargyr. Oxidulatum nigrum.

〔内服〕 初生兒の先天梅毒に〇、〇一—〇、〇一五を
朝夕に與ふ

本品は屢々嘔吐を惹起することあり功力も亦甘汞
より劣れり

○琥珀酸安母紐膜液 Lignor Ammonii succinici.

〔内服〕 初生兒虚脱に亢奮劑として用う

〔處方〕

琥珀酸安母紐膜液 二、〇

各論 け之部

ケプイル、纈草酸亞鉛、纈草酸アヤコール一名ゲオソート
ゲオソート丁幾、ゲラチン、黑色酸化汞、琥珀酸安母紐膜液、
古埤尹、咖啡涅製劑、コニヤック

六九

麝香 〇、三

亞爾答舍 三〇、〇

右毎二時半茶匙宛

○古埤尹 Codeinum.

阿片製劑を見よ

○咖啡涅製劑 Coffein präparite.

咖啡涅、安息香酸那度留母咖啡涅、杓糖酸咖啡涅
は利尿及心臟亢奮の功を有す是等の製劑は肺水
腫、腔洞水腫(心臓水腫)心臟疾患の呼吸困難に内
用す

〔處方〕

安息香酸那度留母咖啡涅 〇、〇一

安息香酸 〇、〇三

白糖 〇、三

右毎一時—二時一包宛

○コニヤック Cognac.

葡萄酒を蒸餾して製したる澄明黄色の酒精飲料に

して百分中三五—三九九分の純「アルコロール」を含有す元蓄劑として用う「ウキアルホルフェル」氏 Wierhofer 曰く本品は酒精劑中の最良なる者なりと

用量は左の如し

| | |
|----------|----------|
| 初生の第二週以内 | 〇、五—一、五 |
| 第三十日迄 | 二、〇—二、五 |
| 第二ヶ月迄 | 三、〇—五、〇 |
| 第二ヶ月以上 | 六、〇—一〇、〇 |

「パロット」氏 Parot は初生兒虎列拉の初期に「コニヤック」一〇、〇蒸餾水二〇〇、〇の合劑を氷冷脱脂したる冷牛肉汁と交代に分與したり

處方

コニヤック 三、〇
 クレオソート 〇、〇一
 亞拉比亞護膜末 一、五
 餡水 五〇、〇

單舍

右毎二時一茶匙宛(初生兒虎列拉)

○コルドクリーム一名緩和軟膏 Cold Cream. unguentum leniens.

四分の黃蠟五分の鯨蠟三十二分の扁桃油十六分の水より成る

泡沫状をなせる此軟膏五〇、〇に薔薇油一滴を混し創傷及皮膚剝脱に外用す

○格魯胃謨 Collohim.

火綿二分を依的兒四十二分「アルコロール」六分に溶解したるものなり

〔用〕 毒虫の蟄刺及遺尿に賞用す蓋し乙症に之を用いて其の外尿道口を閉塞するときは尿の壓迫に由りて醒覺し自然遺尿せざるに至る

○格倫撲根 Radix Colombo.

〔用〕 煎又は浸劑となし止瀉の目的に用う味苦きを以て幼兒には用い難し

處方

格倫撲根煎(三、〇) 八〇、〇
 單阿片丁幾 四滴
 單舍 一〇、〇

右毎二時一小兒匙宛(年長小兒の腸加答兒)

○コトイン Coloinum.

「コト」皮の糖原質にして水に溶け難く酒精には容易に溶解する赤褐色の粉末なり固有の臭氣と苛烈の味とを有す

〔用〕 止瀉劑及腸の強壯藥として一日數回〇、〇—二—〇、〇〇五—〇、〇〇七五を與ふ本劑は腸の弛緩せる疾患に適す故に主として慢性腸加答兒に用いらる

○バラコトイン Paracetoin.

蠟様黄色の粉末にして特異の臭味なく水に溶け難し功用及用量は「コトイン」に同じ

○姑蘇花 Flores Koso

各論 二之部 コルドクリーム一名緩和軟膏、格魯胃謨、格倫撲根、コトイン、バラコトイン、姑蘇花、胡桃葉

「アビシニア」産 Eragaria 花満開の後其の雌蕊若くは多岐の花弁を集めたるものとす

千七百六十六年「ジエームス、ブラニー」氏 James Bruni「アビシニア」旅行の紀念として蠅虫驅除藥に推奨せられたるものなり「ヘンッホ」氏は小兒の年齢に従ひ朝間四、〇—八、〇—一〇、〇を二分し毎半時咖啡或は牛乳に和して與へたり

本品の服用に由りて生ずる悪心若は嘔吐を鎮制するには少量の新鮮なる杓櫚汁、黑色咖啡又は氷塊を與ふるを可とす姑蘇花攝取後一時間にして一小兒匙の「リチネ」油を與へ靜臥せしむべし

「ローゼンター」氏 J. Rosenthal は姑蘇錠を賞用せり此ものは服用容易にして且悪心を起すことなしと雖惜むらくは只年長小兒に用うることを得べきのみ

○胡桃葉 Tolia juglandis

主成分は苦味質越機斯及鞣酸なり

【内服】 「ジエリン」黒奴 Jime 及其他の黑人種間に腺病治療薬(煎又は浸)として甚賞用せらる

【外用】 には浴湯に用いられる薬湯の條を参照せよ

○コマンツランゴ皮 Cortes Condurangoo.

【内服】 健胃劑として冷浸或は煎或は丁幾となし用

○コサプリン Cosaprin.

「アンチフェブリン」硫酸誘導體にして灰白色無臭無味の粉末なり水に溶け易し

【内服】 本品は「アンチフェブリン」の如く危険の副作用なきも解熱の作用長からず諸種の熱性病に用

用量は〇、〇五—〇、一—〇、三を一回量とし一日三—五回用うることを得

○醋 Acetum, Acetum Crustum, Essig.

酸味及刺戟臭を有し殆んど無色透明なるか或は微黄色を有する液體にして六%の醋酸を含有す

【外用】 「ツルトマン」氏は濾胞性腸炎及赤痢に1%液の注腸(初は廿時後には四十八時毎に)を賞用せり

口内洗滌薬としては1—3%液を外生殖器の洗滌薬としては一小匙を四分の一律堙兒に溶したる液を用う

【処方】

醋酸礬土液 三〇、〇

餾水 六〇、〇

單舎 二〇、〇

右毎二時一小匙宛(赤痢)

○醋酸酒石酸アルミニウム Aluminium acetico-artaricum

無色護膜様醋臭を有する塊にして等量の水に溶解す

【内服】 収斂性と消毒性を有するに由り1—2%の溶液となし臭鼻瘡の際注入薬とし用いられる

各論 之部

コンツランゴ皮、コサプリン、醋、醋酸礬土液、醋酸酒石酸、アルミニウム、錯酸加里、撒里失兒酸

【内服】 には亞爾加里滴汁の中素に用う

【外用】 (一)洗腸薬としては重症神經障害、昏睡、阿片、珊篤尼涅の中毒、假死、瓦斯中毒及蟻虫等に用い嬰兒には其の半食匙を五〇、〇の水に注加し一歳半乃至三歳の小兒には一食匙三歳乃至六歳の小兒には一食匙を加ふ可し(二)皮膚洗滌薬としては重症熱性病(腸壁扶)の皮膚灼熱乾燥せる者及肺結核の盗汗に同量の冷水に加へて用う

此他「エンゲルマン」氏 Engelman は實扶的里に賞用したり即ち内用には醋一分蒸餾水四分のもの含嗽には一、二のもの塗布料には一、三のものを用いたり (Zentralblatt No.14. 1886.) 又一、五—一〇に稀釋したる醋は止血薬として衄血に外用せらる

○醋酸礬土液 Lignor Alminii acetici.

鹽基性醋酸礬土を含有すること凡そ8%の液體にして酸性反應を呈し甘き収斂性の味を有す

醋酸酒石酸アルミニウム液 五〇、〇

餾水 二〇〇、〇

右一食匙を半律堙兒の水に和し鼻腔洗滌料とす(臭鼻瘡)

○醋酸加里 Kalium acetikum

白色水に溶け易き結晶なり

【内服】 利尿薬として一日二—三、〇を一〇〇、〇の液とし用う

○醋酸加里液 Lignor Kalium acetikum

三分中一分の醋酸加里を含有す

【内服】 多くは利尿薬に配伍して用う

【処方】

醋酸加里 二、五

餾水 一〇〇、〇

單舎 二〇、〇

右毎二時一小匙宛(水腫、腎臟炎、肋膜炎)

○撒里失兒酸 Acidum Salicylicum.

醋酸礬土液、醋酸酒石酸

臨床兒科醫典

雲母様の光輝を有する白色の針狀結晶にして容易く「アルコホル」
「エーテル」
「クロロホルム」熱湯及油に溶解し五十倍の炭里設林三百五十八倍の冷水に溶解す

内用 として小兒科に用うることを殆んど之れなし是れ其の小兒に特有なる組織の損傷性 *Vulnerability* を刺戟して胃の溢血を發せしむることあるのみならず味佳ならず且水に溶解困難なればなり而して又本品は上記の他咽頭を刺戟して加答兒を起さしめ易き有害なる副作用を有す

外用 には腔洞消毒藥として〇、三・一〇〇、〇を用い鼻腔注入藥としては一、五—二、〇・一〇〇、〇の液を用う實扶的の含嗽藥としても亦同含量の液を用う可し

慢性腸加答兒には撒里失兒酸〇、五留水一〇〇、〇の直腸注入を施す
撒里失兒酸と滑石及澱粉との混合劑は異常の發汗

餾水 一〇〇、〇

右洗滌料(頭癬、膀胱炎)

華攝林

處方

撒酸 一、五

格魯胃膜 一五、〇

右塗布料(鶏眼)

處方

撒酸 一、〇

澱粉 五〇、〇

右塗布料(濕疹)

○撒里失兒酸着鉛 *Bismuthum Salicylicum*

水に溶けざる黄色の不正形粉末なり

内用 胃腸加答兒に用う但本品は散劑として用うるに宜しからず是れ其の含有せる撒里失兒酸胃を刺戟して出血を起すことあればなり故に本品を内服せしむるには四、〇—五、〇・一〇〇、〇の震盪

各論 さ之部 撒里失兒酸着鉛、撒里失兒酸那度留母略名撒曹、撒魯兒

七

過多を減少す(撒酸三分、澱粉一〇分滑石八十七分)

「カエルテル」氏 *Cher* は輕症實扶的里に〇、一—〇、二%撒里失兒酸水の吸入一日六—八回を推奨せり此ものは三—四歳の幼兒に對して十五分間持續して無刺戟性に施行することを得可し

尤宜用すべきは濕疹に對する「ラツサー」氏 *Lassar* の撒里失兒酸巴斯多なり其方左の如し

撒酸 一、〇 亞鉛華澱粉 各二、〇

華攝林 二五、〇 右巴斯多とす

細帶材料には撒酸綿 四%、五%、一〇%を用う

處方

撒酸 一、〇

單軟膏 一五、〇

右爲軟膏(瘡癩疔)

撒酸 二、〇

處方

撒酸 〇、二五

澱粉 五〇、〇

右塗布料(瘡息肉)

處方

合劑となすを可とす

○撒里失兒散那度留母略名撒曹 *Natrium Salicylicum*

白色粉末にして〇、九分の水に溶解す

内用 解熱劑及僂麻質斯劑として急性關節僂麻質斯、滲出性肋膜炎、糖尿病、膀胱炎に用いらる本品は散として用い得べしと雖液として與ふるを優れりとす

用量「アムメ」氏に由れば左の如し

二—四歳 日量〇、五—一、〇

五—十歳 一、〇—二、〇

十一—十五歳 二、五—三、〇

急性關節僂麻質斯に本品を處して疼痛消退するも尙ほ暫時半量を持續投與するを可とす

處方

撒爾失兒酸 五、〇

那度留母 一〇〇、〇

餾水 一〇〇、〇

處方

撒曹 一、五

餾水 一〇〇、〇

七

單舎 二〇、〇 單舎 一〇、〇

右毎二時一小兒匙 右毎二時一小兒匙

宛(急性關節痲痺) 宛(膀胱炎)

質斯)

○撒魯兒 Salol.

弱き香味と芳香とを有する白色結晶様の粉末にして殆んど水に溶解せず「アルコホール」及「エーテル」には容易に溶解す

功用撒爾失兒酸那度留母に同じ

撒爾失兒酸失酸那度留母の代用藥として味覺過敏なる者、嘔吐し易き者、急性關節痲痺質斯、多發關節炎の下痢及尿の亞爾加里性分解を起せる膀胱炎等に用う

用量

二一四歳 一日三回 一回〇、三五—〇、三五
五—十歳 一日三四回 一回〇、五—〇、七五
十一—十五歳 一日三四回 〇、七五—一、〇

右吹入料(臭鼻瘡)

○ザロニン Salochinin.

撒里失兒酸の規尼涅抱合體なり水に溶解せず「アルコホール」「エーテル」には溶解易し解熱藥及鎮痛藥として熱性傳染病殊に腸窒扶斯、神經痛就中坐骨神經痛に一回〇、〇五—〇、二—〇、五—〇、八一日數回用う

○ザラツェトール Salicetol.

無色針狀の結晶にして僅に苦味を有す水に溶けず「アルコホール」「エーテル」脂肪油「クロロホルム」に溶解す

急慢二性の痲痺質斯、肋膜炎、胃腸加答兒及胆石に用い功あり
用量は略々左の如し

一歳未満 一回〇、〇〇二 一日〇、〇一
一—三歳 〇、〇一〇—〇、一 〇、二—〇、四
四—六歳 〇、一五—〇、二 〇、六—〇、八

各論 さ之部 (ザロニン、ザラツェトール、ザロフエン、ザリピリン) 撒里失兒酸安智必林)

本品は過大の量を使用するときは危険なきにあらざ「ヘッセルバツ」氏 Hesselbach は日量八、〇を服用し爲に昏睡、全尿閉の症狀を呈したる死亡の一例(千八百九十年外科中)を報告せり抑々「ザロール」の全量は體內に於て悉く「フェノール」及撒里失兒酸に分解するものにあらずと雖上記の轉歸は確に「ザロール」より析出せる石炭酸に基因せるものとす

又「ザロール」は急慢二性の腎臟炎を刺戟するの患あり使用の際注意すべし

外用 としては臭鼻瘡に吹入す

處方

ザロール 六、〇
硼酸 三、〇
撒里失兒酸 〇、三
チモール 〇、二五
滑石 一〇、〇

七—十歳 〇、二五—〇、三 一、〇—一、二
十一—十五歳 〇、三—〇、五 一、五—二、〇

外用 或は「ラノリン」軟膏となし或は脂肪油擦劑となし痲痺斯性疼痛部に用う

處方

ザラツェトール 一、〇 ザラツェトール
白糖 一、〇 テレピン油 各五、〇
右分十包朝夕一包 ラノリン
宛(四才の小兒關節痲痺質斯) 豚脂 各適宜
右爲軟膏外用(痲痺質斯及神經痛)

○ザロフエン Sulophennum.

散として「ザロール」と同じき症に用う殊に流行感冒、關節痲痺質斯、頭痛、痲痺質斯、舞踏病に用う用量一回〇、〇五—〇、一五—〇、四一日數次與ふべし

○ザリピリン(撒里失兒酸安智必林) Salipyrinum.

各論 さ之部

(ザロニン、ザラツェトール、ザロフエン、ザリピリン)

臨床兒科醫典

Salicylsäure und Antipyrin.

白色の粉末にして水には溶け難く「アルコール」には容易く溶解す

有熱患者、痲瘋質斯、流行感冒に用う
用量五才迄は〇・二五、五—十歳には〇・五、十一—十四歳には一、〇を一日三回發汗性の茶劑と共に服用せしむ

ザリシン Salicynum

無色苦味の結晶にして楊柳の内皮中に存す

本品を服用するときは脾臟縮小す佛國の醫師は小兒の間歇熱に賞用す

處方

ザリシン 五、〇

熱水 五〇、〇

糖 一〇、〇

右一食匙宛服用

○サツカリン (硫化安息酸) Saccharinum, Benzoe-

säuresulfid.

劇しき甘味を有する白色粉末にして二百五十分の冷水三十分の熱水に溶解し「アルコール」「エーテル」には容易く溶解す

糖尿病の際食餌に甜味を附するに用う

珊篤尼涅 Santoninum.

無色の光澤ある板狀結晶にして僅に苦味を有し日光に觸るれば黄色の外看を呈す水には溶け難く脂肪油には容易く溶解す

本品は支那花の「アルカロイド」なりとす

驅虫劑として用う其の用量左の如し

一—四歳 一回〇、〇一 一日〇、〇三—〇、〇四

五—十歳 〇、〇二 〇、〇六

十一—十四歳 〇、〇三 〇、一

十五—十七歳 〇、〇三 〇、一五

珊篤尼涅を服すれば尿は黄色となり年長小兒は黃視症 Nantopsie を發し甚しきときは他の中毒症

狀即ち痲麻疼、嘔吐、尿閉、昏睡、痲癩様瘰癧、腎臟炎、脾腫を伴ふ熱性黃疸(ワイル症)及失明を來すことあり故に本劑を處するに當りては下劑と配伍するを以て安全なりとす而して又本劑は胃の空虚時に與ふ可らず何となれば珊篤尼涅は糜粥の存在せざる腸に於て尤能く吸收せられ中毒を起し易ければなり

處方

サントニーン

各〇、〇五

甘汞 右爲一包朝夕一包

宛(蛔虫)

處方

サントニーン 〇、二

リチ子油 六〇、〇

右一日三回一茶匙

一 小兒匙宛(蛔虫)

○珊篤尼涅錠 Trochisci Santonini.

此錠劑一箇の中には「サントニーン」〇、〇二を含有す

驅虫劑として一日二—三個を服用せしむ

各論 さ之部

ザリシン、サツカリン(硫化安息酸) 珊篤尼涅、珊篤尼涅錠

七

○山慈姑粉 Amygdal.

山慈姑の澱粉にして完全なる營養品にあらず只一の微細にして消化し易き澱粉體に過ぎず

○沙列布根 Tubera Salep.

諸種の蘭科植物の球狀若は梨子狀根結節なり

沙列布塊は粉碎して五十分の水と煮沸するときは粘液を形成す

には多く沙列布漿として用い又煎五、〇—

一二、〇—一〇〇、〇となし下痢の緩和薬とす時と

しては乳兒の下痢に沙列布漿を以て牛乳の代用とすることあり此際用うる沙列布漿の製法は次の如し

一茶匙の沙列布末を少許の水にて能く攪伴し後漸次二硝子盃の熱水を注入して製すべし

又沙列布は洗腸に用うるにあり

○沙列布漿 Mucilago Salep.

沙列布根一分水百分より成る

他の止瀉劑に伍し腸加答兒に用う

○サボネス Saponis.

石鹼の製産物にして天然脂肪へ腐蝕亞爾加里を作用せしめたるものとす而して其の硬なるものは那度倫石鹼軟なるものは加里石鹼とす

○再留帝列並油 Ol. Terebinthinae rectificat.

○**内服** 蟻虫驅除劑として一〇—一五滴膠囊に容れ臨臥時に與へ翌朝又同量を投じ後ち「リチネ」油を與ふべし(十歳乃至十五歳の小兒)

「エルナツエイ」氏 Engel は帝列並油綿球の應用に由り劇しき衄血の停止せることを報告せり(「聖イトスブル」)

○**酸素** 「オキシシーゲン」を見よ

○サナトローゲン Sunatogen.

乾酪と虞里設林、燐酸那度倫との抱合物にして臭味共になき粉末なり

用量は一日三回半茶匙乃至一小兒匙宛とす

○サノーゼ Sanose.

蛋白製劑にして無味無臭の白色粉末なり
強壯藥として水、牛乳等に和し用う(五十倍)

○小麥粉 Amylum tritici (Weizenstärke)

白色細微の粉末なり
撒布藥として濕爛、濕疹に洗腸藥として下痢(茶匙を熱水に溶解す但便意頻數を)に賞用す但洗腸藥の全量は初生兒には半小硝子盃、稍々長したる小兒には一硝子盃なるを可とす是れ洗腸液を腸管内に保留せしむるの要あるか故なり

○**處方** 小麥粉 五〇、〇 小麥粉 一五、〇
礮 酸 一、〇 亞鉛華 五、〇

右撒布料(濕疹) 右撒布料(濕疹)

小麥粉 三〇、〇

抱物兒氏散 〇、〇二

右爲一包一日三回一包宛(腸加答兒「ソルトマン」氏方)

○**修酸攝留母** Cerium Oxaleum.

白色の粉末にして水に溶解せず嘔吐に對して〇、〇三(三乃至六ヶ月)〇、〇五(六ヶ月以上)を二—三時毎に與ふ

○支那花 Flores cinne.

本品の有功成分は珊篤尼涅なりとす

○**内服** 腸管寄生の圓虫驅除藥として或は散劑或は甜劑となし用う

一—二歳 一回量 〇、五
三—四歳 一、〇
五—十歳 一、五
十一—十四歳 二、〇
十五—十七歳 四、〇

○**處方**

右撒布料(紅斑、濕爛)

○**次硝酸蒼鉛** Bismuthum Subnitricum.

白色水に溶解せざる粉末なり

○**内服** 霍亂及下痢に一回〇、〇五—〇、二五、一〇、五、一日三—六回與ふ

○**外用** には濕疹撒布劑とす

○**處方**

次硝酸蒼鉛 〇、一 次硝酸蒼鉛 各五、〇

護膜末 〇、五 酸化亞鉛 各五、〇

右爲一包毎二時一包宛(霍亂) 疹、濕爛)

「ソルトマン」氏 Soltmann は慢性腸加答兒の胃及腸の劇痛を有する者及粘膜の潰爛せる各症に賞用せり

○**處方** 次硝酸蒼鉛 〇、〇三

各論 さ之部

サボネス、再留帝列並油、酸素、サナトローゲン、サノーゼ、小麥粉、次硝酸蒼鉛、修酸攝留母、支那花

支那花末 一〇、〇
右一日三回一小茶匙宛
糖水服用(蛔虫) 時一包宛(蛔虫)

○昇永又過格魯兒化汞 Sublimat, Hydrargyrum bichloratum.

白色透明針狀の結晶塊にして破砕すれば白色の粉末となり十六分の冷水、三分の温水、三分の「アルコール」四分の「エーテル」に溶解す

外用 或は浴(浴湯の條)とし或は液(〇、五、〇、〇)とし梅毒性潰瘍に塗布す

表在性母斑には一、〇を二五、〇の格魯胃膜に溶したる液を塗布す但周圍は「トラウマチン」を以て豫め防護す可し此は三日の後に反覆す

蟻虫には〇、〇一を三分の一醋を混したる冷水一〇〇、〇に溶し洗腸す

白癬には〇、三を蒸餾水若は酒精一〇〇、〇に溶し

て塗布す但豫め石鹼を以て局部を洗浄し置く可し先天梅毒には注射薬として用う即ち「モンチー」氏 Monchi は〇、一を蒸餾水一〇、〇食鹽〇、四に溶し二分の一乃至一筒注射す此注射液は日々調製せざる可らず注射部位は胸部及腹部とす然れども此注射は膿瘍形成を豫防すること能はざるを以て賞用すべき法にあらず

又「モンチー」氏は先天梅毒に本劑の内服を推奨せり其處方左の如し

昇永 〇、〇一
餾水 四〇、〇
單舎 一〇、〇

右二―四茶匙食後服用但本劑は胃腸の刺戟症状を呈する者には之を避く可し

○麝香 Moschus.

外用 元奮劑として各種の虚脱に用い又鎮痙薬として痙攣殊に子癇に用う

哺乳兒 一回〇、〇一―〇、〇二 一日〇、〇四―〇、〇一
年長小兒 〇、〇五―〇、〇一 〇、二―〇、五
「ソルトマン」氏は危險なる虚脱症状の持續する間は左方を十五分―三十分毎に一茶匙宛與へたり

麝香 〇、三
護謨乳劑 六〇、〇
右一歳の小兒に用う

又麝香は洗腸薬として用いらる

○麝香丁幾 Tinct. moschi.
麝香一分 稀酒精 蒸餾水 各二五分より成る

外用 聲門痙攣の際毎二時乃至三時に五―十二滴を與ふ

○鯨膽石麝香丁幾 Tinct. Ambrae moschi.
三分の鯨膽石(鯨の腸管より獲たる凝集物)一分の麝香百四十六分の「エーテル」精より成る

功用麝香丁幾に同じ

○人工加兒爾斯泉鹽 Sal Carolinum factitium (Kun-

各論 し之部 昇永又過格魯兒化汞、麝香、麝香丁幾、鯨膽石麝香丁幾、人工加兒爾斯泉鹽、シロリン、酒石英一名重酒石酸加里、蘇方木脂

stiches Carlshilder Salz.)

年長小兒に下劑として茶匙宛與ふ「ノイマン」氏 Neumann は本品一小兒匙を温水にて大硝子盃に溶し三時間内に一二小兒匙乃至一食匙を服さしめたり

○シロリン Sirolin.

本品は「チオコール」の十%橙皮舍利別にして肺結核に功あり詳しきは「チオコール」の條を見よ

○酒石英一名重酒石酸加里 Cremortartari, Kaliumbitartris.

酸味の白色粉末にして百九十二分の温水に溶解し「アルコール」には溶けず

外用 利尿薬として〇、〇三―〇、〇五を一日數回與へ又は〇、五―二、五を一日一二回多くは大黃と伍して散となし或は煉薬となして下劑に用う

○蘇方木脂 Lignum Campechianum.

蘇方木「ノトキシロン」の樹脂にして多量の單寧

酸を含有するを以て從來東洋に於ては止瀉劑として推奨せられたり

處方

- 蘇方木煎 (二、〇) 五〇、〇
- 阿片安息香丁幾 一—二、〇
- 橙花舍利別 一〇、〇

右毎三時一茶匙宛(腸加答兒の下痢)

○蘇方木越機斯 Extract. Ligni champediani

〔内用〕 一、〇を武蘭堊酒五〇、〇に溶し橙皮舍利別を加へ年長小兒の慢性腸加答兒に用い日量とす(「ソルトマン」氏)要すれば之に單阿片丁幾二滴を加ふべし

○水銀硬膏 Emplastum Hydragryi.

水銀二分、帝列並油一分、單鉛硬膏六分、白蠟一分より成る
梅毒性潰瘍に外用す

○水銀軟膏 Ung. Hydragryi cinerena.

むること猶ほ實多利斯の如くなるを實驗せり

五—十歳 一日三回、一滴宛

十歳以上 一日四回、一滴宛

年齢長するに従ひ漸次用量を増加し一日四—五回三滴宛糖水に和し食後に用うるに至る

○ズルフオナール Sulfonal.

無色無味無臭の結晶にして水には溶け難く「アルコホール」には溶け易し

〔内用〕 催眠藥として確功あり其の作用「ウレタン」に優れり一回〇、二五—〇、五を與ふ可し但本品は水に溶け難きを以て催眠作用の發現は急速ならず本劑服用後尿色櫻實棕色を呈するは危険なる中毒の徴とす宜しく後服を停止し尿色の回復を待ちて再用すべし

處方

- ズルフオナール 〇、二五
- 白糖 〇、三

各論 寸之部

蘇方木越機斯、水銀硬膏、水銀軟膏、ストロフハンツス丁幾、ズルフオナール、スヘルミン、ズルフオソート舍利別

豚脂十三分、牛脂七分水銀十分より成る

格魯布(一日數回所患の頸側に)滲出性眼炎、腦疾

患(腦水腫、單純腦膜炎)去したる頭部若は項部

へ擦(梅毒)〇、三—〇、五乃至(腺炎症、蛔蟲に因す

入す)梅毒(〇、三—〇、五乃至)少量を用)口及腸の炎

症併に口唇壞疽の不良なる胎後症に塗擦劑として用う

○ストロフハンツス丁幾 Finet. Strophantii.

「ストロフハンツス」實一分酒精十分より成る

〔内用〕 本品は血壓を亢進し尿排泄を増加するに因り實多利斯の代用として代價機障害ある心臟疾患に用うべしと雖五才以下の小兒には與へざるを可とす

「デムメ」氏 Demme は「ストロフハンツス」は心臟筋肉に有害作用をなすと共に末梢血管の收縮を起し心筋をして收縮静止の状態に於て麻痺を來さし

右臨臥頓服

○スヘルミン Spermin

本品は「ブローン、セツアルド」氏 Brown Segard 方劑の主成分なり近囁諸種の衰弱に賞用せらるる用量は一回〇、〇五—〇、三—〇、五とす

○ズルフオソート舍利別 Sulfosol-Sirup.

本品十分中には〇、七五分の結列阿曹篤を含み臭氣なく味は苦くして甘し結列阿曹篤に代へて肺結核に賞用す一日三四分の一乃至半茶匙宛水、牛乳等に混じて與ふ可し

○石炭酸 Aeidum Carbohcum.

無色の結晶にして氣中に於ては容易く紅變して潮解し二十分の水に溶解す

〔内用〕 に供することは稀なり「ソルトマン」氏は虎列拉に

- 石炭酸 〇、〇六 薄荷水 二〇、〇
- 單阿片丁幾 一滴 罌粟舍利別 二〇、〇

右毎二時一茶匙宛

を用いたりと雖腸管内細菌殺滅の功力は疑はし

外用 消毒の目的を以て一乃至五%の液となし用

う但其の錯喉嚨下に注意すべし「オエテル」Oer-

「E」は五%溶液を毎二時五—十分宛腐敗性實扶的

里性炎に吸入せしめて卓功ありしと云ふ咽頭實扶

的里の塗布料としては一—五%溶液を皮膚の掻痒

には一—二%溶液を用う可し

中耳炎の點耳料としては溶性石炭酸一、〇虞里酸

林一〇、〇(五乃至八滴)を滴下し後ち綿栓を施す

べし

患兒若し中毒の症を呈さば一二日間使用を中止し

空洞の洗滌、浣腸及罌法等には使用を避くべし石

溶性石炭酸 Acid. Carbolic. Lique factum 百分の

石炭酸と十分の水より成る醫治的功用は石炭酸に

同じ

石炭酸水 Aqua carbolisata.

二%の液は消毒の目的に用いて其の功疑はし

石炭酸綿は五—一〇%のものを用う

處方

石炭酸 一、〇

餾水 一〇〇、〇

右外用(細帶液)

處方

石炭酸

薄荷油 各五、〇

再餾酒精 二〇〇、〇

右外用(年齢に倍

したる滴數例へば

四歳の小兒には八

處方

石炭酸 一、〇

鉛糖 三、〇

餾水 六〇、〇

右濕罌法料(龜頭

炎)

石炭酸 五〇、〇

常水 一〇〇〇、〇

右外用(排泄物消

毒用)

滴を一酒盃の温水
に滴し口腔疾患の
豫防及口内清淨用
として含嗽に用い
しむ)

○石灰水 Aq. Calceariae

強亞爾加里性透明無色の液體なり

内用 實扶的里及酸類中毒の解毒劑として用う

外用 實扶的里の際吸入含嗽及鼻腔の注入薬とな

し用う但此最後の場合には或は純粹の本品を用い

或は蒸餾水を以て稀釋したるものを用う又火傷及

濕爛症には等分の亞麻仁油と混和し罌法に供用す

本品の浣腸は蟻蟲に推奨せらる

處方

石灰水

亞麻仁油 各二五、〇

ザロール 一〇、〇

處方

石灰水

亞麻仁油 各五〇、〇

右罌法料(同上)

各論 せ之部 石炭酸、石灰水、硝酸銀

右罌法料(火傷)

處方

石灰水

餾水 各五〇、〇

右吸入料(實扶的

里格替

布)

○硝酸銀 Argentum nitricum.

白色光輝あるか若は帶緑白色の板狀結晶にして

〇、六分の水及約十分の酒精に溶解す

常に黒色の瓶に貯ふ可し

内用 稍々長じたる小兒の慢性頑固なる胃腸加答

兒の際水劑若は丸劑として與へ又種々の神經疾患

(聲門痙攣、癩癩)に用う

外用 腐蝕藥としては純品を用い咽頭加答兒の塗

布藥としては一、〇—二五、〇の溶液軟膏としては

〇、一—一五、〇のもの

瀰胞性腸炎及赤痢の注腸薬としては〇、〇五—一〇〇、〇の溶液、濕爛の塗布薬としては〇、五—二五、〇の溶液
痙攣に於ける鼻腔吹入薬としては一、〇を一〇、〇の痙性苦土に研和したるもの
初生兒膿漏眼の豫防點眼には二%の溶液を點眼し
驚口瘡には一—二%の液、口蓋の阿布答には一、〇—一五、〇の液を塗布す
内服の用量は一回〇、〇〇—一〇、〇〇五 一日〇、〇—一〇、〇五とす

處方
硝酸銀 〇、〇三
餾水 九〇、〇
炭里殼林 一〇、〇
右毎二時一茶匙宛
(腸加答兒)

處方
硝酸銀 〇、一
餾水 適宜溶解
亞鉛華軟膏 一五、〇
右爲軟膏(龜頭炎)

處方
硝酸銀 〇、〇五

硝酸銀 〇、五
餾水 二五、〇
右點眼科(初生兒膿漏眼)の豫防として硝子の媒介に由り角膜中央に一二滴を滴下し又膿漏眼に塗布後食鹽水を以て洗去す

澱粉 一〇、〇
右毎日鼻道を換へ吹管を以て吹入(頑固の鼻感冒)

處方
硝酸銀 〇、一五
餾水 五〇、〇
右眼瞼結膜塗布料(分泌減少を機とし膿漏眼に用う)

處方
硝酸銀 一、〇
餾水 一〇、〇
右外用(火傷の水排出後塗布すべし)

注意
症に由り硝酸銀液の洗腸を必要とすることあり然るときは先づ硝酸銀液を洗腸し後ち〇、五%食鹽水を洗腸して之を中和すべし
硝酸銀溶液の投劑は總べて黒色瓶に容れ與ふべし

○硝酸銀加硝石 Argentum nitricum cum Kalio nitrico

硝酸銀一分硝酸加里二分の合劑にして棒狀に於て諸種の疾患に對し腐蝕用として使用せらる

○硝酸加留母 Kalium nitricum
水に容易く溶解する無色の結晶なり

内服 急性熱性病に(一、〇—二、〇・一〇〇、〇)清涼劑として毎二時一小兒匙宛服せしむ

○硝酸斯篤里機尼涅 Strychninum nitricum
熱水には溶くも冷水には溶け難く甚しき苦味を有する無色の結晶なり

外用 實扶的里後の麻痺、小兒脊髓麻痺、遺尿症、脱肛等に皮下注射として用う

本品は蓄積作用あるを以て甚危険なり使用の際慎重の注意を要するのみならず苦味甚しきを以て小兒薬としては内用に適せず
用量は一回〇、〇〇〇五—〇、〇〇一〇、〇〇二

各論 せ之部 硝酸銀加硝石、硝酸加留母、硝酸斯篤里機尼涅、番木甞丁幾

一日〇、〇〇—一〇、〇〇二—一〇、〇〇八とす但日量〇、〇〇八は十歳以上の小兒にあらざれば處方す可らず

處方
硝酸ストリロニン 〇、〇一五
餾水 一五、〇
右皮下注射一箇中「ストリロニン」〇、〇〇

〇一を含有す(實扶的里後の麻痺)

注意 「ストリロニン」の注射は局處の疼痛頗る劇烈なりとす

○番木甞丁幾又「ストリロニン」丁幾 T. Vomica, T. Strychni.

番木甞子一分酒精十分より成る

本品の小量は食慾を亢進せしむ(二—四滴・一〇〇、〇)單寧酸と配伍すれば腸内發酵に因する慢性下痢に功あり

處方

單 寧 各一〇
 番木鱉丁幾
 餾 水 一〇〇、〇
 亞爾答舍 二〇、〇
 右毎二時一小兒匙宛(慢性下痢「ヘノッホ」氏 Henoch)

○精製硫黃 Sulfur depratum.

黄色の粉末にして複方甘艸散の一成成分をなす

外用 質扶的里の粘膜局處に吹入す

○赤色酸化汞又赤降汞 Hydrargyrum Oxidatum, Mercurius præcipitatus ruber.

水及酒精に溶解せざる赤色結晶の粉末にして内用には用うることなし

外用 軟膏(赤降汞一、〇華攝林九、〇)となし梅毒性潰瘍に用う

○柘榴根皮 Cortex Granati.

主成分は「ペルレチリン」pellerina なり驅蟲

藥として用う

内服 幼兒には一〇、〇—二二、〇六歳乃至十歳の小兒には二〇、〇—三〇、〇十一十五歳の小兒には三〇、〇—四〇、〇を一時間以内に二分して搦取せしむ但煎劑に用うる根皮は豫め十二乃至十六時間冷水に浸漬せざる可らず又驅蟲療法を施す前夜には鯖「サラート」Haringssalat を與(只年長小兒に)へ療法の一時間前には糖を加へたる黒色咖啡の一硝子盃を取らしめ煎劑搦取の後一食匙の「リチネ」油を與ふべし

「モンチー」氏は多年の經驗に由り本品を煎劑となさずして却て一、二の水浸劑として賞用せり即ち柘榴根皮一〇〇、〇を餾水二〇〇、〇に四十八時間浸漬し年齢の多少に拘らず此冷浸一〇〇、〇—一五〇、〇を與へ同時に薄荷錠及橙の砂糖漬を搦取せしめ惡心ある者には黒色咖啡若は「ラム」酒を混じたる茶を與へたり

藥方

柘榴根皮 三〇、〇 廿四時
 水 三〇〇、〇 間冷浸

右二分して毎半時其の一分を服さしむ(繼齒)

○攝涅瓦根 Radix senega.

内服 浸若は煎となし喀痰多量なる氣管枝炎及喀出力減衰せる者に有力なる刺戟性祛痰劑として用う

藥方

ゼネガ煎(五、〇) 一〇〇、〇
 碱苗精 一〇—一、五
 茴香舍 一二、〇

右毎二時一小兒匙宛(氣管枝炎の第二期症)

○ゼネガ舍利別 Sirupus Senega.

祛痰劑に配伍して用う

○旃那葉 Folia Sennae.

各論 せ之部 精製硫黃、赤色酸化汞又赤降汞、柘榴根皮、攝涅瓦根、
 ゼネガ舍利別、旃那葉、旃那砒劑、複方旃那浸

有功成分は「カタルチン」酸なり

内服 下劑として〇、五—五、〇—一〇〇、〇を茶浸とし用う

○旃那砒劑 Electarium e. Senna.

旃那葉一分單舍四分「タマリンド」末五分より成る

内服 下劑として半—一二茶匙を日量とす「ヘノッホ」氏は殊に瀉便蓄積に基因する腹滿症に賞用せり

藥方

旃那砒劑 二五、〇
 蒸餾水 一〇〇、〇
 酒石酸 一、〇
 白糖 一〇、〇

右糞蓋合劑とし毎二時一小兒匙宛(便秘「ヘノッホ」氏)

○複方旃那浸 Infusum Sennae Compositum.

旃那葉一分、水七分、酒石酸曹達一分「マンナ」三

分より成る

内服 下劑として二歳以下には茶匙二歳以上には小兒匙つゝ與ふ

處方

複方旃那浸 各二五、〇
滿那舍利別

右每二時一茶匙—小兒匙宛奏功あるに至る(便秘)

○旃那舍利別 *Sirup. Senna.*

下劑として一茶匙宛與ふべし

○接骨木花 *Flores sambuci.*

一茶匙を一硝子盃の茶となし發汗劑とす

○セルウアートル石鹼 *Servol-saife*

中性加里石鹼に沃度水銀〇、五—一、〇%を和したるものなり手指及外科器械の消毒に用う

○赤色蜂蜜 *Mel rosalinum.*

外用 硼砂の配伍藥として驚口瘡に塗布す

○粗製杜松子莖 *Succus juniperi inspissatus*

内服 利尿藥として或は單品を或は他の利尿藥に伍して半—一茶匙日量として水腫に用う

○鼠李子舍利別 *Sirup. Rhamni calarticae.*

葦花様色を呈す緩下劑として半茶匙を日量とす
蘇合香 *Styrax liquidus.*

芳香を有する褐色塊なり

外用 塗擦劑として疥癬に賞用す

處方

蘇合香 二五、〇

虞里設林 二五、〇

右晚景擦入翌朝入浴石鹼を以て能く洗去す
(疥癬)

處方

蘇合香

阿列布油 各二五、〇

虞里設林

右浴後擦入(疥癬)

○ソソヨドール鹽 *Soziodolulze.*

ソソヨドール加留母は辛ふして五十分の水に溶解す

ソソヨドール那度留母は容易く十四分の水に溶解す

ソソヨドール鹽は無色無臭の結晶なり

本品の中毒作用なきは創面に用いて毫も沃度を析出することなきに由る防腐藥として沃土叻に代用す

ソソヨドール那度留母は防腐力卓絶し「ソソヨドール」加留母は創傷分泌を減少せしむるの力強大なり故に加留母鹽は分泌過多なる慢性鼻加答兒に適す又「ソソヨドール」鹽は澱粉と和して5%の撒布藥となし小兒の皮膚創傷(濕爛)寄生性皮膚病頑癬、白癬、截髮疹、癩風、寄生性聾瘡、臭鼻瘡、肥大性鼻炎、鼻咽頭炎及鼻咽腔加答兒に適す

各論 せ之部

旃那舍利別、接骨木花、セルウアートル石鹼、赤色蜂蜜
粗製杜松子莖、鼠李子舍利別、蘇合香、ソソヨドール鹽
ソソヨドール水銀

處方

ソソヨドール加留母 二、〇

ソソヨドール那度留母 五、〇

ソソヨドール鹽 五、〇

右爲軟膏外用(濕爛)

處方

ソソヨドール加留母 五、〇

ソソヨドール那度留母 五、〇

右爲軟膏外用(寄生性皮膚病)

右吹入料(肥大性鼻炎)

處方

ソソヨドール那度留母 各五、〇

滑石 各五、〇

右吹入料(肥大性鼻炎)

鼻炎)

○ソソヨドール水銀 *Hydrargyri soziodolulium.*

黄色の粉末にして少許の食鹽を加へたる水五百分

臨床兒科醫典

に溶解す

本品を筋肉注射として毎日に用うる時は其の奏功の速なる塗擦療法に優れり又軟膏1%として濕爛、濕疹等に用うべく粉末は撒布劑として創面及鼻腔の炎性疾患に用う

【處方】

- ツソヨドール水銀 一、〇
- ラノリン 九〇、〇
- 阿列布油 一〇、〇

右爲軟膏外用(濕爛)

○ツソヨードル亞鉛 Zinc sozofodolie,

無臭の粉末にして水に溶け易し

本品は溶液として一—二%のものを淋疾、白苔下に三—五%の液を乾性鼻咽喉頭加答兒、子宮内膜炎、喉頭結核、潰瘍、中耳炎等に用い又軟膏として濕疹、濕爛に用う但濃厚液は腐蝕作用あるを以て注意すべし

齒

- 【處方】 ツソヨドール亞鉛 一、〇
- ヘブラ氏軟膏 九、〇
- 右爲軟膏外用(濕疹)
- 【處方】 ツソヨドール亞鉛 二、〇
- 水 一〇〇、〇
- 右尿道注射料(淋病)

○ソマトーゼ Somatose

魚類より製出したる蛋白質にして無味無臭の粉末なり

榮養品として消耗性疾患に用う

○鐵ソマトーゼ Eisenomatoze

貧血に用いらる

○牛乳ソマトーゼ Milchsomatose

「ソマトーゼ」と同量を用うべし

○單寧酸 Acidum tannicum, Gerbsäure

白色若し黄色の粉末にして強き澱味を有し等量の水二倍の酒精、八倍の炭里設林に溶解す

【處方】 止血藥(腎止血)及止血劑として〇、〇一—

〇、〇二—〇、〇五を毎三時散若は水劑の形態に於て與ふ又「アルコホール」及礦物の中毒にも内用すと雖容易く胃の障害を誘起す

【外用】 止血及收斂(一—二%)藥として慢性腸加答兒に洗腸し其の他吸入、含嗽及咽喉粘膜炎の塗布

並軟膏(一—二%)として諸種の加答兒炎性疾患に用う

「ゾルトマン」氏は坐藥として裏急後重に左方を處せり

【處方】

- 單寧酸 一、〇
- ヘラドシナ丁幾 五滴
- 加々阿脂 一五、〇
- 右坐藥五個となす

【處方】

- 單寧酸 〇、五
- ストリヒニ 〇、五
- 單寧酸 〇、五
- リン丁幾 〇、五
- 餾水 八〇、〇

各論 之部

ツソヨードル亞鉛、ソマトーゼ、鐵ソマトーゼ、牛乳ソマトーゼ

五

- 餾水 一〇〇、〇
- 亞爾答舍 二〇、〇
- 右每三時一小兒匙
- 宛(腸加答兒)
- 【處方】 單寧酸 一、〇
- 餾水 一〇〇、〇
- 單舍 二〇、〇
- 右每二時一小兒匙
- 宛(腸室斯の下痢)

- 【處方】 單寧酸 〇、三
- 餾水 九〇、〇
- トカヤ酒 一五、〇
- 炭里設林 一〇、〇
- 單阿片丁幾 一—二滴
- 右每二時一小兒匙
- 宛(頑固の下痢)

- 【處方】 單寧酸 二、〇
- 稀酒精 各五、〇
- 餾水 一〇、〇
- 炭里設林 一〇、〇
- 單寧酸 二、五
- 餾水 五〇〇、〇
- 右洗腸料(頑固の下痢)

- 【處方】 單寧酸 〇、五
- 餾水 一〇、〇

右塗布料(慢性咽頭加答兒)

右點眼料(濾胞性結膜炎)

處方

單寧 五、〇
餾水 一〇〇、〇
右鼻腔注入料(鼻出血)

○單寧酸規尼涅 Chinin tannic.

極めて苦味を有する帶黄白色の不正形無臭の粉末にして水には僅に溶解し酒精には稍々多量に溶解す

散として百日咳、濾胞性腸炎に用う蓋し其の功あるは強壯及收斂の作用に在り

用量は患兒の年齢に相當する「デチ」瓦(患兒二ば〇、二、三才なれ)を一日三回に與ふ可し

本品は其の味の佳良なるか爲他の規尼涅製劑に優れり

「ソルトマン」氏は慢性腸加答兒に左方を處せり

處方

單寧酸規尼 〇、〇六
花氏散 〇、〇二
右一日三回一包宛

處方

單寧酸規尼涅 〇、二
白糖 〇、三

右爲一包一日三回(百日咳)

○單寧酸亞酸化水銀 Hydrargyri-tannic Oxydula-

tum

暗綠色無味無臭の粉末にして水に溶解せず

先天梅毒に用う「モンチー」氏は左方を處せり

單寧酸亞酸化水 〇、一—〇、四

白糖 三、〇

右分十包一日二—四回一包宛食後服用

本品は胃腸を害することなし

○單寧酸オレキシム Orexin tannicum

食慾亢進藥として結核の初期腺病及諸種の疾患の快復期に用う

用量 三—十二歳の小兒に在りては〇、五を散若は「チヨコラート」錠となし〇、二五宛午食及晚餐二時間前に與ふ可し

○單寧酸ペルレチリン Pelletinum tannic.

柘榴根皮より製出せる粉末なり

絲虫の驅除藥として〇、二五を一時間内に二回に分ち糖水を以て服用せしむ

○答麻林度果泥 Pulpa Tamarindorum

印度産決明利喬木 Tamarindus indica 莢果の果泥にして柔軟粘稠褐黑色の物質なり其の味は酸く酒石酸(一、五%) 枸橼酸(一〇%)を含有す

下劑として三、〇—一〇、〇を煎となし與ふべし

處方

タマリンド果泥煎(八、〇) 八〇、〇
酒石酸 一、〇
滿那舍 一〇、〇

右一日三—四回一小兒匙宛(便秘)

○答麻林度汁 Tamarinden-Essenz

クムメンスマンの藥劑師「ダルマン」氏 Dallmann の創製に係る佳味を有する下劑なり小酒杯宛用うべし

○タンナルビン Tannalbin

單寧酸と蛋白との抱合物にして有効成分は單寧酸(五〇%を含む)なりとす

「タンナルビン」は胃中に於て收斂作用を發起することなく腸に達して初めて此作用を發現す而して毫も不快なる副作用を有せず是れ本劑の卓越せる點にして腸加答兒に著功あり

用量及用法〇、五を一回量となし二時間内に其の

各論 た之部

單寧酸規尼涅、單寧酸亞酸化水銀、單寧酸オレキシム、單寧酸ペルレチリン、答麻林度果泥、答麻林度汁、タンナルビン

四包を服せしめ爾後一日四回一包宛與ノ (Humbert's) 下痢止むの後三四日間少量を持続せしむ

一歳以下

一日〇・二五

一—二歳

〇・五

二—五歳

〇・五—一・〇

○タンニンゲン(タンニン) Tannigen (Tannon)

〔内服〕 腸加答兒の際收斂薬となし〇・〇五—〇・一を一日三回用う

○タンノーピン Tannopin

單寧と「ウロトロピン」の凝固劑にして褐色無味無臭水に溶け難き粉末なり

〔内服〕 小兒の腸加答兒に用う〇・二—〇・五を一日數回散として與ふ

○炭酸安母組膜一名鹿角鹽 Ammonium carbonicum Hirschhornsalz

無色の緻密硬固なる纖維結晶物にして強き安母尼亞臭を有し五分の水に溶解す

白糖

〇・三

右爲一包一日二—三回一包宛一硝子鹽の「セルテル」水に溶し服せしむ

(腎砂、尿砂、尿石)

○炭酸苦土 Magnesium carbonicum

白色にして殆んど水に溶解せざる輕き粉末なり

〔内服〕 胃液の異常酸生成の際一日數回〇・一—〇・三用う

○大麥芽越機斯 Malzextract

大麥より之を製す「マルトローゼ」及「ヂアスターゼ」を多量に「デキストリン」を少量に含有する者をして良品とす

〔内服〕 滋養強壯劑として用い氣道の加答兒には祛痰劑として用う

用法は日々一—三回一茶匙宛或は單品を或は温牛乳に和して與ふ

〔外用〕 には浴湯に用う浴湯の條を見よ

各論 た之部

タンニンゲン、タンノーピン、炭酸安母組膜一名鹿角鹽、炭酸利丟謨、炭酸苦土、大麥芽越機斯、含石灰大麥芽越機斯、含肝油大麥芽越機斯、乾燥大麥芽越機斯、大黃根

〔内服〕 祛痰劑として呼吸器の炎性疾患殊に肺炎に賞用す

〔處方〕

吐根浸(〇・三) 八〇・〇

炭酸安母組膜 〇・五

單舍 二〇・〇

右每二時一茶匙宛(肺炎)

○炭酸利丟謨 Lithium carbonic

白色の粉末にして八十分の冷水百四十分の熱水に溶解し炭酸含有の水には溶解し易し

〔内服〕 散として一日二—三回〇・〇二五—〇・一を腎砂、尿砂、尿石患者に與ふ其の最良なるは「セルテル」水に溶して與ふるに在り

〔外用〕 格魯布及實扶的里の際一—一、五%の液を吸入劑として用う

〔處方〕

炭酸利丟謨 〇・〇三

○含鐵大麥芽越機斯 Malzextract mit Eisen

○含石灰大麥芽越機斯 Malz. mit Kalk

含石灰大麥芽越機斯は骨形成に功あり前二者は共に一日二—三回半茶匙宛尙優病、骨軟化症等に與ふ

○含肝油大麥芽越機斯 Malz. mit Lebertran.

本品は肝油と大麥芽越機斯との功を併有するのみならず肝油單品よりも服用し易きの利あり

○乾燥大麥芽越機斯 Malz. trocken

白色粗大泡沫狀の粉末にして容易く水に溶解す

〔内服〕 呼吸器病殊に咳嗽、嘔吐の際起聲 Linderungに賞用し或は單品を與へて舌上に溶解せしめ或は冷水或は温水若は茶、咖啡、「チヨコラート」、肉汁等に溶して用いしむ

○大黃根 Radix. Rhei.

〔内服〕 小塊は咬嚼せしめ又年長小兒には丸として與ふることを得るも散若は浸となし與ふるを便なりとす

用量及用法 少量〇、〇二—〇、一は消化器加答兒の際に用いて止瀉及健胃の功あり反之大量〇、二以上は緩下の功あり

處方

大黄根末 各二〇〇
煨性苦土 右一刀尖宛(便秘)

處方

大黄根浸(三〇) 五〇、〇
酒石酸加里 五、〇
單舍 二〇、〇
右毎二時一小兒匙
宛(便秘)ヘノッホ氏)

處方

大黄根浸(四〇) 八〇、〇
滿那舍 三〇、〇
右毎二時一小兒匙
宛(便秘)

○大黃舍利別 *Sirup. Rhei.*

下劑として茶匙つゝ與ふ

○水製大黃丁幾 *Tinct. Rhei aquosa.*

大黃十分、硼砂一分、炭酸加里一分、水九十分、桂皮水十五分、酒精九分より成る

小量は健胃大量は下劑の功あり

處方

水製大黃丁幾 各二五、〇
マンナ舍利別

○タンノフォルム *Tannoforn.*

本品は〇、五—一、〇—四、〇を日量とし急性下痢に内用することあれとも専ら發汗に因する濕疹、足汗等に外用せらる

處方

タンノフォルム 〇、五
アルコホール 適宜に溶解
華攝林 一〇、〇
右爲軟膏外用(足汗)

○タンザール *Tanosal*

單寧酸「クレオソート」なり褐色の粉末にして水、酒精、虞里設林に容易く溶解す

本品は消化管内に於て徐々に單寧酸と「クレオソート」とに分解し胃を害することなく又便秘を起すことなし肺結核に用いらる

炭酸クレオソート 「クレオソートル」を見よ

炭酸クアアコール 之部を見よ

重炭酸那度留母略名重曹 *Natrium bicarbonicum.*

白色結晶狀の粉末にして十二分の水に溶解す

水劑或は散劑として胃の異常酸形成、胃加答兒、呼吸器、膀胱等の粘膜炎加答兒に用う用量は一回〇、〇五—〇、五を一日數回與ふべし

外用 〇、五—一%の液となし氣道の急性加答兒の吸入に賞用す

重曹 一、〇
水製大黃丁幾 五、〇
餛水 八五、〇

重曹 各一、〇
食鹽 各一、〇
餛水 一〇〇、〇

重曹 一〇、〇
食鹽 各一、〇
餛水 一〇〇、〇

重曹 各一、〇
食鹽 各一、〇
餛水 一〇〇、〇

重曹 各一、〇
食鹽 各一、〇
餛水 一〇〇、〇

重曹 各一、〇
食鹽 各一、〇
餛水 一〇〇、〇

重曹 各一、〇
食鹽 各一、〇
餛水 一〇〇、〇

重曹 各一、〇
食鹽 各一、〇
餛水 一〇〇、〇

重曹 各一、〇
食鹽 各一、〇
餛水 一〇〇、〇

重曹 各一、〇
食鹽 各一、〇
餛水 一〇〇、〇

重曹 各一、〇
食鹽 各一、〇
餛水 一〇〇、〇

重曹 各一、〇
食鹽 各一、〇
餛水 一〇〇、〇

重曹 各一、〇
食鹽 各一、〇
餛水 一〇〇、〇

重曹 各一、〇
食鹽 各一、〇
餛水 一〇〇、〇

重曹 各一、〇
食鹽 各一、〇
餛水 一〇〇、〇

重曹 各一、〇
食鹽 各一、〇
餛水 一〇〇、〇

重曹 各一、〇
食鹽 各一、〇
餛水 一〇〇、〇

重曹 各一、〇
食鹽 各一、〇
餛水 一〇〇、〇

重曹 各一、〇
食鹽 各一、〇
餛水 一〇〇、〇

重曹 各一、〇
食鹽 各一、〇
餛水 一〇〇、〇

重曹 各一、〇
食鹽 各一、〇
餛水 一〇〇、〇

各論 ち之部

重炭酸那度留母略名重曹・沈降性炭酸石灰、
ヂギタリス葉

之に由りて温の放散増進し延て身體内部の温度を低下せしむるに由るとなすべしと雖此解熱作用は確實に認取すること能はざるなり
「サギタリス」は蓄積作用を有し又消化器に不良の影響を興ふ是れ使用に際し決して忘却す可らざる事項とす

處方

サギタリス葉浸 (0.3) 100.0

醋酸加里 二、五

單舎 一二、〇

右毎二時一小兒匙

宛(腎臓炎、心臓疾

患、心臓水腫)

處方

サギタリス葉浸 (0.3) 100.0

苦扁桃水 二、五

單舎 一二、〇

右毎三時一茶匙一

小兒匙宛(心内膜

炎)

處方

チギタリス葉浸 (0.3) 100.0

醋酸加里 四、〇

杜松子舎利別 二〇、〇

右一日四回一小兒匙宛(利尿薬として水腫に用う)

○サウレンチン一名撒里失兒酸那度留母テオプロミン Diuretin, Theobromin patrosalicyl.

○五分の水に溶解する白色の粉末なり

内用 水劑として日量〇、三—〇、五を日に第一年の小兒を興ふることを得

本劑は氣中に於て分解し易き故に散劑として用うるに適せず又葉實舎利別、甘草舎利別其他植物性舎利別との配伍を避く可し是れ植物酸に由りて水に不溶解性なる「テオプロミン」析出せらるゝか故なり

「サウレンチン」は「テオプロミン」を含有(「クノル」四十八%)するに由り有力なる利尿劑として汎く含有す)するに由り有力なる利尿劑として汎く一船の水腫に賞用せらる(猩紅熱の際續發腎臓炎)にも之を用いて可なり

處方

外用 には梅毒の皮下注射に用う

處方

酸化汞 〇、〇一

餉水 一二〇、〇

右每一時茶匙宛

○實扶的里血清 Serum Antiphthericum.

ガフテリア毒に對して免疫せられたる馬の血清

な液體と固體の二種あり

(甲)液體、日本及獨逸製血清の免疫單位は左の如し

ロ號(獨逸) 二〇〇單位

一號(日) 六〇〇 若は五〇〇

二號(獨) 六〇〇 若は五〇〇

三號(獨) 共 一〇〇〇

一五〇〇

血清一立方瓦中に免疫三百單位以上を含有するものを高度實扶的里血清と稱す

本血清を注射するには豫め昇永水「アルコール」

サウレンチン(「クノル」) 〇、五

餉水 九〇、〇

薄荷水 一〇、〇

右毎二時一小兒匙宛(浮腫)

○腸虫苔蘚一名コルシカ苔蘚 Helminthochortos,

Corsikanisches Moos

海藻 Meerlgen より製す

佛國に於ては或は散劑となして四—一五、〇を加

糖牛乳と共に攝取せしめ或は又一〇、〇—二〇、〇

を煎劑として蛔虫驅除に賞用す

○酸化汞 Hydrargyrum Cyanatum.

無色透明の結晶にして一二、八分の冷水三分の熱

水、一四、五分の酒精に溶解するも「エーテル」には

溶解難し

内用 實扶的里性炎に用う蓋し本劑を内服せしむるときは粘液及唾液の排泄亢進し滲出物液性となり已に形成せる義膜は脱落溶解す

各論 ち之部

サギタリス葉、サウレンチン一名撒里失兒酸那度留母テオプロミン、腸虫苔蘚一名コルシカ苔蘚、酸化汞、實扶的里亞血清

臨床兒科醫典

若は石鹼を以て消毒したる大腿内面の皮下に已消毒の血清注射器(1%の曹達液中に煮沸し「アル」を用いて注射し創口は格魯胃膜を以て封鎖す)し一號血清は豫防注射として六才以下の小兒に用いらる已に實扶的里に罹れる者には二號以上を注射するを常規とす

(乙)乾燥實扶的里血清 一瓦中少くも五千免疫單位を有する黄色透映の小葉片若は帶黄白色の粉末にして用に臨んで十倍の石炭酸水(1:200)又は滅菌水に溶すべきものとす

○チモール Thiocol. 帶赤白色の粉末にして臭氣なく水に溶け易し本品は六〇%の「クアアコール」を含有す

【内服】慢性肺加答兒殊に肺結核に用う

【處方】チオコール 一、〇
餛水 五〇、〇

橙皮舎 一〇、〇

右一日三回一茶匙宛

○チオール Thiol.

「イロチオール」の同價物にして臭氣なし流動品と乾燥品とあり功力相同じ

【外用】紅斑、濕爛性濕疹、火傷の第一度、天疱瘡、帶狀水泡疹に用ふ本品は慢性皮膚病には功なし

【處方】流動チオール 五、〇 乾燥チオール末 五、〇
脂肪 四五、〇 澱粉 二五、〇
右爲軟膏外用(濕爛性濕疹) 滑石 五、〇
右撒布料(濕爛症)

【處方】流動チオール 一〇、〇
餛水 三〇、〇
右一日二回毛筆塗布(帶狀水泡疹)

○チモール Thymolum.

「チアミン」様の臭氣及香味を有する無色の結晶にして一分以下の酒精「エーテル」「クロロホルム」及一一〇〇分の水に溶解す

【外用】制腐の功あると毒性石炭酸より著しく弱きを以て創傷消毒薬として空洞洗滌に用いらる又實扶的里の局處清淨薬としては一：一〇〇〇の液を用い痰咳及氣道加答兒の吸入薬としては〇、二五：五〇〇の溶液を用う

【内服】には酸酵制止薬として胃腸の加答兒に用う

【處方】チモール 一、〇
餛水 一〇〇、〇
右創傷洗滌薬及吸入薬とす
チモール 〇、一五
餛水 一〇〇、〇
酒精 二五、〇
右毎二時一茶匙宛(胃腸加答兒)

○チナモージェン Dinamogen.

各論 ち之部 實扶的里血清、チオコール、チオール、チモール、チナモージェン、チトロロフエン、鐵必林

牛血より得たる血鹽にして味不良ならず消化せられ易し

【内服】病後の衰弱、貧血、萎黃病虛弱家に用う用量は一日三回半一茶匙若は小兒匙とす

○チトロロフエン Cirophen

枸橼酸の化合物にして酸味ある白色の粉末なり

【外用】催眠鎮靜の功あり近時百日咳痙攣期に實用す

【處方】チトロロフエン 一、〇
餛水 八〇、〇
單舎 一〇、〇
右毎三時一小兒匙(五六才の小兒)

○鐵必林 Ferripyrum.

クロール鉄一分安知必林三分より成る暗紅色の粉末なり

【外用】止血兼收斂薬として鼻出血及咽頭出血に一

○%の溶液を外用し或は一八%の綿花若は「ガーゼ」を填塞す抜菌後の出血には本品の粉末を少許の綿と共に填塞すべし

○鐵製劑 Ferrum praepraetiae

鐵劑は總べて貧血、萎黃病、尙痿病に内用す但消化不良症には禁忌とす

本品は使用量愈々小なるに従ひ功力益々大なりとす而して大人の胃は小兒の胃よりも本品を受容し難し

本劑を三—四週使用したる後には二週の間歇期を置く可し

○蛋白鐵液 Lignor Ferri albuminati.

一日三回半茶匙宛用う本品は○、四%の鐵を含有する鐵と蛋白との化合物なるが故に實際消化し易き製劑なりとす (Dresse Helfenberg 氏製劑)

○含糖炭酸鐵 Ferrum carbonic. sacharatum.

○、○三を一日三回散として與ふ

○エーテル性クロール鐵丁幾 Tinct. Ferri chlorati aethern.

○林檎鐵丁幾 T.F. Pomati.

○可溶鐵 F. dialysat. Solutum.

右三品は一日三回八—十二滴宛を與ふ

○焦性磷酸鐵水 Pyrophosphorsures Eisenwasser.

食事中若は食後直に服用せしむ一オ—四オの小兒に一日四分の一「リ—テル」與ふ

「ツルトマン」氏は慢性腸加答兒に由りて貧血となれるも哺乳兒にも亦之を用いたり本劑は消化を害することなくして速に吸收せらる

○含鐵麥芽越機斯 Dinstase-Malzextract mit Eisen.

本品は一日二茶匙宛用うべし

○ブラウツド氏鐵丸 Brand's Eisenpillen.

本劑は只年長小兒に用うべきのみ

【處方】

硫酸鐵

各論 て之部

エーテル性クロール鐵丁幾、林檎鐵丁幾、可溶鐵、焦性磷酸鐵水、含鐵麥芽越機斯、ブラウツド氏鐵丸、百布頓滿鐵液、含糖滿鐵、帝列並油

【處方】

含糖炭酸鐵 ○○、三
白糖 ○、三
右爲一包一日三回
一包宛

【處方】

含糖炭酸鐵 八、〇
規那皮末 四、〇
右一日三回一刀尖
宛葡萄酒に混して
用う

○複方鐵丁幾 Tinct Ferri comp.

一日三回一茶匙より半食匙を與ふ

本品は○、二%の鐵を含有し容易く消化す (Athenstadt 若は Helfenberg 氏製劑)

○乳酸鐵 Ferrum lacticum.

○、○三—○、○五を一日三回散となし與ふ

○百布頓鐵液 Lignor Ferri Peptonati.

一日三回半茶匙宛用う

本品は○、四%の鐵を含有す

○還元鐵 Ferrum reduct.

○、○三—○、○五を一日三回散となし與ふ

炭酸加里 各一五、〇

甘草越機斯

甘草末

各適宜

右丸百二十粒となし石松子末を衣とす一日

三回—十三丸宛

若し萎黃病者にして鐵療法に適せざるときは滿脛との鐵化合物を與ふるに宜し

○百布頓滿鐵液 Lignor Ferro Mangani Peptonati.

本劑中の鐵は滿脛と共に容易く吸收消化せらるゝ形態を有す

○含糖滿鐵液 Lignor Ferro-Mangani sacharati

本品は百布頓滿鐵液と同じく○、六%の鐵及○、一%の滿脛を含有す兩者共に通常一日三回半茶匙を與ふ然れども幼兒に向ては含鐵麥芽越機斯及滿

脛鐵は一日二回三分の一茶匙なるを適當とす

○帝列並油 Ol. Terebinthinal

帝列並底の「エーテル」性油にして無色若は帶青黃色を呈す

内服 實扶的里の際十滴—一茶匙宛一日數回與へし後ち温牛乳を服さしむ(但腎臟炎に注意せよ)其他解毒劑として燐中毒に用う

外用 吸入として氣道に加答兒に用う即ち病室に於ける釜の煮沸沸水に一茶匙を投すべし

處方

帝列並油

白糖 各七、五

亞拉比亞護謨

餵水 一二〇、〇

右乳劑となし毎三時一茶匙宛(實扶的里)

○テレンソール製劑 Terphen pteparatae.

本劑は腎臟の健全ならざる者胃の弱き者五歳以下の小兒には之を使用す可らず

○テルペン、ヒドドラート Terpin hydratum.

用ふ〇、〇〇一—〇、〇〇五—〇、〇一を臨臥に與ふべし

○吐劑 Brechmittel.

元來嘔吐作用の發動は胃壁の強力なる刺激に由りて胃より來るにあらざれば嘔吐中樞の刺激に因るものにして適應症狀 Indicationen として來る嘔吐は(一)健全なる胃に於ける有害物(毒物及不消化物)排除(二)病的產物(格魯布性膿膜粘液異物)排除の際に發現す之に反し忌避症狀 Contraindicatoren として發する嘔吐は炭酸の中毒及衰弱の存在を示す

凡そ吐劑として有要なるは「アボモルヒネ」(皮下注射)

吐根、吐酒石、硫酸銅、海葱醋蜜等なりとす

(1)アボモルヒネ 鹽酸アボモルヒネを見よ

(2)吐根 Radix Ipecacuanhae.

毎十分時左記の量を與へて吐あるに至るべし

〇—一歳 〇、〇〇五

一—二歳 〇、一

各論 と之部

テルペン製劑、テルペンヒドドラート、ルリウーム酸那度留母、吐劑

光輝ある無色の結晶にして二百五十倍の冷水三十分の熱水に溶解す

「ラザールス」氏 Lassar's は百日咳に良功ありとして賞用し殊に急性氣管枝炎を伴ふものに適すとせり

内服 〇、五を散劑一回量として一日三—四回與ふ

處方

テルペンヒドドラート 〇、五

右爲一包一日三回一包宛(百日咳)

○テルペンノール Terpinol.

無色の液體にして光線を屈折すること強く水に溶けず「アルコホール」「エーテル」に溶け易し

内服 止血藥として肺結核患者の咯血に牛乳に和して五才以上の小兒に用ふべし用量は一回〇、〇三—〇、〇五にして毎三時に與ふ

○テルリウーム酸那度留母 Natrium telluricum

白色の粉末にして水に溶解し易し肺結核の盜汗に

三—四歳 〇、一五

五—十歳 〇、二

十一—十四歳 〇、二五

十五—十七歳 〇、五

本品は毎常散として用いらる殊に虛弱の小兒及下痢ある者に於て賞用せらる是れ吐根は他の吐劑の如く胃を刺激すること劇しからざるが故なり

處方

吐根浸(三〇) 五〇、〇

吐根舎 一〇、〇

右每十分時一茶匙

宛吐あるに至る

處方

吐根酒 三、〇〇

右每十分時一茶匙

吐あるに至る(幼

兒に用うべし)

祛痰劑としての吐根は下文に詳説すべし就て見られよ

(3)吐酒石 Tartarus stibiatu.

本劑は胃腸及心臟に有害なる副作用(胃の剝脱性弱腸、加)を呈するを以て可成之を用いざるを可と

吐酒石の代用として吐酒石酒を單品或は海葱醋蜜と等分に和して毎十分一茶匙宛奏功あるに至る迄用るを優れりとす(幼兒に)

處方

- 吐根末 二〇
- 吐酒石 〇、〇五
- 餾水 三〇、〇
- 海葱醋蜜 三〇、〇

右每十分時一小兒匙宛吐ある至る(年長小兒)

(4) 硫酸銅 Cuprum sulfuricum

本劑は三歳以下の小兒には用う可らず(胃の「エロツオン」を生ずるの虞あり)

- 三—五歳 〇、二
- 五—八歳 〇、三
- 八—十二歳 〇、四

十二歳以上 〇、五

通常人の好んで用うる處方は左の如し

- 硫酸銅 〇、五
- 餾水 六〇、〇

右每五分—十分時一茶匙宛吐あるに至る

(5) 海葱醋蜜 Oxymel scille

多くは只乳兒の吐劑として用いらるゝのみ用量は一茶匙宛とす

〇 挖物兒氏散 阿片劑を見よ

〇 吐根

南米伯拉西爾產 Psychorria Tpecanahne

の皮「根」にして薬用には其の皮部を用う有効成分は「エメチン」にして〇、七五—一%を含有す

〇 吐劑及祛痰藥として用う(吐劑を参照せよ)

祛痰藥には吐劑の一回量を一日量として用うるを

通規とす

處方

- 吐根末 各〇、〇一
- 甘汞 〇、〇三
- 白糖 〇、〇三
- 右爲一包毎二時一包宛(熱及輕度の氣管枝肺炎を伴ふ氣管枝炎)

- 吐根浸 (〇、二五) 〇、〇
- 苦扁桃水 一、〇
- 右每二時一小兒匙(劇しき咳嗽及下痢を伴ふ氣管炎)

處方

- 吐根吐浸(〇、二五) 〇、〇
- 礫砂加苗香精 一、〇
- 苗香舎 一〇、〇
- 右每二時一小兒匙宛(氣管枝炎)

〇 吐酒石 Tartarus stibiatus

白色の結晶にして十七分の水に溶解す

〇 内用 には吐劑(吐劑を見よ)として用い又小量(〇、〇二—〇、〇三に餾水一〇〇)は祛痰劑として

各論 之部 挖物兒氏散、吐根、吐石酒、吐酒石酒、杜松子、

用う
〇 外用 表在性母斑の除去に用う「ブオーゲル」氏 Vogel は本品一分と蠟泥三分とを麻布に攤して母斑に貼し一二日間放置せり之に由りて生したる膿疱は結痂して脱落するを常とす

〇 吐酒石酒 Vinum stibiatum

一分の吐酒石二五〇分の Kereswein より成る吐劑の條を参照せよ

〇 杜松子 Lycopsidium

帶青黄色宛滑澤の粉末にして味臭共になし

〇 内用 杜松子乳劑(五・一〇〇)として痙攣性尿閉の際毎時一茶匙宛與ふ

〇 外用 濕爛に撒布藥として或は單品を用い或は煨性苦土若は滑石と伍して用う

〇 トリプシン Trypsin

蛋白を溶解し且之を分解する酵素素にして腫脹より製す本品は纖維性滲出物を溶解する確功あり

處方

降腦エキス 四、〇
重曹 八、〇

右一茶匙を六茶匙の温水に加へ塗布料とす
(格魯布、質扶的里)

○南瓜子 *Semina cucurbitae*

伊太利、墨其哥及其他の南方諸國に於て民間薬として條虫の驅除に用う即ち二五、〇—四〇、〇—六〇、〇を一回に與ふ

本品は胃に何等の障害を起すことなし而して鑑取後二時間にして「リチネ」油一小兒匙を服さしむ
本劑は南方諸國に反し寒國(北佛蘭西及獨逸等)に於ては驅虫の功なきが如し「モンチー」氏は本劑に由りて頭部の斷切したる條虫の排除せらるゝを經驗せりと云ふ

○那布答林 *Naphthalinum*

石炭參兒より製出す刺すか如き臭氣と燒くか如き

ナフタリン 〇、五

アラビヤ膠漿

各四〇、〇

加密爾列水

右毎二時一小兒匙宛但用時能く震盪すべし
(年長小兒の慢性腸加答兒)

○ナフトール *Naphtholum*

(ベタナフトール *Beta-Naphtholum*)

無色の光輝ある板狀結晶若し白色結晶狀の粉末にして弱き石炭酸様の臭氣及持續長からざる燒くか如き鋭き味を有し容易く「アルコホル」依的兒「クロホルム」に溶解す

外用 乾癬、白癬、鱗癬、痒疹、面皰、疥癬に對し五—一〇%の軟膏となし用う

處方

ベ、ナフトール 一〇、〇

沈降性硫黃 五、〇

白色華攝林 二五、〇

處方

ベ、ナフトール 五、〇

華攝林 一〇〇、〇

加里石鹼 五〇、〇

各論 之部

南瓜子、那布答林、ナフトール、ナフトールヴァアゾゲン、乳酸、肉桂酸那度倫、乳糖、ニルヴァニン、肉荳蔻膏、

香味を有し光輝を放つ無色の板狀晶にして水に溶量せず「アルコホル」「エーテル」「クロホルム」はに容易く溶解す

年長小兒の吐瀉病及慢性腸加答兒に一回量〇、〇—三〇、〇—五〇、〇、二を或は散となし或は沙列布煎火に和し二時毎に服さしむ

本劑を持長使用するときは腎臓炎、水晶體、網膜の疾患、苦惱多き尿意頻數、血尿等の中毒症狀を發す「ヤコビー」氏 Jacobi は本劑を腸窒扶斯初斯の下痢に用い防腐作用の功に由りて好果を收め得たり

外用 「ナフタリン」一、〇を蒸餾水五〇、〇—一〇〇、〇に投して煮沸し牛乳様の液を得るに至り攪拌しつゝ半—一律淫兒の煮沸したる蜀葵茶液に注加し其の全液攝氏三七度に冷却するを待て赤痢、虎列拉、腸窒扶斯等の浣腸に供す

加里石鹼 二五、〇

右泥となし筥或刷

子を以て布片に攤

して刀背の厚さと

なし患部に貼布す

ること十五—三十

秒時にして之を除

く軟き布片を以て

拭ひ後ち滑石或は

澱粉を撒布す(面

皰等)

白蠟 一〇、〇

右軟膏とす(疥癬)

○ナフトールヴァアゾゲン *Naphthol-vasogen*

「ナフトール」を十%の比例を以て「ヴァアゾゲン」に加へたる黃褐色透明の液にして一ヶ月間は貯藏し得べし

外用 頑癬、頭部肥脂漏、匍行疹、毛虱、疥癬等に塗布して功あり

○乳酸 Acidum lacticum

無色舍利別様の液體にして種々の比例に於て水及酒精に溶解す

内服 乳兒の綠便下痢に二%の溶液となし與う

外用 五—六%溶液を格魯布及實扶的性義膜溶解の目的を以て吸入に供す

處方 乳酸 二、〇
餾水 一〇〇、〇

右每一二時一茶匙

宛(乳兒の綠便下痢)

處方 乳酸 一五、〇

餾水 三〇〇、〇

右吸入料(格魯布、實扶的里)

處方 乳酸 一五、〇

右十一—二十滴を一

食匙の永に滴下局處塗布料とす(實扶的里性炎)

○肉桂酸那度倫一名ヘトーン Zimmtsäure Nalron, Hetol.

ランデール氏 Landerer は肺結核に對し本品の靜脈内及臂肉注射を賞用したりと雖其功力は疑はし

○乳糖 Saccharum lactis.

七分の水に溶解す白糖より甘味少し専ら引濕性散藥の礎劑として用う又小兒には下劑として功あり「ゲルマイン、セー」氏 Germain See に從へば心臟性水腫に好良なる利尿藥にして而も腎臓に障害を起すことなしと云ふ

○ニルウアニン Nirvaninum

本品溶液(二%)を皮下に注射するときは局處麻酔の功あり又齒科に於ては泥となし頰痛に用うと雖小兒科に於ては用うるに稀なり

○肉荳蔻膏 Balsam Nucistae.

黄蠟一分、阿列布油二分、肉荳蔻油六分より成る鼓脹性疝痛の際腹部擦劑として用う

ニルウアニン

肉荳蔻膏

○ヌトローゼ一名乾酪曹達 Nutrose, Natrium Caseinicum.

本品は榮養に適する乾酪の一化合物にして容易く水に溶解する無味の粉末なり牛乳、肉汁、茶等に和して一茶匙宛用うべし

○マチス油 Ol. Nucistae.

外用 擦劑として腸疝痛に用う

マチス油 五、〇

阿列布油 一、五〇

メント油 二、五

右混和擦劑とす

○ノゾフェナム Nosophenum.

沃度の多量(六〇%)を含有する弱黄色無臭無味の粉末なり

内服 には此の消毒藥として〇、〇五—〇、二を急慢二性の腸加答兒に用う

○硼酸 Acidum boricum.

各論 は之部 ストロローゼ マチス油、ノゾフェナム、硼酸、硼砂、

無色蠟狀脂肪様感ある結晶にして二十分の冷水三分の温水に溶解す

外用 殺菌及綳帶用とし四%の溶液を木綿及林篤の飽和藥とす

撒布藥としては或は單品を或は澱粉、亞鉛花等と伍して用う

軟膏としては一：五—一〇のものを用う

臭鼻瘡には鼻散(硼酸末一〇、〇「メントール」〇、二「ザロール」一、〇右爲散、外用「コルテス」氏方(Cordes)として用う

耳漏には洗滌料として一茶匙を一硝子盃の温水に溶し用てう

處方 硼酸 三、〇

華振林 五〇、〇

右爲軟膏(臭鼻瘡、濕爛、熱傷、凍瘡、

處方 硼酸 一〇、〇

蒸餾水 三〇〇、〇

右含嗽料(實扶的里)

臨床兒科醫典

臍損傷等

硼酸 三〇、〇

餛水 一〇〇、〇

右耳腔洗滌料(但血温に温め用ラベシ)

處方

硼酸末 一五、〇

右耳内吹入薬とす

(耳漏)

處方

硼酸 三〇、〇

餛水 一五〇、〇

右皮膚洗滌料(多汗症)

處方

硼酸 〇、五

ラノリン 五〇、〇

處方

硼酸 三〇、〇

右一茶匙を半硝子

盃の煮沸水に溶し

微温の際洗耳料とす(耳漏)

處方

硼酸 〇、五

餛水 一〇〇、〇

右膀胱洗滌料(膀胱炎)

處方

硼酸 五、〇

餛水 一〇〇、〇

右洗眼料(麻疹)

處方

硼酸 六、〇

ワセリン 一〇、〇

右湿和軟膏とす

(濕爛症)

阿布答)

〇硼砂(硼酸那度留母) Borax (Natrium bibor-
acium)

硬固白色の結晶若は結晶塊にして十七分の冷水

〇、五分の熱水及虞里設林に溶解するも酒精には

溶解せず

外用 驚口瘡には塗布液(四〇〇)として用い(蜂蜜

ふるときは)又加答兒性疾患には口内洗滌液とな

し氣道の加管兒には吸入劑として用う

處方

硼砂 一二、〇

餛水 三〇〇、〇

右口内洗滌料(驚

口瘡)

處方

硼砂 一、〇

虞里設林 二五、〇

右塗布料(驚口瘡)

硼砂 一、〇

餛水 一〇〇、〇

右吸入料(喉頭加

際粘膜炎を潤なら

しめ分泌物を液様

ならしめ且炎症腫

脹を軽減せしむる

爲に)

用ふ)

〇芒硝(鹽基性硫酸那度留母) Natrium Sulfuricum

siccus.

白色の粉末にして容易く水に溶解す

内用 緩下劑として用う即ち五—十二歳の小兒に

は一硝子蓋の「セルテル」水に溶して與ふるを便と

す

「オットー」氏 Otto は本劑を血友病に賞用せり

〇白陶土又白礬土 Bolus alba, Argilla.

白色無臭無味懸疎の粉末にして水及酒精に溶解せ

ず稀酸及亞爾加里には溶解す

各論 は之部

芒硝(鹽基性硫酸那度留母) 白陶土又白礬土、抱水アミ

内用 「ソルトマン」氏は慢性腸加答兒に之を用い

たり

外用 には濕爛に撒布す

處方

白礬土 一、〇

餛水 五〇、〇

阿片安息香丁幾 二、〇

桂皮舍 一五、〇

右每二時一茶匙宛(腸加答兒)

〇抱水アミールン Amylenum hydratum.

透明無色揮發性の液にして八分の水に溶解す

内用 催眼藥として一才以下の小兒には〇、〇五

一〇、一二才以上十二歳迄は〇、五を與ふ

〇抱水格魯刺兒 Chloralum hydratum.

弱き苦味を有する無水の結晶にして容易く水、酒

精及「エーテル」に溶解す

内用 喘息、百日咳、舞蹈病、消化不良性嘔吐の

臨床兒科醫典

際備眠及鎮制藥として用う但本劑は貧血、肺心臓疾患を有する者併に胃潰瘍を用する者には禁忌とす

用量は左の如し

- 〇一歳 一回〇、一 一日〇、三
- 一—二歳 〇、二 〇、五
- 三—四歳 〇、五 一、〇
- 五—十歳 〇、五 一、五
- 十一—十四歳 〇、七五 二、〇
- 十五—十七歳 一、五 四、〇

外用 には洗腸として尿毒症、急痲、牙關緊急、破傷風及聲門痙攣に用う

- 〔處方〕
- | | | | |
|-------------|-------|----------------------|---------|
| 抱水クロ ラール | 一、五 | 抱水クロ ラール | 〇、五—一、〇 |
| 餛水 | 一〇〇、〇 | 餛水 | 三〇、〇 |
| 橙皮舎 | 二〇、〇 | 右洗腸料(三—四 歳の小兒の急痲及 | |
- 右毎時一小匙宛

(百日咳、消化不良性嘔吐)

- 〔處方〕
- | | |
|-------------|------|
| 抱水クロ ラール | 一、〇 |
| 臭素加里 | 三、〇 |
| 餛水 | 五〇、〇 |
| 單舎 | 二五、〇 |
- 右毎三時一茶匙宛
(生齒困難、急痲)

聲門痙攣) 注意 本劑は可成直腸の深部に注入す可し

〇芳香丁幾 Tinctura aromata

五分の桂皮、二分の生姜、各一分の良姜、丁子、小肉荳蔻及五十分の稀酒精より成る

〔内用〕 慢性消化不良の際健胃劑として五—十滴一日數回用う

「ソルトマン」氏は腸痲痛に左方を處せり
芳香丁幾 酒精

エーテル 各二十滴

- 餛水 四五、〇
- 單阿片丁幾 一—三滴
- 茴香舎 五、〇

右毎二時一茶匙宛

〇麥酒醱酵素 Bierhefe, Hefe.

〔内用〕 實扶的里に用う用銀は一回五〇、〇一日二—三回與ふ可し

〇白降汞 Hydrargyrum praecipitatum album.

白色無形の粉末にして水及酒精に溶解せず内用に供することなし

〔外用〕 濕疹、梅毒性潰瘍、寄生性皮膚病、結膜及角膜疾患(黄降汞を参照せよ)に用う

- 〔處方〕
- 白降汞 一、〇
 - 華攝林 二五、〇
 - 百露婆兒撒誤 五、〇

各論 は之部 芳香丁幾、麥酒醱酵素、白降汞、白降汞軟膏、薄荷蓋

右爲軟膏(落屑期の濕疹に綿紗に攤して貼用す)

〇白降汞軟膏 Unguent. Hydrargyr. alb.

白降汞一分巴拉賓九分より成り鱗屑癬に用う

〇薄荷蓋 Stylna Mentholi.

偏頭痛の際前額部及額部部に塗擦す

〇バラクレンチン那度留母 Natrium parakresotini-cum

結晶狀粉末にして二十四分の温水に溶解し苦味を有す

〔内用〕 本劑は下熱の功を有し小量持長に由りて便通を減少す

- 〔處方〕
- 二—四歳 一回〇、一—〇、二五、一日〇、五—一、〇
 - 五—十歳 〇、二五—一、〇 二、五—三、五
 - 十一—十六歳 一、〇—一、五 三、五—四、五

バラクレンチン曹達 〇、一五

臨床兒科醫典

單阿片丁幾

二滴

コニヤツク

一〇〇

餡水

二五、〇

單舍

五、〇

右毎二時一茶匙宛(急性胃腸加答兒)

○ペパヨチン Papayotinum

無花果の肉汁より製したる白色無味無臭の粉末にして蛋白質を溶解す

〔内服〕 消化不良に〇、〇五—〇、一を一日三回與ふ

〔外用〕 五%の液となし實扶的里性膀胱に塗布し又は硝子管を以て患部の實質中に注入す

〔處方〕

ペパヨチン 一〇〇

餡水 二〇〇

右途布若は吸入料(實扶的里、格魯布)

甚幼き小兒に在りては此液を途布するよりは寧ろ綿花に浸淫せしめて吸攤せしむるを以て便なりとす

す

○巴拉賓軟膏 Unguentum paraffini.

一分の固形巴拉賓及四分の濕性巴拉賓より成る白色の軟膏にして諸種の膏藥礎劑に適す是れ其の無刺戟性なると分解の患なきとに由る

○白糖 Saccharum album

〔外用〕 實扶的里の際吸入藥として用うることあり

○麥角劑 Secare Cornutum

諸多の器臟の出血(肺、胃、腸、腎、鼻等)に用うるのみならず傳染病後の心肉炎、脱肛、糖尿病、遺尿症等に用うと雖使用長時に亘るときは特發脱疽を發することあるを忘る可らず

○麥角は「クラフイチエンスブルフレンヤ」Craviceps-Purpureaを發育停止の時期に於て集收したるものにして浸劑一—二〇〇:一〇〇〇〇と毎二時一—小兒匙宛與ふ

○麥角越機斯 Extract. Secalis cornuti, Ergotion.

宛注射(脱肛「ヘン」

ツホ」氏)

○メシチン Basicin.

規尼涅と「コフエイン」との抱合物にして等分の水に溶解する白色の粉末なり

〔内服〕 解熱に用う又悪性麻拉里亞に功あり用量は一回〇、〇二—〇、〇八—〇、一二とす

○ハイアマン氏養素 Heyden's nahrstoff

卵の蛋白より製したる帶黄白色の粉末にして熱湯に溶け易し

〔内服〕 本劑は有力なる滋養品たるのみならず又食慾増進藥たり衰弱家及重病快復期の者に適す用量は一日三四分の一—半茶匙宛牛乳及其の他の食物に和して取らしむべし

○芳香流動ロア—越機斯 Extract. fluid. Rois arom.

芳香性 Rhos の實子より製す

〔内服〕 遺尿に用う即ち三才迄は一日二回五滴つゝ

各論 は之部

ペパヨチン、巴拉賓軟膏、白糖、麥角劑、麥角、越機斯、メシチン、ハイアマン氏養素、芳香流動ロア—越機斯

〔内服〕 〇、〇二—〇、〇三を一日數回溶液(一:一—二〇)として與へ又喀血の際には〇、〇二或は其の以上を皮下注射として用う

「ヘノツホ」氏は一歳半—三歳の小兒の直腸脱に一日一回〇、〇二—〇、一の麥角を注射し好結果を得たり

〔處方〕

麥角浸(三〇) 二〇〇

麥角越機斯 〇、平二、〇

單舍 一〇〇

餡水 一〇〇、〇

右毎二時一小兒匙

單舍 二〇、〇

宛(糖尿病、心肉

右毎二時一小兒匙

炎、内出血)

宛内出血、遺尿症)

〔處方〕

麥角越機斯 一、〇

麥角越機斯 〇、平二、〇

虞里設林 各三〇、〇

餡水 各三〇、〇

右肛圍に一日一筒

六才迄は十滴宛年長小兒には十五滴宛を三四ヶ月持長すべし

○キノリン Chinolinum.

無色の液體にして水に溶け難く酒精「エーテル」「クロロホルム」には溶け易し

外用 實扶的里の際塗布薬として5%の酒精溶液を用い含嗽薬として1-2%の水溶液を與ふ

處方

キノリン 五、〇
酒精 各五〇、〇
水 各五〇、〇

右塗布料(實扶的

處方

キノリン 一、〇
酒精 水五〇〇、〇
酒 精 五〇、〇

右含嗽料(實扶的

里)

里)

○向日葵丁幾 Tinct. Helianthann. (Sonnenblume.)

魯國に於て麻拉里亞に用う即ち1-11歳の小兒に1-25滴一日3-6回服用せしむ本品には毒性なし規尼涅に代用し得らるゝ利益あり

り

○非沃斯越機斯 Extractum Hyoseyami.

非沃斯葉より製せる帶緑褐色の稠厚なる越機斯にして瀉瀉して水に溶解す

内服 一用量〇、〇〇1-〇、〇〇2一日〇、1を用う用法は一日3-4回散若は水劑として百日咳に用う

外用 軟膏、洗腸劑又は坐藥として鎮痙鎮痛の目的に用うることあり

○ペンピネルラ丁幾 Tinct. pimperis.

ペンピネルラ根の丁幾(1.5)にして健胃祛痰の目的を以て粘膜加答兒に用う

「ノイマン」氏 Neumann は1-2ヶ月の小兒には3滴二才の小兒には5滴之より以上の小兒には六-十滴を糖水に和して毎二時に與へたり

○ピオクタニン Pyoktrininum

此名稱の下に亞尻林色素抱合物を防腐劑として外

用に賞賛す「ピオクタニン、チエロロイム」(メチールウイオレット)Pyok. Caeruleum (Methylviolet) 及「ピオクタニン、アウロイム」(アウラミン)Pyok. aureum(Auramin)尤も用いられ殊に「アウラミン」は眼科に賞用せらる

「ケルレル」氏 Keller は〇、〇五-1.〇〇、〇の「ピオクタニン」吸入の後喉頭格魯布の高度なる狹窄症狀の速に輕快せる二例を報告せり

○ピラミドン Pyramidon

帶黄白色の水に溶け易き結晶にして殆んど味なし
内服 解熱薬として殊に肺結核に賞用し又頭痛にも之を用う用量一回〇、〇三-〇、〇八-〇、一とす

○プロモフォルム Bromofornium

透明にして固有の芳香を有する液體なりとす日光に對して震盪し赤色を呈する「プロモフォルム」は其の功力疑はし

各論 ひ之部

キノリン、向日葵丁幾、非沃斯越機斯、ペンピネルラ丁幾、ピオクタニン、ピラミドン、プロモフォルム

内服 には或は單に滴劑とし或は酒精(本劑三滴を加ふ)及餗水と混して痙攣咳に用う

〇、一歳 一日3-4回一滴宛

一-二 二

二-三 三

三-四 四

四-六 五

六-八歳 六

八歳以上 七

本劑を茶匙に滴下し水と共に與ふるに際しては比重の重きか爲常に匙面に沈降して球狀を成し在るに注意すべし又本劑は揮發し易きと分解し易きとに由り決して三、〇以上を處す可らず

「プロモフォルム」は粘膜殊に呼吸器粘膜を刺戟すること強きを以て危険なきにあらず

處方

プロモフォルム

十滴

酒精

三〇〇
一〇〇〇

注意、黒色瓶に容れ與ふべし
右毎時一乃至二小兒匙宛(三歳の小兒)
の痙攣咳)

○ 貌魯母 Bromum

暗紅褐色揮發性の液體にして四十分の水に溶解す
實扶的里及格魯布の際塗布藥及吸入藥として外用
に供す

【用法】

プローム 〇、五
臭素加里 一、〇
餽 水一〇〇、〇
注意、黠色瓶に容
れ與ふ
右塗布料(實扶的
里)

【用法】

プローム 〇、二
臭素加里 〇、二
餽 水一〇〇、〇
注意、黒色瓶に容
れ與ふ
右小匣中の海綿に
點滴し一日數回五
分宛吸入(格魯布)

○ 貌魯母水素酸 コニウム Coninum Hydrobromi-
cum.

結晶様粉末にして痙咳に用う

【用法】

プローム水素酸コニウム 〇、〇二
單舎 一〇、〇
右一日三回一茶匙宛

○ 貌魯母加留母一名臭素加里 Kalium bromatum

二倍の水に溶解する白色の骰子形結晶なり

【用法】 散劑或は水劑となし癩癩、牙關緊急、舞踏

病、百日咳、聲門痙攣、夜間の咳嗽、夜啼症及齒
牙發生期の不眠症等に鎮痙藥として與ふ

用量は齡一年を加ふる毎に通常〇、三を増すと雖
五―八歳の癩癩に在りては其の量を増して二―
三、〇となさざる可らず然れども亦過大量の使用
は致死の危険なきにあらず「グットマン氏 Guttm-
ann は十二歳の癩癩兒に日々三―七、〇の臭素加

里を與へたるに由りて死に陥りたるものあること
を報告せり

本劑の副作用は胃加答兒、食慾減損、下痢、「ア
クネ」、「不全麻痺、頭痛、嗜眠等なり」「ノイマン」氏
Neumann は此副作用を豫防するか爲、重炭酸那
度留母を添加したり

又臭素劑は尿の他乳汁に由りて排泄せらるるか故
に母氏に本劑を用うるの間、乳兒の皮膚に發疹を
生ずることあり臭素劑は上記の如き危険あるを以
て持長を要するときは臭素加里と臭素曹達の同量
を配合し而して尙ほ其の半量の臭素安母細膜を加
へたるものを賞用す「エルレンマイエル」氏 E.
ernmeyel 及「シェーリング」氏 Schering の臭素水
は即ち是にして臭素加里、臭素曹達各四、〇臭素
安母細膜二、〇を曹達水六〇〇、〇に溶解したるも
のとす日々四分の一乃至二分の一瓶を與ふべし
臭素加里は持長、度を過ぐるときは面皰、筋肉及

各論 ふ之部

貌魯母、貌魯母水素酸コニウム、貌魯母加留母
貌魯母安細膜、貌魯母那度留母

精神の衰弱、心思の沈鬱を來す注意すべし又臭素
加里と甘汞との配伍は臭素化水銀形成の危険ある
か故に忌避すべし

【用法】

臭素加里 五、〇
餽 水 七五、〇
右臨臥一時間前に
一茶匙乃至一小兒
匙宛(夜啼及
痙攣咳)

【用法】

臭素加里 三、〇
餽、水 一〇〇、〇
右毎三時一小兒匙
宛(癩癩等)

○ 貌魯母安母細膜 Ammonium bromatum

「エルレンマイエル、シェーリング」氏臭素水の一
成分をなす單に本品のみを用ふることは稀なり用
量は一圓〇、〇五―〇、二なりとす

○ 貌魯母那度留母 Natrium bromatus

醫治的功用及用量臭素加里に同じ
本品は不快なる副作用を有せざるを以て小兒科に
在りては臭素加里と共に賞用せらる

貌魯母加留母一名臭素加里

○沸騰枸橼酸麻屈涅失亞 *Magnesium citricum eff-
gvescens.*

〔内服〕 緩下劑として一茶匙宛水にて用う

○フェナセチン *Phenacetin.*

無色の光輝ある板状結晶にして臭味共になく一四〇〇分の冷水七〇分の沸騰水一六分の「アルコホル」に溶解し体内に於ては二個の異體即ち「メネチチン」*Phenetidin* 及「パラミドフェノール」*Paramid phenol* に分解するを以て諸種の有毒性「アニリン」に分解する安智歐武林の如き危険なし

〔内服〕 散となし鎮痛及解熱劑として用い又百日咳に使用せらると雖「ロイプツシヘル」氏 *Leubuscher* に由りて全く其の功なきことを證明せられたり

乳兒 一回〇・〇五 一日〇・二
二歳 〇・一 〇・三

三歳 〇・一 〇・四
四―五歳 〇・二―〇・一五 〇・五―〇・六
六―十歳 〇・二―〇・四 〇・六―一・二
十一―十五歳 〇・三―〇・五 一・二―一・〇

〔外用〕 百日咳の際鼻腔の撒布藥とすることあり

○プロピラミン (三メチルアミン) *Propylaminum (Primethylamin)*

無色にして強き安母尼亞臭を有する液體なり水及「アルコホル」に溶解す

〔内服〕 痲瘋實斯、舞踏病、百日咳に常用す即ち〇・〇五―〇・一を溶液として與ふ「ゾルトマン」氏は嘔吐、腸神經痛、下痢及劇度の亢奮副作用として發現するを見たりと云ふ

○プロタルゲール *Protalgot.*

水銀の蛋白化合物にして水に溶け易き黄色微細の粉末なり

〔外用〕 二%の液として膿漏性結膜炎に〇・五%の

液として淋疾及耳漏の洗滌に用う

○複方甘草散 *Pulvis Liquiritiae compositum.*

一名クレル氏和胸散 *Kurellisches Brustpulver.* 硫黄一分茴香末一分甘草根末二分旃那葉末二分白糖より成る

乾燥綠黄色の散にして一刀尖宛緩下劑として内用に供す

○フェルザン *Fersum.*

鐵と燐とを含有する滋養劑にして「チヨコレート」様褐色の粉末なり水に溶解し煮沸するも凝固せず

〔内服〕 貧血、衰弱、脊椎肺勞及重病の快復期に用う用量一日一―二茶匙とす

○フェルラトーゼ *Ferratose.*

「フェルラチン」*Ferratin* の溶液なり暗褐色を呈し味佳良なり

〔内服〕 鐵を含むを以て貧血及衰弱せる者に用う用量は一日三回半茶匙宛とす

各論 ふ之部

沸騰枸橼酸麻屈涅失亞、フェナセチン、プロピラミン、プロタルゲール、複方甘草散、フェルザン、フェルラトーゼ、フェルレーミン、フォルトイン、プロモコル

○フェルレーミン *Ferrilemin.*

「ヘルテル」氏 *Hertel* が牛血と鐵とを以て製したる新藥にして四、七五%の蛋白〇・一二四%の鐵二〇%の「スバニア」酒より成る功用「フェルラトーゼ」に同じ用量は一日三回半―二茶匙とす

○フォトイン *Fortoin*

「フォルムアルデヒド」を「コトイン」に作用せしめて得たる黄色結晶状若は粉末状のものなり桂皮臭を有し「クロ、フォルム」氷醋には溶け易く「アルコホル」「エーテル」には溶け難く水には全く溶けず

〔内服〕 腸神經痛及腸加答兒に用う用量は一回〇・〇〇五―〇・〇一とす

〔外用〕 には五%の酒精水劑となし腐敗性扁桃腺炎に塗布す

○プロモコル *Bromocoll.*

親骨母と單寧と膠との合劑にして臭味共になき黄

色の粉末なり

【内服】 臭素加坐の代用品として鎮痙及鎮制に用う
可し用量一回〇・〇二—〇・二—、〇一日三四とす

【外用】 には軟膏として痒疹殊に生殖器の痒疹、皮膚の神経疾患及蕁麻疹等に用う

○ プラスモン Plasmon.

乳蛋白なり淡黄色無味無臭の粉末にして能く水に溶解す

【内服】 滋養強壯劑として消耗性疾患殊に肺癆に用う他の食品に加へ與ふるに宜し用量は一日三、〇—五〇、〇とす

○ 百露拔兒撒謨 Balsam peruvianum

百露産「トレイフヘラー」根「Touifera」の樹脂にして帶褐紅色より暗褐色を呈し佳香を有する稠厚なる液體なり

【外用】 疥癬には擦入劑とし臭鼻瘡には塗布藥（綿

球に浸して挿入）とし又瘻管の治療に用う此他三%の拔兒撒謨軟膏は鼻及口唇の濕疹に用うべし但此場合に在りては預め甘扁桃油に浸したる綿花を局部に貼して其表皮を軟化せしめ置くを要す

【処方】 「ヘブラ」 二五、〇
氏軟膏 〇、五
ペリニエ
ベルサム

右爲軟膏（亞麻布に攤して濕疹に貼布）

【処方】 百露拔兒撒謨 三〇、〇
右半量を患部へ擦入し翌朝石鹼浴に浴せしむ（疥癬）

○ 別刺敦那越機斯 Extract. Belladonnae.

【内服】 丸若は水劑として痙攣咳及遺尿症に用い又

甘草末 各一、〇
甘草葉 右丸二十粒となし
臨臥二丸を服す
（遺尿症）

苦扁桃水 一〇、〇
右每三時十乃至十五滴宛（痙攣咳）

○ ハマトーゲン Haematogenum.

佝僂病、腺病、一般の衰弱家に食慾を亢進せしむる強壯藥として食前一茶匙—一小兒匙を與ふ

○ 百布頓化汞 Hydrargyrum peptonatum.

梅毒に對し皮下注射として〇・〇〇一—〇・〇〇二を服用す本品は用に臨んで調製すべし陳久品は膿瘍形成の虞あり

○ 百布聖 pepsinum.

微細なる白色粉末にして百分の水に溶け透明の液をなす

【内服】 消化不良の際一日三—四回〇・〇六を食後直に服用せしむ其の良なるは鹽酸と配伍するに在

痙攣性便秘及痙攣の際餘り幼少ならざる者には本劑〇・〇五苦扁桃水二、五の合劑を一日二回五滴宛服用せしむ本劑の用量は一回〇・〇〇一—〇・〇〇四—〇・〇一一日三回とす其の年齢に對する極量左の如し

- 半歲 一日 〇・〇一
- 一歲 〇・〇一五
- 一歲半 〇・〇二
- 二歲 〇・〇二五
- 三歲 〇・〇三
- 五歲 〇・〇四

【外用】 には鎮痛の目的を以て軟膏（別刺敦那越機斯一、五水銀軟膏一〇、〇）として外用し或は坐藥として裏急後重に用う

【処方】

| | | | |
|------|-----|------|-----|
| ベラドン | 〇、一 | ベラドン | 〇、一 |
| ナ越機斯 | | ナ越機斯 | |

各論 ぶ之部

プラスモン、百露拔兒撒謨、別刺敦那越機斯、ハマトーゲン 三六

【処方】 百露拔兒撒謨 各一五、〇
酒精 各一五、〇
右綿帶用（例へば殺菌綿紗を浸して瘻管に送入するが如し）

処方

百布聖 一、五
 鹽酸 十滴
 餾水 各二五、〇
 單舎

右毎二時一茶匙宛(消化不良)

○百布聖酒 Vinum pepsini.

食後適宜の小量(若干滴若は茶匙)宛消化薬として用う

○百布頓 Peptonum.

本品は百布聖若は胨液素の補助に依りて蛋白質を人工的に消化せしめたる生産物にして吸収容易なるを以て名有り

○肉百布頓 Fleischpepton

本品は血液纖維素若は牛肉より製す

○サンデル氏百布頓 Sander's pepton は無脂の良牛

肉に胨液素を作用せしめて液化せしめたるものにして舍利別様の稠度を有し百瓦中大約五十五瓦の純百布頓を含有す

○ワイツテ氏百布頓 Witte's pepton は血液纖維素より製し黄色の靨を呈する乾燥粉末にして百瓦中六十乃至七十瓦の百布頓を含有す

「ワイツテ」氏舍利別様百布頓は前項の粒末品より多量の肉越機斯を含有し却て百布頓含有量は三倍少なく味も亦佳ならず

○コツホ氏百布頓 Koch's pept. は軟膠の稠度を有し二四%の百布頓一七%の蛋白を含有す(熱湯及食鹽を混じて沸騰する迄煮沸することを得るの利あり)

○ケムメリヒ氏製劑 Kemmerich's Präparat. は三七%の百布頓と一〇%の蛋白を含有す

外用 頑固なる嘔吐及嚔下不能なる者には滋養液腸として用う(一日三回一四回微)即ち幼兒に在り

五—六歳

四分の三食匙宛

七歳以上

一食匙宛

○ヘブラ氏ザマロン軟膏 Ung. diachylon Hebrae. s.

單鉛硬膏一分阿列布油一分より成る

濕潤性濕疹に貼するときは之を乾燥せしむるの功あり即ち麻布に攤し十二時間貼用の後先づ阿列布油或は華搦林を以て痂皮を除去し次に綠石鹼水を以て洗淨す可し

○ヘトロズルフオール一名奥太利イヒチオール Peetro sulfor, Yehhyolum austriacum.

含硫養兒より製したる硫酸安母紐膜にして黒色濃稠蜜透臭あり獨逸製「イヒチオール」よりも廉なり「イヒチオール」に代へて諸般の炎症に用う即ち或は一〇—一五%の軟膏となし或は虞里設林若は「ウアノーゲン」の混合劑となして用に供す

ては

乾燥百布頓 五、〇 餾水 五〇、〇

已に十歳に長したる小兒には一〇〇、〇・一〇〇、〇のものを用う

○マイル氏乾酪百布頓 Casein pepton von Weyl

は牛乳より製し肉越機斯を添加したる者にして六八%の百布頓を含有す

○ペローニン一名鹽酸ベンチールモルヒ子 Peronin, Salzsäure BenzyImorphin.

白色可溶性の粉末なり

○百日咳に對し患兒の年齢に相當する密里瓦を日量として用う

○ペルツツシン Perutussin

百日咳、喉頭加答兒、氣管枝加答兒に用う無害の藥物なり用量は左の如し

二歳以下 一日三—四回一茶匙宛
 三—四歳 半食匙宛

各論 へ之部

百布聖酒、百布頓、肉百布頓、サンデル氏百布頓、ワイツテ氏百布頓、コツホ氏百布頓、ケムメリヒ氏製劑、マイル氏乾酪百布頓、ペローニン、ペルツツシン、ヘブラ氏ザマロン軟膏、ヘトロズルフオール

ベトロズルフォール 四、〇

カゼイン軟膏 二〇、〇

右爲軟膏外用(諸般の炎症)

○ペグニン Pegnin.

胃液の酸酵素にして有力なる乳汁消化薬なり

本劑を牛乳に用うるには先づ牛乳を攝氏の三十五

六度に温め其の「リーテル」に「ペグニン」二〇、

〇を加へ放置するときは牛乳凝固するを以て強く

之を震盪して解凝せしめ之を小兒に飲ましむると

きは其の消化容易なりとす

○牡蠣殼 P. reparate Ansterschulen (Chonche pr. separate)

本品は炭酸及磷酸石灰を含有す

○木參兒 Pix liquida.

Abitineen の木を乾燥して製す就中白松 Pinus silvestri 及落葉松屬 Larix sibirica より得たるも

のを最良とす

○外用 慢性皮膚病殊に慢性濕疹に功あり但使用時

中毒即ち尿閉尿淋瀝、黑色尿、腎臟炎、播種等を

起すことあるを以て廣大なる皮膚面に用う可らず

殊に其剝脱せる時に於て然りとす

○處方

木參兒 一、〇

ラノリン 一〇、〇

右爲軟膏(慢性濕疹鱗屑疹)

○處方

木參兒 各一〇、〇

硫黃華 各一〇、〇

綠石鹼 一、〇

脂肪 一、〇

右爲軟膏入浴前塗布(痒疹)

○處方

木參兒 各一〇、〇

硫黃華 各一〇、〇

亞鉛華 一〇、〇

脂肪 三〇、〇

右塗布料(慢性濕疹)

○參兒水 Aqua picis.

○外用 百日咳(蒸餾水等分のもの)喀痰多量なる腐敗性氣管枝炎(參兒一分餾水三分)に吸入として用

○ポドフィリン Podophyllum.

「ポドフィリン、ペルターツム」根の酒精越機斯より水を以て分離したる「ポドフィリン」は黄色の粉末若は懸疎にして破壊し易き黄色或は褐色塊なりとす

○外用 緩下劑として加答兒性黄疸に丸劑或は葡萄酒水劑として幼兒には一日二回〇、〇〇三を年長小兒には〇、〇〇五を一日數回與ふ

本劑は英國及北米の醫師が賞用する處のものなり

○ポドロトキシム Podophylotoxinum.

ポドヒルム、ペルラーツム」の「クロロフォルム」越機斯にして緩下劑として内用に供す其の用量左の如し

各論 ぼ之部

ベグニン、牡蠣殼、木參兒、參兒水、ポドフィリン、トキシム、ホスチン、滿那、滿那舍利別

一歳 一回 〇、〇〇一—〇、〇〇二

二—四歳 〇、〇〇二—〇、〇〇四

五歳以上 〇、〇〇六—〇、〇〇八

○ホンチン Honjin.

單寧酸の亞爾蜜紐膜抱合物なり無臭無味鮮褐色の粉末にして亞爾加里及「アルコホール」に溶解す

○滿那 Mannn.

南伊太利及細矢利に生ずる滿那樹 Frixines Orch. の皮を切り滲出する液汁を乾燥したるものにして主成分は「マンニット」(六〇、—八〇)より成り糖及澱粉質を含有す

○緩下劑として一〇、〇—一五、〇を水劑となして與へ或は豌豆大を牛乳に加へて服さしむ

○滿那舍利別 Sirupus Mannae.

滿那一分水四分糖五分より成る

緩下劑として哺乳兒に茶匙宛與へ或は他の下劑の補藥とす

滿那會 各一〇、〇
大黃舍 右一日二—三回一茶匙(便秘)

滿那 一五、〇
茴香水 五〇、〇
安母尼亞 茴香水 (、五
右毎二時一小兒匙宛(咳嗽あり便秘する者)

○マルツ越機斯 Extract. Multi.

大麥芽越機斯を見よ

○温樟流動越機斯 Extract. Belae Liquid

「ベンガル」産「ペルー」より製したるものにして下痢及赤痢に内用す用量は合劑として一日三、〇—四、〇まで

○蜜爾拉丁幾 Tinct. Myrrae.

諸種の口腔炎及咽頭炎の際六—十滴を一硝子蓋の水に和して含嗽に供す

○綿馬越機斯 Extract. Ficus.
「エーテル」に由りて醇化せられたる綠色の液體にして一種不快の臭氣を有し水に溶くることなし
腸虫殊に條虫及十二指腸虫の驅除に用う是れ已に「マリニツス」氏 Plinius に由りて記述せられたる處なり本品は製劑新鮮なるときは驅虫の功確實にして諸多の驅虫藥中第一位を含む然れども近時本劑中毒の報告あり甚しきは死の轉歸を取れる者あり
「ヘー、フオン、ホフマン」氏 E. V. Hoffmann は維納醫學週報(千九百年第(二十六號))に於て中毒の一例を報告せり即ち五歳半の小兒に七、五の綿馬越機斯を三分して一時四十五分間に服用せしめしに嗜眠、搐搦、牙關緊急の症狀を呈し遂に死に歸せりと

本劑は上記の如き危險あるを以て其使用に際しては注意を忽にすべからず通常患兒の年齢八歳に至

りて初て一、五—三、〇を三分して與へ八歳以下に在りて柘榴根皮若は其の他の驅虫藥を應用すべし

柘榴根皮煎(三〇、〇) 一八〇、〇
綿馬越機斯 三〇、〇
橙皮舍 二〇、〇

右三分して毎三十分時服用(條虫)

「ヘルフェンベルグ」氏 Helfenberg 製藥所に於ては綿馬越機斯と「リチネ」油とを混合したる膠囊を製出す是れ其の胃に於て吸收せらるることなく腸に達して作用せしめんか爲なり此膠囊は八—十二歳の小兒に對し綿馬越機斯二、六六「リチネ」油五、三四含有するもの用いらる
「ゲンフ」Genf の「メシール」氏 Peschier 丸は「ロシム」Kosin と綿馬越機斯とを含有するものなり
○メール越機斯(乾性) Mellifrut. (trocken)

各論 各之部 マルツ越機斯、温樟流動越機斯、蜜爾拉丁幾、綿馬越機斯、メチール青、明礬

小麥粉或は豆粉の越機斯にして功力ある營養品として本品一食匙を牛乳十八食匙に代用す
○メチール青 Metylechblau.
本品は糖尿病、精系神經痛、假面麻拉里亞等に用いるる用量は〇、〇〇—〇、〇一を一日數回とす

○明礬 Alumina, Kal-Alum.
無色透明堅き八面形結晶にして一〇、五分の水に溶解し酒精に溶解せず味は甘くして強く收斂す

外用 〇、五—一、〇%の溶液として腎出血及慢性腸加答兒に用う但容易く胃障害を喚起す
外用 「アプトイス」氏 Aptaes は收斂藥として含嗽(三、〇—二〇、〇)に賞用せり(但腫痛には害あり用ゆ可らず)此他或は吸入藥とし或は滴劑となし或は瀉胞性腸炎に洗腸藥となし又腫注入藥となし若は止血藥として水蛭の吸噬口へ撒布す

明礬 一〇、〇—明礬 六、〇

簡水 三〇〇、〇
右含嗽料(口内炎)

簡水 一〇〇、〇
右注入藥(白苔下)

處方

處方

明礬 五、〇
簡水 一〇〇、〇
右滴劑若は洗滌劑
(耳漏)

明礬 一五、〇
右撒布料(直腸脱
及痔瘻瘻)

(耳漏)

處方

明礬一刀尖乃至半—
一茶匙を半律堙兒の
水に溶し海綿或は洗
球子を以て鼻腔に注
入す(鼻出血鼻潰瘍
若は鼻加答兒)

處方

蒺藜巴根 各〇、〇五
大黃末 〇、三
白糖 〇、三

右爲一包毎二時一包宛奏功あるに至る(腦
充血及高度の便秘)

○没食子丁幾 Tinct Gallorum.
沃度丁幾の稀釋液として外用に供す
○耶僕蘭日舍利別 Sirupus Jaborandi.
發汗劑として一日一乃至二茶匙痒疹に用う

○藥用加里石鹼一名綠石鹼 Sapo katum Venalis,
Sapo Viridis.
不純の脂肪と加里滴汁とより製す

皮膚の上皮を軟化し藥物の滲入を容易ならしむる
を以て諸種の皮膚病に用いて功あり但本劑の塗擦
は一定の法式に從て施行せざる可らず
○藥用石鹼 Sapo medicatus.
硬き那度倫石鹼にして丸藥の總劑に用う
○藥湯 Balnea medicata.
浴の水量は五〇—一五〇里堙兒とす
浴の種類と溫度は左の如し

- 寒浴 Kulte Bäder 攝氏二〇—三〇度(列氏六—六度)
- 冷浴 Kühle" 二〇—三〇(同 一六—三三)
- 微溫浴 Laune" 二七—三三(同 三三—三三)
- 溫浴 Wärme" 三三—四〇(同 三三—三三)
- 熱浴 Heisse" 四〇—四度以上(同 三三—三三)

(一)芳香浴 Aromatische Bäder.
通常の浴水中に加密爾列花、泥菖根、「マシヨ
ル」草、薄荷葉二〇〇、〇を數里堙兒の水に浸出
したる液若は泥菖根精、白芷「セルフィリー」

各論 や之部

没食子丁幾、
石鹼 藥湯

耶僕蘭日舍利別、蒺藜巴根、藥用加里石鹼、藥用

二三

より成る液の五〇、〇を注加したるものとす
適應症は萎縮、小兒背髓麻痺、初生兒黃疸、初
生兒硬結の諸症とす

(二) 檫皮浴 Eichenrinden Bäder.
檫皮煎汁(檫皮一二五、〇を四里堙兒の水に)或
は單寧酸五〇、〇を加へたるものとす初生兒天
疱瘡の際一日二—三回毎浴十分時宛入浴(浴溫
は列氏二十八度)せしめ患兒の皮膚未だ乾燥せ
ざる前早く綿花堆裡に收容し乾燥後粉末を撒布
す

(三) 鐵浴 Eisenbäder.
乾燥硫酸鐵二〇—二五〇、〇を散となし或は白
陶土と共に塊となし浴水中に投じたるものなり
萎黃病、佝僂病性貧血の小兒に適す

(四) 糠浴 Kleinbäder.
一—三磅の小麥糠を亞麻布囊に充し四里堙兒の
水に煎出し其の煎汁を浴水に加へたるものとす

濕爛、天疱瘡、苔蘚、濕疹に適す

(五) 膠浴 Leimbäder.

動物性膠質九分の一磅を沸湯に溶解して浴水中に投したる者とす

天疱瘡及濕爛に用う

(六) 麥芽浴 Malzbäder.

一—三磅の大麥芽を一、二里埋兒の水と三十分時煮沸して浴水中に投す又之に代へて麥芽越機斯四分の一磅を用うるも可なり

佝僂病及聲門痙攣に用う可し

(七) 沼泥浴 Moorbäder.

沼泥を浴中に混したるものとす

沼泥は鑽性水の影響に由りて化成したる植物性有機質の變形産物として數種あり(a)含鹽沼泥の *minische moor* 主として硫酸亞爾加里及泥土に富むもの(b)含鐵沼泥 *Eisenmoor* 多く硫酸々々化鐵を含有す(c)硫酸沼泥 *Schwefelmoor* 硫酸及硫

體を纏包して一—二時間砂浴中に横はらしむるものとす而して之に由りて平均一基瓦の水分蒸發す此浴法は猩紅熱患者の浮腫には慎重の注意を以て施す可し

(十) 硫黃浴 Schwefelbäder

硫化加里二〇—三〇、〇を一浴中に加へたるものなり若し皮膚の強刺激を必要とする場合には尙ほ四分の一磅を追加すべし

此浴を作るには豫め熱湯に溶したる膠質を浴水中に加へ置く可し又浴槽には鑽製桶を使用すべからず然して又浴後昇汞の使用を禁すべし是れ硫化汞の形成に由りて皮色黝黒に變するが故なり、一癩麻疹、痒疹、鉛毒及腺病性濕疹に適す

(十一) 石鹼浴 Seifenbäder.

一浴水中に加里石鹼、家用石鹼若は芳香石鹼の四分の一磅を加へたるものとす痒疹、苔蘚、慢性濕疹に用う

各論 や之部 藥湯

化水素に富むもの等は是れなり此浴を製するには三〇—四〇磅の沼泥を要す

佝僂病、腺病に適し又運動障害療法の補助として用う可し

(八) 沼泥鹽浴 Moor-salz bäder.

沼泥の浸出及越機斯分の蒸發に由りて製せる者にして沼泥中に含有する鹽分全部を有す此鹽分は結晶形に於て析出す

今此鹽を用いて浴を作らんとするには其の二五—三〇、〇を一浴中に投すべし(三週)

佝僂病、腺病、顔色憔悴形容枯槁せる小兒の下痢に適應す

(九) 砂浴 Sandbäder.

熱砂浴は「リール・マル・マイステル」氏 *Liebermeister* 及「チームセン」氏 *Ziemsse* が慢性肺雷篤病及心臟病者の浮腫排除に賞用せる所のものにして浴の温度は攝氏五〇度、浴の方法は身

(十二) 芥子浴 Senfbäder

芥子末五〇、〇を食巾 *Serviette* に包み冷水に浸して浴水中に絞搾し黄色液の流出せざるに至れるものとす

入浴の時間は五分間とす此浴は著しく亢奮の功を有すれども皮膚潮紅するに至るには屢々反覆せざる可らず而して其の浴中に於て皮膚の潮紅する間は患者尙ほ快復の望ある者とす

初生兒虎列拉に賞用す

(十三) 鹽浴 Soolbäder.

食鹽一—五磅に通常母滴汁半里埋兒若は母滴鹽半—一磅を添加し一浴水に溶したるものとす

浴は毎週三回新に作る可し浴温は壯年者には列氏二七—二八度入浴時間は十分間なるを可とし老年者には二六—二七度十五分—二十分なるを其とす虚弱家には初め隔日に浴を取らしめ後には三—四日の間歇を以て入浴せしむ可し入浴時

臨床兒科醫典

期の尤良なるは朝間とす

腺病、尙僕病、聲門痙攣、小兒麻痺に適す

(十三) 母滴浴 Mutterlaugen bader.

浴水中に母滴鹽を溶解せしめたるものにして母滴鹽四分の一基瓦は一里塚兒の母滴汁に適應す本浴の適應症は鹽浴に同じ

「チムツ」氏 Zintz 及「ノーリヒ」氏 Rohrig の

試験に由りて含鹽藥湯は酸素の消費及炭酸化合物の形成を増進し以て慢性に蓄積したる體內病的産物を急劇に退却せしむることを證明せられたり

(十四) 昇汞浴 Sublimatbader.

昇汞〇・五を一浴水に加へて一週二—三回入浴せしむ

先天性梅毒、進行性萎縮、嘔吐及下痢の内服藥を用うるに能はざる症に應用す但氣管枝炎を伴ふものには禁忌とす

(十六) 粘土浴 Thonbader

白粘土五〇〇—一〇〇〇を一浴中に投したるもの濕爛に用うべし

(十七) 胡桃葉浴 Wallnussblätterbader.

胡桃葉三分の一—二磅を浴湯に投したるものにして腺病及初生兒天疱瘡に用う

○ 沃度仿膜 Jodform.

小にして光輝を放ち脂肪嫩感を有する葉狀若は板狀或は微細なる結晶糠粉末にして杓糠糠黃色を呈し蠶透性消美蘭標臭氣を有す殆んど水に溶解せず五十倍の冷酒精、約十倍の熱酒精、五、二倍の「エーテル」に溶解す

外用 治創藥として諸般の炎症及創傷に用う但中毒症狀に至大の注意を要す此點に關しては「ヨドール」遙に本品より優れりとす

腐敗性潰瘍に本劑を用うるときは只薄く撒布し夾して廣大なる創面に用う可らず

して腺疾患に用ふ
「リンダネル」氏
(Tinet)

○ 沃度 Jodium

黒褐色蠟性光輝を有する菱形板狀若は薄片結晶にして薑花標蒸氣を發し十倍の酒精に溶解す本劑は海藻より製出せらる

外用 多くは沃度加里と共に軟膏となし腺腫に用う

| | | | |
|-----------|------|--------------------|------|
| 沃度 | 一、〇 | 沃度 | 〇、〇五 |
| 沃度加里 | 三、〇 | 沃度加里 | 一、〇 |
| 華攝林 | 四〇、〇 | 華攝林 | 二五、〇 |
| 右爲軟膏(腺腫大) | | 右爲軟膏(腺腫大、 甲狀腺腫) | |

○ 沃度丁幾 Tinet jodi.

急性症狀の緩解したる結核性腦底腦膜炎、腦脊髓膜炎には毛髮を剃去したる頭蓋に沃度仿膜脂軟膏(一：一〇)を擦入し腺腫瘍には格魯胃膜劑(三：四〇)として塗布す

○ 沃度兒 Jodolum (Tetrjodopyrrol).

褐色にして臭味なく水に溶解せず「アルコホール」及「エーテル」に溶解する粉末にして八八—九七%の沃度を含有す

本品は沃度仿膜の如く創傷に用いらる其の彼よりも優れるは臭氣なきと無害なるに在り而して本品は排泄液と共に小痂を形成す

| | | | |
|----------------|------|----------|------|
| 沃度兒 | 二、〇 | 沃度兒 | 一〇、〇 |
| 純沃度 | 〇、二 | 右撒布料(濕爛) | |
| 酒精 | 五〇、〇 | | |
| 右塗布料(沃度丁幾の代用と) | | | |

各論 下之部 沃度仿膜、沃度兒、沃度、沃度丁幾

沃度一分酒精十分より成る

肥胖せる腺病患者に稀に用う

沃度丁幾 一―三滴

肝油 五〇、〇

右一日二回一小兒匙宛

淋巴腺腫大、腦水腫等に塗布劑として用い
又關節痲質斯、肋膜炎等に際し誘導の目的を以
て塗布することあり

本品は或は單純に或は五倍子丁幾と等分に稀釋し
たる者を用う稀には沃度丁幾塗布後に蛋白尿を發
するこあるを以て注意すべし

沃度丁幾 各一〇、〇

五倍子丁幾 各一〇、〇

右塗布料(腺腫大、腦水腫、畢
丸炎、慢性腦膜炎)

沃度鐵舍利別 *Girap. Ferri Jodati.*

多くは無色なれとも往々微黄色を呈する液體にし
て其の百分中五分の沃度鐵を含有す

腺病の各症に用う「ヤコビ」氏 *Jacobi* は
小兒の月齡に相當したる滴數を使用せり本劑は容
易く腸加答兒を起すを以て注意すべし

沃度鐵舍 一〇、〇 沃度鐵舍 一〇、〇

右一日三回八―十 單 舍 三〇、〇

滴宛(腺病) 右一日三回半乃至
一茶匙宛(腺病)

含糖沃度鐵 *Ferrum jodatum Saccharum.*
帶灰黄白色の粉末なり

「モンチー」氏 *Monchi* は初生兒の先天梅毒
に用い月餘持續したるにも拘らず沃度中毒の症狀
を見ざりしと云ふ

本劑を以てする驅敵療法は水銀療法の如く快速の
功を收むる能はずと雖貧血及瀉瘦を起さざる利益

を有す

本劑の用量用法は左の如し(「モンチー」氏)生後三ヶ
月以内の小兒には〇、二を十分したるものを次の
如く與ふ即ち初生兒には其の二―三包を牛乳に溶
して日量とし六週―十二週の者には其の四―六包
を與へ三ヶ月―一歳の小兒には〇、三―〇、四を十
分して一日其の三―四包一―三歳の小兒には日量
〇、三―〇、四を用う

沃度加留母 *Kalium Jodatium.*

鋭き鹹味と苦き後味を有する白色骰子形結晶にし
て〇、七五分の水及十二分の「アルコール」に溶
解す

外用 には沃度と伍して軟膏とす

水劑(一―一〇〇、〇を一日二―三回一小兒
匙宛服さしむ沃度加里は等量の重碳酸那度留母と
伍して用うるを可とす)として腺及骨の梅毒性疾
患、腺病、慢性關節痲質斯、實扶的里性炎(毎二

各論 下之部 沃度鐵舍利別、含糖沃度鐵、沃度加留母

時―四時一食匙宛)粘稠なる喀痰及呼吸音を有す
る喘息性氣管枝炎、氣管枝喘息、單純腦膜炎(急性
過後)水銀療法の適應せざる腦底腦膜炎等に用う
沃度加里は青酸製劑(苦扁桃水)と同時に使用すべから
ず是れ體內に於て青酸加里、游離沃度及青酸を生
成するの危險あればなり

沃度加里 一、〇 沃度加里 一、〇

縮水 一〇〇、〇 吐根浸(〇、三) 二〇〇

メンダ水 一〇、〇 單 舍 一〇、〇

右一日三回一小兒 右一日三回一小兒

匙宛(氣管枝喘息、 匙宛(粘稠なる喀

腺病、慢性關節痲 痰及呼吸音を有す

質斯、纖維性氣 痰及呼吸音を有す

管枝炎、梅毒、結 痰及呼吸音を有す

核性腦底腦膜炎) 痰及呼吸音を有す

沃度加里 五、〇

| | | | |
|---------|-------|-----------|-------|
| 沃度 | 〇、〇三 | 硫酸鐵 | 一、三 |
| 沃度加里 | 一、〇 | 單 舍 | 二〇〇、〇 |
| 飽 水 | 一〇〇、〇 | 右一日二回半茶匙 | |
| メント水 | 二〇、〇 | 乃至半食匙(虚弱 | |
| 右一日三—四回 | | なる小兒の梅毒症 | |
| 小兒匙宛(腺病 | | 「フオーゲル」 | |
| ヘンツホ氏) | | 「ヤント」氏 | |
| | | 「Gel-Bie- | |
| | | tert.) | |

沃度 ヲアゾーゲン Jod-Yasogen.

「フオーゲル」に沃度を和したるものなり

腺病、梅毒、慢性肋膜炎、氣管枝炎等に六—十八%の「フオーゾーゲン」を一日三回二—十滴宛牛乳、茶、珈琲に和して用う

外用 前記の諸症に用うるのみならず副腎丸炎、乳房炎等にも亦功あり

ヨド—ン Jodol.

沃度の蛋白製劑にして無臭無味帶黄色の粉末なり

ヨードフォルモリン Jodformolin.

沃度の蛋白抱合體にして臭氣なく鮮黄色鬆疎の粉末なり

「ヨド—ン」と共に防腐藥として諸種の創面に用うべし

ヨードガリチン Jodgalicin.

暗灰色の粉末にして「ガリチン」に沃度化着鉛を作用せしめて製したるものとす

ヨザリン Jodylin.

鮮灰色の粉末にして僅に沃度臭を放つ「ヨードガリチン」と共に沃度仿誤の代用防腐藥として諸般の創面に撒布すべし

刺納林 Lanolin.

綿羊の精製脂肪を名つけしものにして白色無臭中性の反應を呈し軟膏様の稠度を有し自己固有の重量よりも多量の水を受容す

化學上より之を見れば「ラノリン」は炭里設林抱合

物にあらず脂酸化化合物にして脂酸、脂肪、「イソコレステアリン」の抱合物なりとす「ラノリン」を蒸氣浴中に温むるときは水分を放出して其の表面は無水「ラノリン」を生成す

「ラノリン」の藥用として優勝なる點は(一)混合藥物を自己と共に早く皮膚より吸收せしむると(二)自己容量一〇〇%以上の水を受容して腐敗せざるに在り是を以て「ラノリン」は軟膏の原料として第一位を占め濕疹、頭部皮脂漏、水泡疹、鱗屑疹、紅斑、濕爛、濕風、痒感甚しき蕁麻疹(糊布膏と)等に外用す

「ラノリン」は又小有機體の皮膚竅入を妨碍す「ローゼンバツ」氏 Rosenbach は瘰癧の豫防的塗擦に用いて功ありしと云ふ

各論 ち之部 ラヒトール

| | | | |
|------|------|-------|------|
| 酸化亞鉛 | 〇、五 | 次硝酸蒼鉛 | 〇、一 |
| ラノリン | 二〇、〇 | ラノリン | 二〇、〇 |

處方

處方

右爲軟膏(濕疹)

| | |
|----------|------|
| 硼酸 | 〇、五 |
| ラノリン | 五〇、〇 |
| ワセリン | 一〇、〇 |
| 右爲軟膏(濕爛) | |

右爲軟膏(濕疹)

| | |
|--------------|------|
| 糊布兒油 | 二、〇 |
| ラノリン | 二〇、〇 |
| 右爲軟膏(凍傷、蕁麻疹) | |

處方

| | |
|----------|------|
| 撒里失兒酸 | 一、〇 |
| 亞鉛花 | 五、〇 |
| ラノリン | 三〇、〇 |
| 右爲軟膏(濕疹) | |

ラヒトール Rahtol

副腎の有功成分なり「ウエ、ステルツネル」氏 W. Stoeltzner に從へば佝僂病に卓効ありと云ふ
用量及用法 副腎實質の〇、〇五を錠劑とし直接に患兒の口中に致すべし本劑は空腹時に與ふ可らず

臨床兒科醫典

用量は患兒の體重に從て斟酌するを要す即ち左の如し

| 體重 | 服藥第一週に用ゆる錠劑の箇數日量 | 第二週以後に用ゆる錠劑の箇數日量 |
|-------|------------------|------------------|
| 五基瓦以下 | 一 | 二 |
| 五基瓦 | 二 | 二—三 |
| 六同 | 二 | 三 |
| 七同 | 二 | 三—四 |
| 八同 | 三 | 四 |
| 九同 | 三 | 四—五 |
| 十同 | 三 | 五 |
| 十基瓦以上 | 四 | 五—六 |

○刺答尼亞丁幾 T. Ratanhia.

刺答尼亞根一分酒精一分より成る

〔内用〕 には收斂藥として腸加答兒に用う但胃障害の存在せざる症なるを要す

用量は年齢の多少に從ひ一回二—五—一〇滴を與ふべし

〔外用〕 には收斂藥として口内炎に用ふ

〔處方〕

- ラタニア丁幾 各五、〇
- 泥莖根丁幾 各五、〇
- 阿仙藥丁幾
- 右齒齦塗布(口内炎)
- ラルギン Largin.

植物蛋白と銀との化合物にして灰白色の粉末をなし十分の水に溶解し殺菌力強く蛋白に遇ふて不溶解物を形成することなし〇、五%—一%の液となし淋疾、膿漏眼及慢性顆粒性結膜炎に外用す

○磷酸 Acidum Phosphoricum.

強き酸味を有する無臭無臭透明の液體なり

〔内用〕 清涼劑として有熱患者に與ふ

〔處方〕

〔内用〕 二—一〇%の液となし毎二時一小時宛緩下劑として用ラ「ステフエンソン氏 Stevenson は乳兒の腸加答兒に際し小量(〇、二—〇、六)宛牛乳と共に與ふることを推奨せり

○磷 Phosphorus.

白色或は黄色にして蠟燭光輝を有する透明の塊なり

〔内用〕 佝僂病に著功あるを以て特效藥の名あり用量は一回〇、〇〇〇—一五、日量〇、〇〇〇五を肝油或は「リズニン」に混し注意して與ふべし

本品を持長するときは副作用として下顎部の腫脹、下顎骨々膜炎、手、大腿及下腿の軟骨增生に因する劇痛を起すことあり

〔處方〕

- 磷 〇、〇一
 - 肝油 一〇〇、〇
- 右一日二回一茶匙宛但用時震盪す可し(佝)

燐酸 一、〇

餛水 一八〇、〇

杓絲會 二〇〇、〇

右毎二時一小時宛(有熱患者に與ふ)

○磷酸 コデイン Codeinum Phosphoricum.

白色苦味を有する細微の針狀結晶にして水には容易く溶解するも「アルコホール」には溶解し難し

〔内用〕 鎮靜藥として散劑或は水劑の形態に於て氣管枝炎に一日數次左の量を與ふ

- 極めて幼き小兒 〇、〇〇〇一—〇、〇〇〇五
- 四歳 〇、〇〇二
- 五歳 〇、〇〇二五

「コデイン」は「モルヒネ」に反し便秘を起すことなし

○磷酸那度留母 Natrium phosphoricum.

弱鹹味を有する無色の結晶にして五、八倍の水に溶解す

各論 リ之部

刺答尼亞丁幾、ラルギン、磷酸、磷酸コデイン、磷酸那度

(瘖病)

○ 磷酸加爾基 Calcium Phosphoricum.

水に溶解せず無機酸中に溶解する白色の粉末にして「ツザルト」氏 Duart の試験に由れば本品は只骨系統形成のみならず又筋及腱の形成に至大の關係あり故に

内服 として尙瘖病の衛生的及營養的療法之補藥として用いられ又胃の過敏症を有する消化障害に卓効ありとして賞用せらる

處方

- 磷酸加爾基 各三、〇
- 炭酸加爾基 四、〇
- 乳糖

右散となし一日三回一乃至二尖宛食餌中に服用 (尙瘖病)

○ 硫酸亞篤魯比涅 Atropinum Sulfuricum.

苦味を有する結晶様粉末にして白色を呈し容易く

冷水二十五分の温水六分の熱酒精に溶解し一二滴の硫酸注加に由りて容易く溶解す應用及用量鹽規に同じ

硫酸「キニーネ」を用うるに當りては沃度加里の同時内服を禁ずべし是れ沃度の游離に由りて胃腸の重劇なる副作用及一般障害を喚起すればなり

○ 硫酸銅 Cuprum Sulfuric.

青色透明の結晶にして三、五分の冷水一分の熱水に溶解し「アルコホール」に溶解せず

内服 吐劑(吐劑の條を見よ)及解毒劑として瘖中毒に用う

外用 には一定型の結膜炎(トヲホ)口内炎亞布答性潰瘍に塗布す

處方

- 硫酸銅 〇、五
- 鹽水 二〇、〇
- 右塗布料(口内炎及阿布答性潰瘍)

各論 リ之部

磷酸加爾基、硫酸亞篤魯比涅、硫酸規尼涅、硫酸銅、硫酸麻僞涅叟母、硫酸スバルティン

水及酒精に溶解す

内服 乳兒に本劑を用うるときは先づ〇、〇〇〇〇五より初め年齢の増すに従ひ〇、〇〇〇一五に上るべし(ビンツ氏 Binz)

母氏に「アトロヒネ」を與へ乳兒に危險を將來したる實驗あり是れ本品は獨り腎臟に由りて排泄せらるるのみならず阿片製劑の如く又乳腺より排泄せらるるを以てなり又點眼の際「アトロヒネ」の一部は鼻咽腔に達するのみならず涙液と共に頰部を越へて口腔に達するを以て注意すべし

處方

- 硫酸アトロヒネ 〇、〇五
- 鹽水 一〇、〇

右一二滴點眼(中毒症狀に注意せよ)(瞳孔散大の目的に用ふ)

○ 硫酸規尼涅 Chinin Sulfuric.

苦味を有する白色微細の結晶にして大約八百分の

○ 硫酸麻僞涅叟母(無水) Magnesium Sulfuricum Siccus.

白色緻密容易く水に溶解する粉末なり

内服 緩下劑として五—十二歳の小兒には八一—二、〇を一酒盞の「セルテル」水に溶して與ふ

○ 硫酸スバルティン Spartanium Sulfuricum.

無色にして容易く水に溶解する結晶なり

内服 利尿藥として心臓疾患に用う用量六歳の小兒に在りては〇、〇二を毎四時に十三歳の小兒には〇、〇六を毎二時に與ふ

本劑は毫も蓄積作用なく有害なる副作用を起すこと稀なるも其の功力長く持続せず且「サキタリス」より弱し然れども本劑の推奨せらるる所以は其奏功の神速なるに在り此の故に本劑は心臓疾患の危険症狀頓發せるものに賞用すべし

處方

- 硫酸スバルティン 〇、二

二〇

單舎

一〇〇、〇

右一日一回一小兒匙宛水に和して用う(心臟性水腫)

○硫酸タルリン Thallinum Sulfuricum.

白色の粉末にして七分の冷水〇、五分の沸騰水に溶解す

〔内服〕 下熱劑として殊に腸壁扶斯に賞用せらる
用量は一回量左の如し

三—四歳

〇、〇一

五—十歳

〇、〇二

十一—十五歳

〇、〇三—〇、〇五

本劑は腎臟炎及心臟瓣膜病ある者には禁忌とす

本劑は副作用として長く持續する發汗、心臟衰弱

及下痢を發することあり「タルリン」を服用せしめ

たる時は其の體温は毎二時に檢測するを要す

○硫酸亞鉛 Zinci Sulfuricum.

無色の結晶にして容易く水に溶解す

〔外用〕 收斂劑として〇、〇五・〇、一—二五、〇の液を結膜炎に點眼し〇、五%液を白苔下の洗注に用い〇、一%液を膿泡性腸炎に灌腸となす此他悪性猩紅熱の鼻洗滌藥には一%液を用い口内炎には五%、咽頭阿布答には一〇%液を塗布料となす

○栗實流動越機斯 Ext. Castaneae Vescae liquidum

食用に供する栗實より抽出したるものにして内用

には稀釋せざるものを半—一茶匙宛一日數回疫咳

に用う(六歳の小兒)

「フライシマン」氏 Fleischmann に從へば本品

の有功なるは組織を強壯にすると收縮する性質と

に基因すと本品を疫咳に用うるに其初期に在りて

は何等の功あるを見ずと雖瘧疾期に於て若し肺炎

其の他の合併症存在せざるときは屢々發作の急速

なる緩解を來す(「コルヴァツェ」氏 Korvatsch)

○リピン Lipanin.

九十四分の阿列布油と六分の純油酸の混合物にし

ものにして通下の功あり

〔内服〕 「リチネ」油の下劑として卓越せる點は如何

なる病症にも使用し得而も炎症ある腸管に之を用

うるも蠕縮を起すことなきに在り

本劑の適應症は腸管の異物及不消化なる糜粥の排

除とす而して又赤痢の初期にも用いらる

用法の最簡便なるは五—一五、〇の本劑を麥酒の

泡沫に包裹して服せしむるに在り

〔外用〕 浣腸藥として護膜漿及卵黃と混し用うる、

とあり

〔處方〕

リチネ油

八、〇

亞拉比亞護膜

三、〇

餡水適宜八〇、〇の乳劑とし

白糖

一〇、〇

右毎二時一茶匙—一小兒匙宛(赤痢)

○レンルチン Resorcinum.

て肝油の代用として食後日量三—四茶匙腺病及佝僂病に用う

本品は夏日と雖内用を持續せしめ得るの利あり

〔處方〕

リベニン 三〇、〇

糖 〇、〇一

白糖 各一五、〇

アラビア黒胡椒 各一五、〇

餡水 四〇、〇

右毎日一—二茶匙宛(腺病)

「ホイゼル」氏 Hoiser は本品を三十八人の小兒に

試み好成績を得たりと云ふ蓋し本品は好んで小兒

に攝取せらるる長所を有するのみならず又能く吸

收せらるる是れ糞尿の化學的檢査に由りて證明せら

れたる處なりとす

○リチネ油 Ol. Ricini.

「リチネ、コムムニス」の皮殻を去り壓搾し得たる

各論 リチネ部

硫酸タルリン、硫酸亞鉛、

栗實流動越機斯、リベニン、

無色の結晶にして容易く水に溶解す

内服 胃腸の異常酸酵症、腸結核、驚口瘡、吐瀉症に日量〇、一—〇、五を與ふ

又本劑を解熱藥として用うる人ありと雖屢々眩暈、耳鳴及虚脱を起すことあるを以て賞用すべからず

外用 初生兒膿漏眼の豫防として二%液を點眼し又百日咳(一—二%液)及實扶的里(一、〇を「グリ〇」に)には塗布料とし臭鼻瘡には洗滌料(二%液)となす

處方

レゾルチン 〇、五
餵水 一〇〇、〇

右毎二時一小兒匙
宛(驚口瘡、吐瀉

處方

レゾルチン 〇、一
薄荷葉浸(三、〇) 六〇、〇

單舎 一五、〇
右毎二時一茶匙宛
(初生兒虎列拉)

レゾルチン 三〇、〇
酸化亞鉛 各二〇、〇
澱粉

右華搦林を以て泥
一〇〇、〇となし
外用(皮膚結核及
侵蝕性潰瘍)

○レザルドール Resaldol.

「レゾルチン」と「ザリフォルミン」との抱合體にして黃褐色無形無味の粉末なり水及稀酸類に溶解せず亞爾加里液に溶解す

内服 防腐收斂の功あるを以て諸種の下痢性疾患に用うべし用量は一四〇、〇三—一〇、一—〇、三を一日數回與ふ

○ロホリン Roborin.

牛血より製したる含鐵蛋白製劑にして蛋白八〇%を含む黒色粒狀の粉末にして殆んど臭味なし

内服 貧血及衰弱家に用う用量は〇、二—〇、五—一、〇となす

○ロホラート Roborat.

穀物より製したる植物蛋白にして白色可溶性の粉末なり

内服 極めて消化し易き營養品にして蜜尿病患者に適す用量は三—五茶匙とす

○黄色沃度化汞又第二沃度化汞 Hydrargyr. iodatum, Protioduretum Hydrargyri.

黄色の粉末にして水には極めて僅に溶解す

内服 初生兒の先天梅毒に際し〇、〇一—〇、〇一五を一日二—三回乳酸鐵〇、〇二に加して用う

本劑は初生兒梅毒の骨疾患ある者に與へて功あり

外用 には十倍の華搦林軟膏となし梅毒性潰瘍、皮疹及腺腫に塗布す

○黄色酸化汞一名黄降汞 Hydrargyri Oxydatum. 黄色無結晶の粉末にして水及酒精に溶解せず

各論 わ之部 ロホラート、黄色沃度化汞、黄色酸化汞

内服 には供することなし本劑は無結晶なるを以て赤降汞よりも軟膏として用うるに適す

外用 眼軟膏として「バンマス」「フリクテン」、慢性眼瞼縁炎等に用う

處方

黄降汞 〇、一
華搦林 八、〇

右爲軟膏一日一回眼内擦入(「フリクテン」)又梅毒に對し黄降汞華搦林(一・二〇のもの)を筋肉内に注射す其の奏功迅速にして注入部の反應なきを以て賞用する者あり

第三篇

内服薬ノ用量一覽

一、此表ノ用量ハ只其一班ヲ示セルニ過ギザルヲ以テ病性、病期ハ勿論患兒ノ體質、體格、榮養及習慣等ニ顧慮シ宜シク斟酌ヲ加フ可シ

二、備考欄中特ニ何等ノ記載ナキモノハ一回量ヲ指示セルモノトス

— 154 —

| 薬名 | 年齢 | 一年未滿 | 一年乃至五年 | 六年乃至十年 | 十年以上 | 備考 |
|-------------|----|-----------|--------|---------|-------|-------|
| 單阿片丁幾 | | 0.01-0.03 | 0.05 | 0.1-0.2 | 0.3 | 日量 |
| 安智歌武林 | | 0.05 | 0.1 | 0.2 | 0.3 | 日量 |
| 安知必林 | | 0.05 | 0.1 | 0.2 | 0.4 | 日量 |
| 安息香酸那度留母咖啡涅 | | 0.001 | 0.002 | 0.004 | 0.008 | 日量 |
| 安息香酸水銀 | | 0.001 | 0.002 | 0.004 | 0.008 | 皮下注射用 |
| 亞砒酸加里水 | | 0.005 | 0.01 | 0.02 | 0.04 | |
| アツエトヒリン | | 0.005 | 0.01 | 0.02 | 0.04 | |
| アスピリン | | 0.005 | 0.01 | 0.02 | 0.04 | |
| アナルゲン | | 0.005 | 0.01 | 0.02 | 0.04 | |

— 155 —

| 内服薬ノ用量一覽 | 年齢 | 一年未滿 | 一年乃至五年 | 六年乃至十年 | 十年以上 | 備考 |
|--------------|----|--------|--------|--------|-------|-----------|
| イタリヤアトレンナリン液 | | 0.0005 | 0.001 | 0.002 | 0.004 | |
| 伊比知央兒加爾叟母 | | 0.1 | 0.2 | 0.4 | 0.8 | |
| イヒタルビン | | 0.1 | 0.2 | 0.4 | 0.8 | |
| イヒトフオホルム | | 0.1 | 0.2 | 0.4 | 0.8 | |
| ウレタ | | 0.0005 | 0.001 | 0.002 | 0.004 | 頓服催眠 |
| 鹽酸アボモルヒネ | | 0.0005 | 0.001 | 0.002 | 0.004 | 吐劑として皮下注射 |
| 鹽酸規尼涅 | | 0.0005 | 0.001 | 0.002 | 0.004 | 祛痰劑として内服 |
| 鹽酸ヒロカルビン | | 0.0005 | 0.001 | 0.002 | 0.004 | |
| 鹽酸モルヒネ | | 0.0005 | 0.001 | 0.002 | 0.004 | |
| 鹽酸ヘロイン | | 0.0005 | 0.001 | 0.002 | 0.004 | |
| エウピリン | | 0.0005 | 0.001 | 0.002 | 0.004 | |
| エルゴチノール | | 一滴 | 二滴 | 五滴 | 十滴 | |
| オイラクトール | | 一滴 | 二滴 | 五滴 | 十滴 | |
| オルフオール | | 0.001 | 0.002 | 0.004 | 0.008 | |
| 加麻里篤 | | 0.001 | 0.002 | 0.004 | 0.008 | |
| 羯布兒 | | 0.005 | 0.01 | 0.02 | 0.04 | |

| | | | | | |
|------------|-------|-------|--------|--------|-----------|
| 甘 | 0.01 | 0.02 | 0.03 | 0.05 | 緩下劑 |
| 海葱 | 0.001 | 0.002 | 0.005 | 0.01 | 利尿劑(毎時連服) |
| 海葱 | 二—五茶匙 | 六—七茶匙 | 日量(鎮咳) | 吐劑 | |
| キセロフホルム | 0.02 | 0.05 | 0.1 | 0.2 | |
| 苦扁桃 | 一—二滴 | 二—四滴 | 五—十滴 | 十一—十五滴 | |
| 炭酸クアヤコール | 1.0 | 0.01 | 0.05 | 0.1 | 日量 |
| 格魯兒酸加里 | 0.05 | 0.1 | 0.5 | 1.0 | 日量 |
| クレオゾタール | 0.01 | 0.02 | 0.05 | 0.1 | |
| 苦扁桃酸アンチピリン | 0.1 | 0.03 | 0.05 | 0.1 | |
| クアヤザノール | 0.01 | 0.02 | 0.05 | 0.1 | |
| クアヤツエチン | 0.01 | 0.02 | 0.05 | 0.1 | |

一英

| | | | | | | |
|-----------|-------|-------|------|------|------|------|
| ヨト | 0.002 | 0.005 | 0.01 | 0.02 | 0.05 | 皮下注射 |
| 姑蘇花 | 0.002 | 0.005 | 0.01 | 0.02 | 0.05 | |
| 撒里失兒酸曹達 | 0.05 | 0.1 | 0.2 | 0.5 | 1.0 | |
| 撒里失兒酸曹達 | 0.05 | 0.1 | 0.2 | 0.5 | 1.0 | |
| ザラツエトール | 0.002 | 0.005 | 0.01 | 0.02 | 0.05 | |
| ザラツエトール | 0.002 | 0.005 | 0.01 | 0.02 | 0.05 | |
| ザラツエトール | 0.002 | 0.005 | 0.01 | 0.02 | 0.05 | |
| 次那酸 | 0.005 | 0.01 | 0.02 | 0.05 | 0.1 | |
| 支那酸 | 0.005 | 0.01 | 0.02 | 0.05 | 0.1 | |
| 硝酸 | 0.005 | 0.01 | 0.02 | 0.05 | 0.1 | |
| ストロファンツス丁 | 0.005 | 0.01 | 0.02 | 0.05 | 0.1 | 日量 |
| ストロファンツス丁 | 0.005 | 0.01 | 0.02 | 0.05 | 0.1 | 日量 |
| ストロファンツス丁 | 0.005 | 0.01 | 0.02 | 0.05 | 0.1 | 日量 |
| 硝酸ストリヒニオン | 0.005 | 0.01 | 0.02 | 0.05 | 0.1 | 日量 |

内服薬ノ用量一覽

一英

| | | | | |
|------------|-------|------------|------|------|
| 抱水アミールン | 〇、〇五 | 〇、一 | 〇、三 | 〇、五 |
| 抱水格魯刺兒 | 〇、一 | 〇、二 | 〇、五 | 〇、七五 |
| パラクレゾチン曹達 | | 〇、一 | 〇、二五 | 一、〇 |
| 麥角越機斯 | | 〇、二 | 〇、五 | 一、〇 |
| ベシチン | | 〇、二 | 〇、八 | 一、〇 |
| 芳香流動ローア越機斯 | | 三歲以下一日二回五滴 | 十滴 | 十五滴 |
| 非沃斯越機斯 | 三滴 | 五滴 | 十滴 | 十五滴 |
| ヒラミド | | 〇、三 | 〇、八 | 一、〇 |
| プロモフォルム | 一滴 | 二—五滴 | 七滴 | 十滴 |
| 臭素加里 | 〇、一 | 〇、三 | 〇、五 | 一、〇 |
| フエナセチン | 〇、〇五 | 〇、一 | 〇、二 | 〇、三 |
| フオルトイ | 〇、〇二 | 〇、一 | 〇、五 | 一、〇 |
| フロモコル | 〇、〇二 | 〇、二 | 〇、五 | 一、〇 |
| 別刺敦那越機斯 | 〇、〇一 | 〇、〇二 | 〇、〇四 | 〇、〇五 |
| ハロニ | | 〇、〇二 | 〇、〇五 | 〇、〇一 |
| ハルツツシ | 一—二茶匙 | 四茶匙 | 二食匙 | 三食匙 |

内服薬ノ用量一覽

日量

一五

| | | | | | |
|-----------|--------|---------|------|------|----------|
| 柘榴根皮 | 二歲以下茶匙 | 一〇、〇 | 二〇、〇 | 三〇、〇 | 二回分服 |
| 覆方旂那漫 | | | | | 奏功ある迄 |
| 單寧酸 | 〇、〇五 | 〇、一 | 〇、二 | 〇、五 | |
| 單寧酸規尼湯 | 〇、〇一 | 〇、〇三 | 〇、〇五 | 〇、一 | |
| 單寧酸オレレキシ | 〇、〇一 | 〇、〇三 | 〇、〇五 | 〇、一 | |
| 單寧酸ヘルレチリン | 〇、二 | 〇、五 | 一、〇 | 二、〇 | 一日二回二回分服 |
| マシナルビン | | 〇、一五 | 〇、三 | 〇、五 | 日量 |
| 實芝多利斯葉 | | 〇、〇一五 | 〇、〇二 | 〇、〇三 | |
| 含糖炭酸鐵 | | 〇、〇一 | 〇、〇三 | 〇、〇五 | |
| 乳酸鐵 | | 〇、〇一 | 〇、〇三 | 〇、〇五 | |
| 還元鐵 | 〇、〇五 | 〇、一 | 〇、二 | 〇、三 | 吐劑(毎時連服) |
| 吐銅根 | | 三歲以上〇、一 | 〇、三 | 〇、四 | 吐劑 |
| 硫酒酸 | | 〇、〇五 | 〇、一 | 〇、一五 | |
| 吐石 | | 二、〇 | 四、〇 | 六、〇 | |
| 南瓜子 | | 〇、〇三 | 〇、一 | 〇、二 | |

臨床兒科醫典

一五

臨床兒科醫典

| | | | | |
|----------|---------|--------|--------|-----|
| ポドファイリン | 0.002 | 0.004 | 0.01 | |
| ポドピロトキシン | 0.001 | 0.006 | 0.01 | |
| 綿馬越機斯 | | 一五—三〇 | 三〇—六〇 | 三分服 |
| 沃度鐵舍利別 | 二滴 | 十滴 | 十五—二十滴 | |
| 含糖沃度鐵 | 0.001 | 0.02 | 0.03 | 日量 |
| 沃度加里 | 0.1 | 0.7 | 1.0 | 日量 |
| 燐酸コデイン | 0.0001 | 0.003 | 0.01 | |
| 硫酸アトロピン | 0.00005 | 0.0001 | 0.0001 | |
| 硫酸スバルテイン | 0.005 | 0.1 | 0.4 | |
| 硫酸規尼涅 | 0.005 | 0.1 | 0.4 | |
| 硫酸タルリン | 0.005 | 0.01 | 0.04 | |
| レザルドール | 0.003 | 0.03 | 0.3 | |
| ロボリン | 0.1 | 0.5 | 1.0 | |

120

附録

小兒科の領域は生下刹那の赤子より春心將に動かんとする成童の間に亘ると雖も訛謬の兒女は早已に自ら略々病苦の所在を訴へ又嬰孩の嘔たるに似ず故に兒科醫の尤も苦しむ所ものは嬰孩の病に在り是れ予が茲に嬰嘔の時代に於ける注意と特殊の生理状態と其の診断及看護の方法を叙説して本書の附録となせる所以なり讀者若し予が婆心を諒とせらるゝあらば幸之に過ぎず

第一章 生下の兒(初生兒、始孩又嘔)に對する一般の注意

die allgemeine Sorge für Das Neonatus

胎兒の發育完成して母體の産道を出るや忽ち一箇獨立の生活體となりて又其の榮養に必要な物質の供給を母體の胎盤血行に仰ぐこと能わず却て一定の生

附録 生下の兒に對する一般の注意

活嬰約の下に自ら排受せざる可らざるなり是に於てか初生兒は自ら彼れに適應する保護と榮養とを要求するの必要を生ず

初生兒の産道を出るや直ちに母の股間に於て其の顔面を上向せしめざる可らず而して其の口腔其の鼻腔に附着せる血液併に粘液をば一たび三%の「リソール」水に浸して軽く壓搾したる綿球にて拭ひ以て呼吸を自由ならしむべく又同じ綿花を用いて臉裂を拭淨すべし斯の如く處置する時は發育完全なる初生兒は直に第一回呼吸を營み音高くして力有る呱呱の聲を放つものなり然るに若し此の如くにして尙ほ呼吸を營まざる時は其臀部若くは背部を輕打して之を促す可とす

胎兒の娩出後に於ける胎盤の血量は子宮の收縮状態に従ひて一様ならず完全なる子宮の弛緩に際しては其の陰壓によりて血液の一部は兒體より胎盤に逆行し又其の一部は尙ほ未だ母體と全く連繫を斷ぜざる

121

胎兒に向て流入し臍帶の搏動止むに至る迄の間に於て大凡三〇—六〇瓦に達す

胎盤の血液を壓搾して計測するに其の充盈の度に依りて六〇瓦より百二十瓦に至るの差あり初生兒は二百—三百瓦の血液を有し其の量の多少は兒體に對して重大なる關係を有す彼の臍帶の切離を胎兒の心臓働作を始め臍帶搏動の絶止する迄遲待するは之れが爲なり然るに從來は之に關して相反對せる極端なる二派の論争行はれたり即ち甲は胎盤の排出を待ち之を壓迫し又臍帶を扱き絞りて其の血液を兒體に向て驅逐し力所及、多量の血液を兒體に收めしめんと企て乙は管に初生兒黃疸のみならず腦出血も亦胎盤血の流入によりて發するものなるが故に胎兒の娩出するや臍帶は直に結紮することなくして直に切離すべく之によりて胎兒自己の血液の幾分を失ふを以て可とし遂に此派は初生兒の耳後に一二條の水蛭を貼して得たりとする過激の徒を出すに至れり

臍帶は二個所に於て結紮し其の中間に於て切離すべし臍帶は甚だしく「ワルトン」氏酸肉 Wharton'scher Serosa に富むが故に決して單一の結紮を以て満足すべからず一切痲内に更に第二の結紮を施すべし又結紮には絹糸若くは彈力性物質を用う可らず是れ其の結紮局所を斷切して出血を來すの虞あるが故なり其の用いて尤可なるは蠶莖幅の大きさを有する麻若くは綿帶なりとす

從來世俗の習慣に依れば兒臍を距る三乃至四指横徑の部に於て臍帶を切離し其の六乃至一〇cmの索條を兒腹に残著せしむると雖切離端の長きは賞す可きにあらず長さ二cmの索條片を兒腹に残すを以て適當なりとす何となれば此殘存索條は木乃伊變性を成さずして濕性壞疽に陥り屢々吸收熱を發し又往々敗血性病機を醸し致死的轉歸を取ることあればなり臍帶は小兒生れて一二時已に沐浴を終れば直に切離して可なり切離端より後出血を來せる時は第二期結紮を

施し更に短く臍帶を切斷せざる可らず其の第一回臍帶切斷後二三日を経るも殘存索條毫も乾燥の狀なく若くは已に濕性壞疽の初徴を呈する者亦、第二期臍帶切斷を施さざる可らず而して是等の場合に在りては臍帶切斷に先ち尙ほ一回臍輪の前に於て結紮を施すべし

臍帶切斷の後は眼に對して「クルデー」氏豫防的處置 Oredes Prophylaktisches Verfahren を施さざる可らず即ち閉鎖せる初生兒の眼瞼は之を開いて三%の「リゾール」水に浸したる綿球を以て拭淨し而して後兩眼の結膜囊に二%の硝酸銀水一滴を滴入するにあり此法は産婆 Hebamme に指示して行はしめて可なりと雖其不在に際しては醫師自ら之を施行せざる可らず而して又初生兒が浴を終る迄は注意して布片若くは綿花を以て温包せざる可らず蓋し初生兒は分娩作用によりて温暖なる母體内より涼冷なる室温内に排出せられ且皮膚の濕潤によりて多量の温を奪取

附録 生下の兒に對する一般の注意

せらるゝが故に温包の注意を缺かると時は重劇なる感冒疾患に罹り易ければなり
浴湯の温度は攝氏の三十五度即ち列氏二十八度なる可とす温の高低は没入したる手を以て計測するは不可なり宜しく檢温器を用う可し「リーテル」氏 Riether に依れば手の温覺減少したる産婆の手指を以てせる湯温誤測の結果幾多の初生兒をして過熱の浴湯に浴せしめ爲めに痲痺 Convulsionen を發し遂に死に陥らしめたるものさへ之れ有りと云ふ浴湯の温度は三十五度より高きも可ならず低きも亦可ならず高きには上記の危あり低きには寒温の害あり浴の時間は三—五分なるを良しとす又浴中は其の水が小兒の眼に飛入せざる様注意すべし
初生兒の身體は血液粘液及乾酪脂に山りて汚され在るを以て温湯に浴せしむるの際無刺戟性の石鹼(炭里股林石鹼、藥用石鹼)及綿球(入浴用海綿は)を用い特に凹陷部及皮膚の間に注意して清淨にすべし

胎兒皮脂(乾酪脂) Vernix Caseosa は皮脂腺の分泌物及剝脱したる上皮より成り背部及四肢の屈曲面に多く之に反して手掌及足蹠には之を缺く是れ此の部には皮脂腺あらざればなり其の皮脂の附著甚多き者には浴前裸め豚脂若くは華搦林を擦入し之を融解軟化せしむるを可とす

初生兒已に浴を了らば温めたる布片に包みて能く乾かし特に腋窩股窩及皮皺に注意す可し是れ等の部は濕爛を起し易ければなり

上交記載の處置終れば温暖なる産室内に於て迅速精確に身長頭蓋及胸圍の計測體重の秤量を施行するの他尙ほ左記の検査を行はざる可らず

皮膚殊に手掌及足蹠の視診(紅斑 Erythema 發疹 Exanthema. 母斑 Naevi 癩痕 Narben(梅毒 Lines)の有無

顛門骨縫及頭蓋骨の觸診 (頭水腫 Caputemulans 頭血腫 Cephalhaematoma 頭蓋壓痕

大小、形狀及位置)

鼠蹊部及陰部の検査(包莖 Phimosi 尿道下破裂及上破裂 Hypo-, Epis-padie 包皮口部に於ける尿酸の沈著Harnsäures an der präputial-mündung 潜伏罌丸 Kryptorchie 陰囊水腫 Hydrocele 鎖陰 Atresia vaginae 等)

肛門及其の周圍の視診(鎖肛、藥爛)

上記の検査を遂げたる後は嚴に臍帯を防腐的に處置して浴後は滅菌棉花を以て拭乾し其の周圍には撒布薬を撒布し吸水性滅菌「ガーゼ」を以て繃隔すべし或は茲に「ブルンス」氏綿 Brunnsche Watte を用うる者ありと雖此の綿は吸収力弱く密接して水分蒸發を妨ぐるにより容易く濕性瘰癧を發せしむるの危険あり賞贅すべきものにあらず撒布薬は主として臀部、股襖、肛圍、生殖器、下腹部及頸部併に腋窩の各處に撒布し後に産衣を着せしむ
産衣は身幅狭小ならず釦子又は小鈎懸ならずして

附錄 初生兒及乳兒の生理

Impressio Crani 化骨不全 Osteogenesis imperfecta)

耳の望診(副耳 Appendices 畸形 Verbindung)

眼(瞳孔の大小形狀)鼻(鞍鼻 Jinge sattelher

Nasennicken 尖鼻 Sehnhübeln 口唇及咽頭(皮

膚破裂 Ragenlen 先天的齒牙發生 angeborene

Zähne 舌癒著 Ankyloglosson 口内炎 Stomatitis

硬口蓋破裂 Urnoselismus の検査)

頸部の觸診(甲狀腺腫 Stroma 胸鎖乳頭筋の破

裂 Ruptur des Sternonastoidens 脊柱の形態

錯骨々折(此骨折は特發)の有無)

上肢及下肢の検査(鞏硬浮腫 Sklerotem 骨の屈

折 Infraction 骨折 Fractur 脱臼 Luxationen

剩指趾及指趾癒著 Poly-, Syndaktyli 内臓足

Pes varus 外臓足 Pes Yagus 等)

肺(膨脹不全)及心(先天的疾患)の聽診

腹部の視診及觸診(臍の状態器臟殊に肝及脾の

三尺帶附なるを可とす長さは足を蔽ふて餘り有るを良しとす産衣の下には之より少しく短き襦衣を重ねせしむべし襦襦は柔軟にして刺戟せず吸収力強きものを可とす紋羽若くは鍍金木綿等を用う可し而して又枕は馬毛、綿、海藻及飽屑等を充填したる括り枕 Das Steekissen なるを適當とす

第二章 初生兒及乳兒の生理 Physiologie des

Neu geborenen und des Säuglings.

胎兒の成熟して分娩せらるる迄に要する時日は二百八十日 四十週 十陰月 Mondmonaten 九曆月 Kalendernonaten なりとす故に分娩の時期を計算するに最終月經の有りし日より三曆月を減じて七日を加ふるを常とす但し此の豫測には母氏が最初に感知したる胎動の時日を對照 Kontrolle するを可とす經驗上胎動は多くは第二十週即ち妊娠後半期の初頭より認知せらるるものなり

胎兒の尋常成熟期に達せずして娩出せらるるを早産

臨床兒科醫典

Prüfgeburt と云ひ其の第二十八週—七陰月の前に生れて未だ生育の力素を具へざるものを流産又墮胎 Fehlgeburt oder Abortus と名く

體重 Körpergewicht 成熟初生兒の體重は平均女兒三〇〇〇、〇男兒三二〇〇、〇を算す其の體重三千瓦に足らざるものは發育の充分ならざる徴にして二千五百瓦以下の者は虛弱 Dehies とす其の體重三千瓦を越ゆる者は歴々之れありと雖五千瓦以上の者は破格の強壯者とす

參考、本邦生下兒の體重は上記のものよりも少し即ち左の如し

榊氏の調査

二千八百三十五瓦

三輪氏

男兒二千八百六十五瓦

女兒二千八百六十二瓦

第一醫院小兒科

第五月 五五〇、〇

第六月 五〇〇、〇

第七月 四五〇、〇

第八月 四〇〇、〇

第九月 三五〇、〇

第十月 三〇〇、〇

第十一月 二五〇、〇

第十二月 二〇〇、〇

上記に依れば第五ヶ月の終に於て嬰兒の體重は六千二百リ十五第十二月の終に於て八千七百瓦に達す

又他の報告に依れば健康なる嬰兒は生後の三ヶ月は日々大約二五—三〇、〇次の三ヶ月は一八、〇又其次の三ヶ月は一二、〇増量し一年最終の三ヶ月は八、〇増加すと云ふ

榮養佳良なる嬰兒は生後五ヶ月にして體重倍加し第一年の終に於ては三倍に達す(上文「ブーシヤルド」)

附録 初生兒及乳兒の生理

男兒二千九百〇四瓦
女兒二千七百三十二瓦

三島氏

二千八百七十五瓦乃至三千〇四十瓦

初生兒は胎便及尿の排泄皮膚及呼吸に因る水分の損失によりて生下の四—六日は體重大凡二〇〇、〇を減耗し五—七日より増量を初め生後十日に至りて漸く分娩當時の體重に復するを常とすと雖虛弱なる者及人工榮養の兒は之よりも長く體重の減少持續す而して其の虛弱の高度なるものは體重の減耗著大にして其の回復に四—五週の時日を要す「ブーシヤルド」氏 Bonchard に依れば乳榮養の嬰兒は左の如く體重増加すと

第一月 七五〇、〇

第二月 七〇〇、〇

第三月 六五〇、〇

第四月 六〇〇、〇

氏の報告参照)然るに人工榮養の兒に於ける體重増加は殆ど常に乳榮養の兒より劣れるのみならず多くは便秘障害(便秘)を起し更に又之によりて體重の増加阻礙せらる

身長 Körperlang 歐洲初生兒の身長は平均五〇

仙米(女兒は四)なれども本邦始孩の身長は體重に同

じく之よりも短し

榊氏調査

甲表 四八、三仙米

乙表 平均 四九、二仙米

三輪氏調査

男兒 四八、八仙米

女兒 四八、一仙米

體重の少きもの即ち發育の良ならざるものに在りては身長上記よりも二—三仙米少なしとす而して身長は第一年の終に至り大約二〇仙米(一八一—二二五仙米)延長す之を月毎に計測せる成績は左の如し

第一月 約四 cm

第二月 三

第三月 二

第四月—第十二月 一一、五

頭圍 *Schädelumfang* 兩前頭結節と後頭結節との上を廻して計測す三三—三五仙米を有し第一年の終りには一〇—一二仙米を増加す三島通良氏調査本邦小兒の頭圍は左の如し

初生兒 男五〇人の頭圍平均 三三、八仙米

女四九人の頭圍平均 三二、三仙米

兩脚規を以て計測すべき頭蓋の各徑は次の如し

一、顛頂徑(畧符 B.T.) *Diameter biparietalis* 頭蓋の小横徑にして一側の顛頂側より他側の同

一點に亘る八 cm

二、顛頂徑(B.P.) *Diameter biparietalis* 頭蓋の大横徑にして一側の顛頂結節より他側の同名

點に亘る九 cm

三、前頭後頭徑即ち直徑(F.O.) *Diameter Front-*

tooccipitalis 眉間の中央より後頭結節に至る直徑なり 一一、五 cm

四、顛後頭徑即ち大斜徑(M.O.) *Diameter metooccipitalis* 顛より小顛門の近部に於ける後頭

頭的最遠點に亘る一三 cm

五、後頭下顛門徑即ち小斜徑(S.B.) *Diameter suboccipitobregmaticus* 後頭部と項部の境界より

大顛門の中央に亘る九、五 cm
以上の各徑は生活第一年の間に於て二—五 cm 増大す胸圍 *Brustumfang* 胸圍に三あり上中下是なり上胸圍とは直に腋窩の下に於て測れるもの中胸圍とは乳頭上に於て下胸圍とは季肋縁部に於て計れるものにして生下兒發育の良否を判するに當りては中胸圍尤も必要なりとす但し發育尋常の初生兒に在りては三胸圍の差は一—二仙米に過ぎずと雖も病兒殊に尙優病兒に在りては其差甚大なり
健全なる初生兒中胸圍の大きは頭圍より二仙米以上

小ならずして三十一乃至三十三仙米を有し生活第一年に於て大約十一—十四仙米増大す而して通常發育の佳良なる初生兒の胸圍は身長の中より少くとも七仙米大なりとす其の胸圍身長の中より達せざるは虚弱の徴にして半ばより大(例之胸圍の半+87% (10cm) なるは強壯の標なりとす
肩胛の幅は發育良なる兒にありて 一二、五 cm 大腿大轉子間の距離は九 cm なり
皮膚、初生兒の皮膚は嫩弱にして成人の如く外來刺戟に對する防護機關未だ發達せず即ち長毛は未だ生せず角質は纖弱にして上皮は害され易く如此にして皮膚は全く易傷性なり
皮膚の血管網は強く發育して細胞形成性の傾向を有す皮下組織には血管甚多きも未だ幼若の發育狀態を脱せず壁薄く筋層の發育弱し此の故に初生兒の皮膚は大人よりも容易く充血し又異常の細胞増殖を伴ふ炎症を發し易し

胎兒が母氏の子宮内に在りて其の體温に温められたる羊水中に浮遊し又其の動脈血によりて養はるゝ間は皮膚は何等の意義を有せずと雖も分娩によりて一たび外界に出づるや忽ち母氏の十五度羊水よりも低き産室の氣温に接觸し胎盤血行竝に至りて止み自ら呼吸し自ら酸素を攝受せざる可らざる境遇となり其の結果として體表面は強く冷却して一時劇しき收縮をなし後には血管壁の弛緩を來して強度の皮膚蒸發 *Hautperspiration* を初め血行關係の變化と共に實性虚性兩般の充血を起して以て皮膚は帶青紅色となりて弛緩し遂に漸次強度の鮮紅色と劇烈なる腫脹 *Turgescenz* を呈するに至る

初生兒紅班 *Erythema neonatum* 上文に記したる劇烈なる皮膚の腫脹を名けて初生兒紅班と云ふ此班は急劇に變じたる血行が順調に復する迄即ち五—七日間は殆ど不變に止まるも此期を過ぐれば皮膚は漸次青色となり終に又漸く初生兒黃疸の黄色に移行

す但足蹠は紅班尤強劇にして且尤長く持續し他の身體各部は已に黃色に變移するも尙暫らく暗紅色を呈す

生理的皮膚剝脱 Physiologische Desquamation 皮膚の紅班發生は皮膚の充血及表皮細胞の異常増生を來す此時や表皮細胞の角化未だ充分ならざるを以て乾濕中間の移行状態に於て落屑す殊に衣服の刺戟によりて一層剝脱を増進す彼の衣服に被包せられざる顔面に落屑の少なきは之れが爲なり落屑は生後五―六日に初まり漸次其量を減じて第二週の終に至る迄持續し四肢よりも軀幹に於て盛なり然れども手掌及足蹠の落屑は盛にして且長く持續す落屑は或は糠狀或は板狀にして虛弱なる者及病兒に於ては持續長し

初生兒黃疸 Yelersneonatrura は殆ど生理的の現象とも認めらるゝ處のものにして初生兒の八十%に發する皮膚及粘膜の黃色なり此症の發生に關しては毫も原因疾病(膽道の畸形、閉塞、肝實質の先天的

疾病先天梅毒に因する肝間質炎或は肝硬變の如き及重症なる胃十二指腸加答兒併に敗血症)の存在することなくして遲産、胎兒の位置變常例へば腎産、複胎、初産兒及虛弱なる小兒に多く發現し且位置變常の初産兒は正規分娩の經産兒に比すれば常に甚だ劇しく發黃す本症は疑もなく血液性にあらざれば肝性黃疸に屬す血液説に従へば本症は生後自ら營む呼吸の開始に由りて血液循環に著大の變化を起し之に由りて赤血球多量に崩壞し遊離せる血色素血中に於て膽色素に變化し以て析出するに由ると此の既果して是ならば赤血球の崩壞は各人必發の現象なるが故に黃疸も亦各人必發の症たるべきに只一定の%數に發現するのみなるは抑々如何なる原因に由るか此派の士は辯解して曰く黃疸の必發せざるは未だ吾人に知悉せられざる事由によりて赤血球特に多量の崩壞をなすものは黃疸を發するも其の崩壞の量少なきものは之を發せずと推想すべし然らずんば膽色素の產生

と代謝との不平衡に因るものとなすべしと蓋し腎臟細尿管は或る場合の際しては上皮の類收物を以て閉塞せられ若くは尿酸鹽の澱積に由りて胆色素の排泄を妨碍せられ以て黃疸を發現するに至ることあるを以てなり反之肝臟説によれば膽汁の血液中に澱積するに由るとなす蓋し臍靜脈の血行杜絶して肝臟に輸入する血量減少せるが爲肝臟毛細管の緊張減少して膽道粘膜高度の充血及腫脹を起し以て膽汁血中に澱滯吸收せらるゝに由ると

初生兒黃疸の輕症なるものは生後二―三日に於て現れ稀には生後第二日或は第四日に於て發するものあり甚屢々紅班の鮮紅色は漸次に橙紅色より帶青黃色を経て遂に黃疸の鈍暗な々枸櫞黃色に移行す發黃は三―五日持續し通常生後六―八日に至りて消失す然れども稀には第二週の終り迄消退せざるものあり之を黃疸の第一度とす此症に在りては其發黃只顔面、胸部及背部に限局す重症なる者即ち第二度のものに

在りては腹部及四肢の上部併に眼結膜に輕度の色を現はし八日乃至十二日持續す最重症即ち第三度の者在りては手足及眼結膜も亦強く著色し其の色十四日以上持續す尿は只重症に於て溷濁し赤色沈渣を生成す顯微鏡上の検査によれば此ものは帶黃紅色の結晶色素なれども血色素なりや將又胆色素なりや不明に屬す便は黃疸の存するにも拘らず尋常の色を有し大人の黃疸に在りては脈搏は遲徐となるも初生兒に在りては之を證明すること能はず神思の不快は只重症に於て見るのみ生後第一日の體重減少は多くは著しく其回復は遅延す毛甲及著色班、成熟したる初生兒にありては頭髪は密生し其の長さ大約二cmを有す指趾の爪甲は角化し第一指趾は長し多くの初生兒に在りては頭部、項部若くは軀幹の皮膚に形狀不正なる大赤班を見る是れ血管の擴張に因するものにして日ならずして消

尖す

彼の白色人種に存在せずして獨り本邦小兒の臀部腰部若くは背部に存する藍斑の發生原因に關しては一二の報告なきにあらざれども未だ容易に首肯し難し此斑は胎生第四ヶ月より已に之を認むることを得、大約七八歳に至りて消失す

母班は初生兒に在りては大人に於けるよりも少し是れ母班は後年に至りて發生するに由るか然らずんば初生兒時代に於ては未だ之を視るに足らざる程小なるによると解釋せざる可らず

乳腺 胎兒血行の廢絶と共に血液輸入増多の結果として男兒も女兒も共に屢々第三日乃至第四日に於て乳腺の腫脹を來して初乳類似の乳汁(乳乳 Hexennmilch)を分泌し第八日乃至第十日に於て尤旺盛となり漸次減退して三乃至四週を経て消失す

臍帶の脱落、臍帶は結紮によりて榮養液たる淋巴の輸入斷絶するのみならず「ソルトン」氏酸肉 Wiener

ions Sulze は水分の蒸發によりて乾固するを以て羊膜被の腹皮に移行する部に於て脱落す此羊膜被 Amnionhülle は通常〇、五—一cm 臍帶上へ進出し末端輪狀隆起に終る臍帶の乾固は末端に始まり四日間持續す而して其の基底に於ける脱落は外より内に向て進行し先づ羊膜脱落を始め二條の動脈之に次ぎ靜脈は尤も後れ第五—第六日に於て脱落す

臍帶脱落后に於ける臍の變化、臍帶脱落后の局部は極めて僅微の膿汁を有する小肉芽面を呈し第二週を經過すれば上皮を以て被はる而して此上皮より被覆せられたる新創面の上下二端は内腔閉塞したる臍血管の收縮により牽引せられて皮皺を形成し創面治癒の後に至れば癩痕狀凹陥を呈す謂ふ所の臍窩是なり虚弱の者、早産の兒 併に臍帶の處置不適當なる者等に在りては臍帶の脱落八日若くは夫れ以上に遷延することあるを以て從て臍窩の形成亦遷延す 皮下組織の状態、初生兒の皮下組織は能く發育し

たる脂肪組織 Panniculus adiposus を以て形成せらる是を以て顔貌及四肢は圓滿の看を呈し頸及四肢殊に下肢に於ける皮皺は密接し其の間深く没入す多數の小兒は持續的過食 Die fortgesetzte überfüllung によりて脂肪の蓄積を將來す如此飽食の兒は多く呼吸器併に消化器の加答兒性疾患に對する抵抗力弱し殊に乙者に對しては過食の爲め發生する慢性若くは反覆的消化不良によりて飽食せざる小兒よりも疾病に陥り易き傾向を有す

大額門 Die Die grosse Fontanelle 初生兒に在りては開放して長斜方形 Rhomboide を呈し前角は前頭骨より形成せられ後角は矢狀縫合(全く非常なる小兒に在りても〇、五cmの裂隙を呈すること往々之れ有り)に連續し第一年の終に至れば著しく縮少して十六ヶ月—十八ヶ月にして全く閉鎖するを常とす、然れども腦水腫、佝僂病及榮養不良の小兒に在りては其の閉鎖遅延す

附錄 初生兒及乳兒の生理

「ヘルゼツセル」氏 Henssler が四十五名の小兒に就て調査したる成績によれば二個の菱形線の中央より各反對側の同部に至る距離を計りて得たる甲乙の商を除するに二を以てせる平均直徑は左の如し

- 一ヶ月—三ヶ月の小兒 二、五一cm
- 四ヶ月—六ヶ月 三、一二cm
- 七ヶ月—九ヶ月 三、六三cm
- 十ヶ月—十二ヶ月 三、二〇cm

耳及鼻併に聲音、成熟初生兒の耳及鼻は形狀完全にして聲音は力あり「アー」若くは「エー」なる叫聲明晰にして且其の響長し

胸廓、初生兒の胸廓は比較的小にして圓柱狀を呈し前面は穹窿著しきも後面及側面は只僅微の穹窿を呈し腹部と著明の境界なし而して生後の一ヶ月は發育僅少にして座位若くは立位を取るに至りて腹腔臓器の外方に向て排逐する壓迫より免かれ一年の後歩行を營むに至りて完全の發育を爲す

臨床兒科醫典

肺及呼吸、初生兒の肺は小にして生後直に全體擴張するものにあらず此の故に強壯なる嬰兒にして已に高聲の叫號を發し生後二三週間を經過せるにも拘らず尙ほ一局部殊に前縁の膨脹不全を證明す初生兒及嬰兒醒覺時の呼吸は不正にして深呼吸は長短不定の間歇を爲す淺表呼吸と互に相變ず初學者注意して病的現象を誤る可らず睡眠中の呼吸は安靜にして正し呼吸数は初生兒に在りては一分時四十乃至五十五を算するも第一年の終に至れば二十五—三十に減ず呼吸は胸筋の筋力増加と共に四—五月の終迄は胸腹なるも其の以上三年迄は多くは腹式呼吸なりとす

心臓及血量、初生兒の心臓は地平に位置す是れ其の心尖部を腹内臓によりて壓上せらるゝに由るものにして初生兒心尖搏動の左乳線外(一—二cm)に在るは之れが爲なり胎兒血行に必要なりし臍血管及「ボタリー」氏管は内方に向て發育したる内皮下結締組織の有機化によりて閉塞せられ臍動脈は臍腔側

帶、臍靜脈及之と「アラランチー」氏靜脈管との連結物は圓靱帶及靜脈肝靱帶、「ボタリー」氏管は動脈靱帶を成す

上文の血管閉塞は生活第二週を經れば殆ど完全に成立し同時に血管變化の關係によりて無用に屬したる卵圓孔も閉塞す但此もの、確實なる有機化的閉塞は半歳の後にあらざれば成立せず

血液の循環は急速にして十二—十四秒を以て全身を一週す心跳は頻數なり脉搏は初生兒に在りては一五〇—一四〇至一ヶ月より一歳の嬰兒は一三〇—一〇〇至を算し微弱の影響(運動、叫號、吸乳等)によりて心跳の亢進を來す

血量は臍帶の切離遅徐なる初生兒に在りては大凡體量の十分の一を有するも之に反して切離急速なりし者にありては體量の十五分の一を算す

血液、初生兒の血液は赤血球に富む「ハイエム」氏(Liem)に依れば血液一立方密米中の赤血球の最多數

健康初生兒の口腔粘膜は滋潤且溫順にして粘稠ならず角齒部に相當する齒齦縁に於ては一—二密米の幅を有する膜狀粘膜皺襞を有す是れ即ち「マギート」氏 Magiot の皺襞にして吸乳の際口腔を氣密に閉塞するに要あるものなり

齒齦は屢々幽微なる截痕を示すことあり又往々已に齒牙を有して生るゝ者あり史上有名の人豪にして生時齒ありし人には「モンメット」Mohamed「ムードウイロ」第十四世 Ludwig XIV「ミラボウ」Mirabouen「ロベスコーン」Robespierre 等あり之に反して「ハンニマン」Hannibalは世を終る迄齒を生せざりしと云ふ出生時已に存する齒牙は兩下中門齒なるも尤多く其の基礎は薄弱にして動搖するもの多し若し之れ有るが爲吸乳を妨ぐる時は拔去せざる可らず通常齒牙は七ヶ月にして發生を初め二歳にして二十個の乳齒完全するものなり其の發生の普通順序を表すれば左の如し

附錄 初生兒及乳兒の生理

六百四十九萬六千個最少數四百三十四萬個なりと面して赤血球に對する白血球の數多く赤血球は成人に比すれば縋線狀をなすこと少なく又血色素は大人に較ぶれば只赤血球の多きが故に多きにあらざりして却て赤血球の各個に於ける含量の多きに因りて多し

脾臓、初生兒に在りては可なり大なりと雖普通觸診するを得ず脾臓は僅微の發育障害によりて急性或は亞急性の腫脹を發す

口唇、初生兒の口唇は屢々最表層の上皮小片をなして剝脱し其下の粘膜強く赤色を呈し往々極微の裂傷を残すことあり

口腔、生下兒の口腔は微生體を有せずと雖少時生活すれば忽ち氣中の細菌竄入して繁殖す而して一は外來の刺戟により一は血行の變化によりて口腔粘膜は生後三—十二日の間は充血及輕度の腫脹を呈し乳汁の攝取を困難ならしむることあり生理的口内炎 Physiologische Stomatitis 是なり

上顎 8. 4. 7. 3. 2. 2. 3. 7. 4. 8.
下顎 8. 6. 7. 5. 1. 1. 5. 7. 6. 8.

齒牙發生の時期は次の如し

兩下中切齒(上表の1. 1.) 六—七月
兩上中切齒(2. 2.) 七—九月
兩上外切齒(3. 3.) 七—十月
兩下外切齒(5. 5.) 兩上第一齶齒(4. 4.) 併に
兩下第一齶齒(6. 6.) 十二—十五月
上下兩角齒(犬齒)(7. 7. 7. 7.) 十六—二十一月
上下兩第二齶齒 (8. 8. 8. 8.) 二十一—二十四月

舌繫帶は一般に薄弱なる粘膜炎にして舌の自由運動を制限す

唾液腺の分泌は初生兒に在りては只口腔を滋潤するに過ぎずと雖第二月の終に至れば其の分泌多量となる糖化作用に關しては耳下腺排泄液は已に生後直に其の力ありと雖顎下腺液は第三月に至りて初めて漸く其の作用を營む

吸乳の機轉 Der Saugact は三叉神經の知覺枝に

よりて反射的に起り口唇、顎、舌、咬筋及舌と胸部併に肩胛間に於ける筋簇の補助により顔面神經、及三叉神經の運動枝によりて營爲せられ唇と顎とは乳頭に口蓋弓は咽頭後壁に接著して口腔は氣密に閉鎖せられ舌の卷縮と低下及下顎の壓によりて陰壓を生し其の陰壓作用は上下顎縁が更に母氏の乳頭上加ふる輕壓によりて助長せらるゝものとす而して吸乳運動二乃至四回の後には嚙下運動起る

胃、初生兒の胃は身長軸に併行し中線に近く位して幽門部は其最下點を成し噴門は只僅に著しくして宛も食道の單純擴張をなせるものに似たり然れども生後一年を過ぐれば漸次大人の胃と同一なる形状と位置とを取る

胃の筋肉は初生兒に在りては只僅に發育するのみ殊に噴門に於て然り而して幽門尤善く發育す粘膜炎は血液に富む是を以て刺戟せられ易し上記の胃の形状、

及筋肉發育の關係に顧みる時は嬰啞の嘔吐し易き理由を容易く了解し得べし胃腺は只僅に發育す故に大人の如く鹽酸に多からず然れ共醱酵素及「ペプシン」は比較的多く大人に比して只僅に少量なるのみ胃の受容し得る極量は「バウツンドル」氏 Paundler に從へば左の如し

年齢第一週の終り 四〇—四五立方仙米
年齢第二週の終り 四六—五〇立方仙米
年齢第三週の終り 七〇—七二立方仙米
年齢第四週の終り 七六—九〇立方仙米
年齢第一月の終り 九〇立方仙米
年齢第二月の終り 一〇〇立方仙米
年齢第三月の終り 一一〇立方仙米
年齢第四月の終り 一二五立方仙米
年齢第五月の終り 一四〇立方仙米
年齢第六月の終り 一六〇立方仙米
年齢第七月の終り 一八〇立方仙米

各論 初生兒及乳兒の生理

年齢第八月の終り 二〇〇立方仙米
年齢第十月の終り 二五〇立方仙米
年齢第十一月の終り 二七五立方仙米
年齢第十二月の終り 二九〇立方仙米

胃の運動は乳兒 Bruckind に在りては活潑なり多量に乳汁を攝取したる胃も二時間の後には已に確に空虚となる之に反して人工營養兒は長時を要す腸管、腸は大人よりも短し大人の腸は身長四に對する一の比例なるに嬰兒に在りては六と一との比を爲し淋巴に富み血液に饒なり故に刺戟せられ易く上皮は幼弱なり故に傷き易し腺裝置は未だ完全に發育せず又筋組織の發育も未だ充分ならざるにより腸の作用大人に比すれば遲鈍にして其の一部は常に瓦斯を以て集積せられ健康なる嬰兒の腹と雖屍は且膨滿す
肝臟、は比較的大にして初生兒に在りては體重十八に對する一の比例(大人に在りては三五:一)に在

り季肋線より挺出すること大約一—二cmなりとす然れども常態に在りては腹壁非常に弛緩する一二の者に於て之を觸知することを得るのみ肝は既に初生兒に在りても「グリコーゲン」を生成すべき作用を有するも其分泌物は胆汁酸に乏し是を以て腸内の醱酵を抑制する能力は大人よりも僅微なり

腸臟及腸の消化作用、 腸は已に初生兒に於て常形及正規の構造を有すと雖其糖化作用は最初の四ヶ月に於ては僅微なり反之蛋白質脂肪消化の威力は初より之を有す腸の消化は又生後の二十四時間の一部は口より大氣と共に嚥下せられ一部は浴水により肛門内に竄入せる細菌と關係を有す此細菌は胃中に於ては自己の生産物によりて胃液の總酸性度を高め而して蛋白質の百布頓化を助く胃中の瓦斯發生は多くは嚥下したる大氣に歸すべしと雖又多少細菌の同時に働くに由る腸の瓦斯發生は主として大腸桿菌 *Bacterium coli commune* 及乳酸醱酵菌 *Bacterium la-*

ctis aerogenus の醱酵作用に關す益し健康なる嬰兒の人乳及牛乳併に小兒粉によりて榮養せらるゝ間は其の腸内に於ては全く若くは殆ど全く腐敗産物を缺如するものなればなり

尿糞、 初生兒の便は「メニウム」*Mekonium* (胎兒便 *Kindspech*) より成り柔軟粘稠なる黒色或は帶綠色の無構造質 *Homogene Masse* にして臭氣なく弱酸反應を呈す胎兒便は嚥下したる羊水中の吸収せられざりし成分に由りて生成せるものにあらず腸粘膜の排泄物、 上皮及胆汁によりて生成せるものなり之を顯微鏡下に檢するに脂肪球、 剝脱上皮、 軟毛、 膽脂、 胆汁色素及所謂「メコニウム」體より成る「メコニウム」體は集團したる細胞の積敗物に胆汁色素の沈著せるものにして黃綠色の長圓形或は鈍圓多角の形體なり胎兒便の量は六〇—九〇、〇にして二—三日の間排泄せらる其第一回は出生後暫時にして來り漸次に嬰兒便の形態に移行す

初生兒の便は其榮養の種類に従ひ相異あり則ち人乳を以て養はるゝ小兒の便は黃金色糜粥様にして宛も半熟卵黃の外觀を呈し時として内に小塊或は粘液片を混ずるとあり多量の水分に富み弱き酸臭及酸性の反應を呈す稀釋したる牛乳若くは混和物なき澱粉により榮養せらる小兒の便は青白黃色にして弱き酸臭と酸性反應とを呈す

嬰兒便の新鮮なる者は八五%の水一三、五%の有機成分一、五%の無機成分より成り顯微鏡下に檢すれば腸上皮、(ムチン)膽色素、胆汁綠色素 *Biliverdin* 膽脂の結晶、結晶或は塊状をなせる脂酸及脂酸亞爾加里、乳酸石灰、幻微有機體、稀に不變の澱粉顆粒を見る

初生兒は日々三—五行、乳兒(嬰兒)は一—三行の便を通し其量、人乳兒に在りては日々攝取したる榮養分の三%重量に相當し體重每「キログラム」五四—五五の比例に在れども人工榮養兒に於ては榮養分の四—五

%體重每「キログラム」五一〇—二〇五の比例に在りて人乳兒に比すれば其の分量甚多し

嬰兒の腸瓦斯は乳酸醱酵菌の作用に由る乳糖の變化に因す嬰兒の腸管内に在りては毫も蛋白質腐敗の發起することなし是れが爲嬰兒の便も失氣も共に大人の如く惡臭を有することなし

腎臟、 初生兒の腎臟は已に蠶豆形を呈し其重量體重の一〇に對する一の比例(大人は二四〇に對する一の比例)に在り皮膚と髓質との境界は未だ明確ならず兩腎共に生後直に起る充血に由りて多くは葦花樣紅色の外觀を呈し多數の初生兒三尖體の細尿管には尿酸梗塞を生じ黃色或は赤色紫條の斷面上に火焰の如くに見ゆる者なり抑々此梗塞は出生時迄母體によりて處理せられたる胎兒生活官能の娩出後は忽ち自ら過度に活動せざる可ざるによりて兒體に強烈なる變化を來し因て以て多量なる血液成分の分解を喚起し更に之より尿酸鹽を析出し生後腎臟内皮細胞の分泌産物として

細尿管内に排泄せらるゝものなるべく生後第二日の終に於て強烈なる腎充血の状況下に析出せらるゝ之が爲、生後第二日前に死亡せる初生兒の腎臟には尿酸鹽を見る稀少なることあり早産兒は成熟兒に比すれば尿酸梗塞を生ずること屢々にして且劇し蓋し呼吸と血行との弱きに基く酸化の不全に因するものなるべし

尿及膀胱、尿排泄は已に胎兒生活間に起るものなり之れが爲若し初生兒分娩中、壓に因り又は假死に陥りて排尿せざる時は其の膀胱には大約十立方仙米の尿を保有するを見る

初生兒の膀胱は比較的長くして漏斗形を呈し底部は直に尿道に移行するも生活日を経るに従ひ漸次膀胱は殆んど球状を成し低部は壘状を呈するに至る生後第一回の尿は屢々娩出後直に來り往々生後二日を経りて初めて來ることあり而して其量は一〇—二〇、〇とす

尿量は初生兒の攝取する乳汁の量増加するに従ひて日々増量す即ち第一月の終りには殆ど三百立方仙米、第三月の終りには五百立方仙米、第五月の終りには六百立方仙米、第九月に於ては八百—九百立方仙米の尿を一日中に排泄するに至る尿酸の排泄量は大人に比すれば甚だ多し(體重「キログラム」就き尿に於ては二〇式なるに) 嬰兒の尿利は頻りにして一日十一—十二回に達す而して人工榮養兒は尙ほ之よりも繁く其量も亦多し

尿は生後の初期にありては暗色を呈するも後には水様或は淡黄色となり弱酸性に反應す然れども排出後忽ち亞爾加里性に變じ易き傾向を有す

胎兒尿の比重は殆んど一〇〇三なりと雖生後一〇—二に上昇し乳汁攝取の量増すと共に尿の稠度減じて再び一〇〇三—一〇〇六に下降し長時の間此重さに止まる人工榮養兒に在りては尿量の大なるに由り比重は之より低し

蛋白は第一週の終りのみならず第二週に至るも其尿中に現る(生理的蛋白尿 Physiologische Albuminurie) 是れ恐くは發育の未だ完全せざる腎臟に於ける交流状態の變常に由るものならん然らずんば多量に析出したる尿酸「マルヒギー」氏體細尿管の上皮に有害作用を營むに由りて起れるものならん蓋し蛋白の多少は多くは尿酸梗塞の強弱に適應す

陰部、成熟兒に在りては睪丸は皺襞多く且色素に富める陰囊の中にあり睪丸は胎生第八個月に於て已に陰囊内に降下するものなり陰莖は善く發育し屢々包皮口部に細微の黄色粉末を成せる尿酸鹽の沈着を見る是れ殊に虚弱の兒に於て多し

初生兒の女陰は脂肪に由りて充填せられたる大陰唇の接著によりて閉鎖せらるゝを常とす然れども往々生後直に白色を呈する胎胚粘液組織の陰腔より排泄するを見ることあり

神經系統及精神機關の作用 Die Tüchtigkeit des Nervensystems und der Sinnesorgane

附録 初生兒及乳兒の生理

初生兒に於ける神經系統及精神作用の如何を判断せんことは難く小兒の年齒幼稚なるに於て愈々然り何となれば初生兒は大人の如く言語及舉動によりて意思を表白することなければなり而して人は生活初期の記憶を有することなし

精神の中樞は生下時に於ては只單に純然たる植物官能(呼吸、血液循環、消化、發溫)併に無意識無目的の反射作用(眼瞼の閉鎖、噴嚏、咳嗽、吸乳、嘔下、疼痛刺激に對する四肢の退避)換言すれば延髓脊髓の反射機能成立せるのみ複雑なる腦は只僅に一般に於て愉悅及不満 Lust u. Unlust の状態を區別するのみにして思考の能力及具體の感覺を有せず其の愉悅の状態は殆んど只乳汁の攝取或は飽滿の感覺によりて生じ不満は之に反して飢餓及煩渴に由りて現るのみならず亦疼痛(痲痛)疲勞(長時の醒覺、五官器の反應を喚起すべき強烈なる刺激、過度の筋勞

働例へば緊縮過度の絞括の際に於ける呼吸筋の如き者) 及之に類似の状況に來る然して愉悅の表裏は眼瞼の開大及眼の光澤なり不滿の標徴は多少閉鎖したる眼瞼輪匠筋の收縮にして甚しき時は號泣を來す初生兒に於ける知覺機關發達の程度は未だ明瞭ならずと雖嗅覺及味覺は存在し且其の好惡を區別する力あるが如く視力及聽感に缺如せるが如し詳言すれば人の生るゝ時は聾なり外聽道の接著せると胎胚粘液組織の鼓室に充滿して大氣を缺如するとに由る然れども此の態は一時のみ嘔下作用によりて大氣は忽ち歐氏管に竄入し二十四—四十八時間の後には小兒は已に強度の音響に感じ爾後日を逐ふて聽官は鋭敏となる視感生下の後聽官よりも早く能力を現はす(Consensuelle Pupillarreaction) 然れども生後第二週に於ては眼の固定は未だ之を營むこと能はず眼球は之に關係なく且不规则に運動し屢々強度の眼幅溼

Curvatura を發して斜視と誤らしむることあり 觸覺は初生兒に於て著しく存在し殊に顔而就中口唇に於て尤著し之れが爲、初生兒は彼れの口唇に接するものは其物の何たるを問はず先づ甜舐して之れが查出 Orientierung を試みんとほするなり 痛覺は生後第二日に至る迄は殆ど缺如せるが如し而して第一週の經過中に發達す 筋覺は漸次發育するが如し生後未だ日を經る多からざる小兒は唐突なる頭の廻轉によりて母氏の胸部に接著せる口唇を以て一兩回乳頭を擦過したる後漸く吸著するにより知る可し 皮膚の反射は已に初生兒に於ても存在し膝蓋反射は生後十四日中に僅に現出す確實なる觸、視、聽の官能は生後第一月中に習練し此三官能の中樞も亦此期間に於て發達す口唇は長く最銳の觸覺として手が固有の觸覺作用を營むに至るも尙ほ其の機能を保持し外來の刺戟物は好んで尙ほ口中受容によりて試験

せらる視覺は先づ光體の認識に初まり次で動體追隨運動及調節機能の發現すると共に繪畫の觀察及認識をなし得るに至る而して之と同時に聽官は確實となり嬰兒は耳を發音體、所在の方向に向けしむ生後三月より十月に至れば小兒は認識即ち思考 *Wahrnehmung Denken* を爲すことを得詳しく言へば受容したる感覺を互に連結し此聯想中樞 *Assoziationscentren* は思考の中樞 *Gedächtnische centren* を形成し之によりて受容したる感覺を觀念界に再生し而して新に受容する感覺と比較判決することを得るものなり 言語は第一年の終り或は第二年の始に至りて營むことを得 體位、 第三月の終に至れば嬰兒は其頭を自由に擡舉し得殊に腹臥位に置かるゝ者は項筋及背筋強力に發育す第六月の終りに至れば暫時座位に在ることを得、七ヶ月を過ぐれば嬰兒は自ら起立に努む起立歩

行の開始は第二年の初め以後なりとす 體溫、 生下直後に於ける初生兒の體溫は母氏よりも攝氏の〇、五—〇、六度高く平均三十七度六分を示す而して生後は造溫及放溫の量少々に冷涼なる室中に置かれ皮膚併に肺より水分蒸發するのみならず又浴湯の影響によりて體溫は一—一、五度下降すと雖次の二十四時中に再び上昇して三十六度七分に至り營養物攝取の量増加に伴ひ第一週に於て三十七度—三十七度五分に上り可なりの長時此溫度を保有す 小兒の體溫は其年齒の幼若なるに従ひ愈々移動し易し之れが爲、日々施行の浴湯によりて大約 〇、五度下降す嬰兒の體溫は大人の如く夕に昇り朝に降ることなく却て夜間放冷影響の僅微なるによりて朝の六時に於て最高度を示す(「リ—テル」氏 *Richter*) 然れども多數の報告に従へば午前六時—八時は體溫尤低く九時—十一時には少しく上昇し正午十二時より再び下降し午後三時—四時最高度に達し小兒も亦大人

の如く體温一日二回の極點を示すものなりと體温測定の部位には腋窩、鼠蹊溝及肛門の三部あり直腸の温は他の二部より〇、五—〇、八度高し

睡眠、睡眠は嬰兒に取りては其貴き生活素たること猶ほ榮養物の如し生活未だ日を経ざる小兒にありては睡眠は只少時間、中絶せらるゝのみ二—三週を経過すれば嬰兒は吸乳時の他にも時々、須臾の間、醒覺し長するに従ひ睡眠時間短縮すと雖醒覺時よりも長く只夜間睡眠するのみならず尙ほ晝間の若干時間睡眠に消費す

嬰兒の睡眠は深くして高音及動搖によりて妨碍せらるゝことなしと雖突然なる「截り通すが如き音」[Schillete Ton]に對しては鋭敏なり

睡眠せる嬰兒は多くは背位を收り足は腹部に向て屈曲舉上し手は肘關節に於て屈曲し指を固く握りて拳を作り口若くは頤に壓著し眼瞼は固く鎖す

號泣、初生兒の號泣は不愉快なる感覺の徴にして

尤多き食需 Nahrungsbefürfniss も亦之に關す嬰兒は彼の食時前十五分早已に號泣を以て母氏に注意を與ふ此號泣は飽食に由りて直ちに鎮制するも母乳の分泌充分ならざるものに在りては嬰兒は吸乳努力に勞れて乳頭を口にしたる儘睡眠し之を口より引き去らんとすれば忽ち吸著す好し一度乳頭を棄つるも亦忽ち醒覺號泣して食需の感覺を表す然るに若し之を知らずして長く顧みざる時は嬰兒をして遂に衰弱に陥らしむることあり飢餓の他尙ほ號泣の原因たるもの(屎尿の排泄に因る不快の感、堅硬に過ぎたる糞、狭小なる衣服の緊迫、帶の結び方過緊なるもの、蚤虱、露の寒温不適、疼痛性疾患例へば中耳炎、疝痛等)あり又此の他發育佳良なる嬰兒にして徴すべき原因なく時々號泣するものあり如此ものは號泣の目的、肺を有力にし且身體運動の不足を補ふに在りと解釋し強いて厭惡すべきものにあらざると雖百方檢索、號泣の因、認むべきものなきに限りて此見解

を下すべきは固より言を俟たず

過度の號泣は有害なるものにあらずと雖、過度の號泣は虚弱家及瘦削したる兒にありては組織の弛緩に由りて臍「ヘルニヤ」若くは鼠蹊「ヘルニヤ」を成立せしむるもの危険あるを以て注意すべし

第三章 小兒病の診査 Die Untersuchung der Kinderkrankheit

小兒の診査は大人と全く其の趣を異にす嬰啞の知覺機關は未だ發達せずして存すれとも用を爲すに至らず唇舌動けども未だ言語を成さず既往を語らず現症を訴えず殊に一乃至三四歳の兒は一知半解、醫師の何たるを悟らずして猥りに恐怖號泣診査を許さず之に處する只忍耐と寛容と威嚴あるのみ是れ已に本書の總論に記せるが如し要するに小兒の診査に當りては特殊の學識を具へざる可らざるは勿論なりと雖寧ろ一瞥直に正當の斷案を下さしむる熟練を以て貴しとす

小兒の既往症は概して大人に於けるが如く重要ならず是れ一は小兒には複雑なる慢性疾患の稀有なること一は母氏の觀察は愛に溺るゝの極往々正當ならずして診査を迷路に導くの虞あるを以てなり此の故に吾人は母氏より小兒既往の病歴を聴くに際しては常に慎重の注意を以て嚴密なる論理的批判に附せざる可らず

第一 既往症 Die Anamnese

既往症の訊問は敢て一定の則あるにあらずと雖其の詳しきを得んとするは略々左の順序に従ふを可とす

氏名、年齢、住所、父の身分職業、診査の月日、

一、父母の年齢、健康、兄弟の有無併に其の健康

二、遺傳疾病の有無、早産流産の有無

三、分娩時の状況(胎位、産の難易、假死、手術等)

四、嬰啞期 榮養の種類(母乳か乳母か將) 種痘、生齒の状況、歩行、言語、發育の狀態、疾病

の有無併に其の経過

五、小兒期 精神の發育状態、嗜好の傾向、遊戲の種類、就學の時期

六、現在疾病初發の状況

- (1) 體温上昇の關係、惡寒及元氣の有無等
 - (2) 神經症狀 搐搦、痙攣、頭痛、腦性叫喚、頭首の廻轉の有無、人事不省、睡眠の状況等
 - (3) 顔貌 顔面の色澤、眼球の狀態、鼻翼呼吸、口唇の色澤搐搦等
 - (4) 呼吸器の症狀 鼻加苔兒、音聲、咳嗽、呼吸困難、胸部抱擁時に於ける號泣の有無等
 - (5) 消化器の症狀 食慾、嘔吐、腹痛、便秘の關係及性状等
 - (6) 泌尿生殖器の症狀 尿量及色澤度數、失禁、利尿時に於ける疼痛、睪丸腫脹の有無等
 - (7) 皮膚の症狀 色澤、發疹、出血、發汗、浮腫等
- 七、今日に至る迄の療養の概要

第二 現在症 Status Praesens,

小兒を診査するに際しては先づ第一に其の親善を獲んことを要す親善を獲れば信用を得べし已に親善を獲、信用を得れば相愛 Gegenliebe を享くるに難からず既に其の相愛を受く診察、治療意に隨ふて施す可く多少苦味の藥餌尙ほ且つ小兒は喜んで命を奉ず然りと雖一般の診査に際しては左の實驗的規則を遵守すべし

醫は直に手を下さず脱衣起臥等一切母氏に任せ其の間、慧眼以て所要の望診を了すべし

診断に尤都合好きは患兒の睡眠中に施行するに在り即ち先づ望診より始め顔及唇の色澤、發汗の有無、呼吸の仕方、頭の位置、額門、鼻及口に於ける運動の状況等を視察すると共に耳を用いて呼吸に於ける呻吟、箭聲、及水泡音の有無等を聴き次には尤注意して溫暖なる手を寢具の下に忍ばしめ小兒の手を捕へて脈數及脈性を檢し又呼吸數を算へ終れば被覆せ

る寢具を離轉して胸腹皮膚の色澤及其他の状況を視又胸廓及腹部の形狀を望み併せて其の呼吸に伴ふ運動の狀態を見るべし若し患兒早く醒覺して此の初級の診査をだに許さざる時は其の喧噪不安の間に於て諸多の方法を施し閃電一過眼裡に映じ來る症狀を記録判決して以て診断的支持點 Diagnostische Anhaltspunkte を設定せざる可らず是れ小兒の診断に經驗の寶き所以なり

以下小兒病の診断に必要な事項を各別に記述せむ

其の一 姿勢及體位 Haltung u. Lage.

生後一ヶ月の間は小兒は與へられたる體位に在りて變ずることなし但し下肢は腹部に向て牽引屈曲し殆んど交叉せんとするが如き位置を取り前膊は肘關節に於て屈曲し手は顔に近接す

項強直或は中耳炎等に際し頭痛甚しき時は假令睡眠中と雖、頭を後方に屈曲して強く枕へ壓入す先天性

附錄 小兒病の診査、姿勢及體位、皮色

甲状腺腫、急性喉頭炎、格魯布に在りては上記の頭位を取ると共に呼吸障礙を呈す

年長小兒殊に胸膜炎及肺疾患の輩に在りては一定の體位を取るを常とす即ち輕微の呼吸障害及劇烈ならざる疼痛に在りては炎性滲出物ある胸側即ち患側に臥すも急性劇症の胸膜炎に在りては反對側即ち健側を下にして臥す

端坐呼吸 Orthopnoe は小兒に在りては稀なりと雖長年小兒の重症心疾患の際には之を見る

腹臥は背部の疾患(「ット」氏后彎突及背部の炎症)羞明、腹痛の際に見ると雖又疾病なく説明すべき原因なくして屢々健康者に見ることあり殊に虚弱の兒に於て然りとす

關節に疾患ある時は大人と同じく屈曲す喉頭炎及喉頭水腫の呼吸困難、高熱と伴ふ敗血性傳染性疾患(急性骨髓炎、敗血性猩紅熱等)重症腦貧血、心臓麻痺の初期に在りては持続性の不安と斷え